

令和 7 年度事業報告

1.法人統括、本部事務局	P4～P16
2.地域共生センター	P17～P18
3.愛隣こども園	P19～P32
4.ガリラヤ荘	P33～P60
5.ガリラヤ久米	P61～P87

社会福祉法人 愛 隣 園

令和7年度 社会福祉法人愛隣園事業報告書

1. 法人の基本理念

「自分を愛するようにあなたの隣人を愛しなさい」

聖書 ルカによる福音書第10章27節

2 基本方針

(1) 一視同仁の支援を行います

一視同仁とは、「全ての人を平等に愛して差別をしない」との意味であり、幼少期から目に障害のあった藤田茂初代理事長が法人の基本理念に通じるものとして用いた言葉

(2) 利用者ひとり一人のニーズや意思を尊重し、常に質の高いサービスを提供します

(3) 共に支え、共に生きる地域共生社会の実現に貢献します

(4) 職員誰もが働きやすく、そして働きがいのある職場づくりを実践します

(5) 時代や社会の変化に合わせた運営の見直しを推し進め、持続的経営を目指します

3. 事業の概要

【沿革】

- ・ 1930 年（昭和 5 年） 松山市神田町(旧桂町)3 番 19 号の三津キリスト教会において
附属保育（託児）事業開始
- ・ 1949 年（昭和 24 年） 4 月 日本キリスト教団三津教会附属愛隣保育園開園
- ・ 1967 年（昭和 42 年） 8 月 社会福祉法人「愛隣保育園」の法人認可
- ・ 1972 年（昭和 47 年） 11 月 社会福祉法人「愛隣園」と名称変更
- ・ 1973 年（昭和 48 年） 4 月 現東温市松瀬川に特別養護老人ホーム「ガリラヤ荘」（定員
50 名）開設
- ・ 1977 年（昭和 52 年） 4 月 特別養護老人ホーム「ガリラヤ荘」増設（定員 80 名）
- ・ 2000 年（平成 12 年） 4 月 「ガリラヤ荘」介護老人福祉施設の指定
- ・ 2008 年（平成 20 年） 11 月 「ガリラヤ荘」東温市南方 1766 番地 1 へ新築移転
- ・ 2016 年（平成 28 年） 4 月 「愛隣保育園」松山市三津三丁目 6 番 30 号へ新築移転
- ・ 2017 年（平成 29 年） 4 月 「愛隣保育園」幼保連携型認定こども園移行により「愛隣こ
ども園」に名称変更
- ・ 2017 年（平成 29 年） 5 月 松山市久米窪田町 667 番地 1 に高齢者総合福祉施設「ガリラ
ヤ久米」開設
- ・ 2018 年（平成 30 年） 7 月 法人の主たる事務所を三津の「愛隣こども園」から久米の「ガリ
ラヤ久米」に移転
- ・ 2021 年（令和 3 年） 6 月 「地域共生センターあいりん」設置

【事業】

事業所名	施設長	所在地	定員等
認定こども園 愛隣こども園	羽藤 美知子	松山市三津三丁目 6 番 30 号	76 名
高齢者総合福祉施設 ガリラヤ荘	高橋 雅志	東温市南方 1766-1	特養 80 名、ショートステイ 20 名 デイサービス 35 名、その他居宅介護支援事業所、 在宅介護支援センター、訪問介護を運営
高齢者総合福祉施設 ガリラヤ久米	佐々木 忍	松山市久米窪田町 667-1	特養 29 名、ショートステイ 10 名、 グループホーム 18 名、介護付有料 35 名、デイサービス 18 名、その他居宅 介護支援事業所を運営

4. 理事会、評議員会等の開催

(1) 役員・評議員等

【役員：理事 6 名、監事 2 名】

理事長	佐々木信也	理 事	佐々木 忍
理 事	西川 潤子	監 事	和泉由紀夫
理 事	長谷川 寿	監 事	川中 国和
理 事	羽藤美知子		
理 事	高橋 雅志		

【評議員 7 名】

評議員	田坂 信一	評議員	杉野 寛之
評議員	二宮 秀生	評議員	西山 裕一
評議員	丹 紀代	評議員	谷 直樹
評議員	安井 重幸		

【評議員選任委員】

評議員選任委員	形上 哲也	評議員選任委員	砂子 治幸
評議員選任委員	川中 国和		
評議員選任委員	安岡 英哉		
評議員選任委員	小原 伸広		

(2) 理事会

開催年月日	出席者数		議 案
	理事	監事	
令和 7 年度 第 1 回理事会 6 月 10 日(火)	6 名	2 名	【決議事項】 第 1 号議案 令和 6 年度事業報告（案）について 第 2 号議案 令和 6 年度計算書類（決算報告）（案）に ついて —報告事項— 令和 6 年度監事監査報告について 第 3 号議案 評議員改選に伴う候補者の推薦について

			第4号議案 役員（理事・監事）改選に伴う候補者の推薦について 第5号議案 評議員選任委員任期満了に伴う改選について 第6号議案 愛隣こども園定員見直しについて 第7号議案 定時評議員会の日程及び議案について —報告事項— 1. 現況報告（本部・こども園・ガリラヤ荘・ガリラヤ久米）
令和7年度 第2回理事会 6月26日(木)	6名	1名	【決議事項】 第1号議案 理事長選任について
令和7年度 第3回理事会 11月19日(水)	6名	2名	【決議事項】 第1号議案 令和7年度第一次補正予算（案）について 第2号議案 本部会計施設整備等積立金の取崩について 第3号議案 副理事長の設置について 第4号議案 副施設長の設置及び諸規程の一部改正について 第5号議案 令和7年度第2回評議員会の日程及び議案について —報告事項— 1. 理事長の職務執行状況について 2. 指導監査結果の報告について 3. 現況報告（本部・こども園・ガリラヤ荘・ガリラヤ久米）
令和7年度 第4回理事会 令和8年 3月11日(水)	6名	2名	【決議事項】 第1号議案 令和7年度第二次補正予算（案）について 第2号議案 令和8年度理事長報酬（案）について 第3号議案 令和8年度事業計画（案）について 第4号議案 令和8年度当初予算（案）について 第5号議案 愛隣こども園給与規程の一部改正について 第6号議案 ガリラヤ荘マルチエアコンの更新について 第7号議案 運営規程の一部改正について 第8号議案 令和7年度第3回評議員会の日程及び議案について —報告事項— 1. 理事長の職務執行状況について 2. 法人指導監査結果について（令和7年12月10日実施） 3. 現況報告（本部・こども園・ガリラヤ荘・ガリラヤ久米）

(3) 評議員会

開催年月日	出席者数		議 案
	評議員	役 員	
令和 7 年度 定時評議員会 6 月 25 日（火）	5 名 欠席 2 名	理事 6 名 監事 2 名	【報告事項】 令和 6 年度事業報告 【決議事項】 第 1 号議案 令和 6 年度計算書類等（決算報告）の承認について 報告事項 令和 6 年度監事監査報告について 第 2 号議案 役員（理事・監事）改選について 【報告事項等】 1. 評議員及び評議員選任委員の改選について 2. 愛隣こども園の定員見直しについて 2. 現況報告（本部・こども園・ガリラヤ荘・ガリラヤ久米）
令和 7 年度 第 2 回評議員会 12 月 2 日（火）	7 名	理事 6 名 監事 2 名	【決議事項】 第 1 号議案 令和 7 年度第一次補正予算（案）の承認について 【報告事項等】 1. 副理事長及び副施設長の設置について 2. 本部会計施設整備等積立金について 3. 指導監査結果について 4. 現況報告（本部・こども園・ガリラヤ荘・ガリラヤ久米）
令和 7 年度 第 3 回評議員会 令和 8 年 3 月 24 日（火）	7 名	理事 6 名 監事 2 名	【決議事項】 第 1 号議案 令和 7 年度第二次補予算（案）について 第 2 号議案 令和 8 年度理事長報酬（案）について 第 3 号議案 令和 8 年度事業計画（案）について 第 4 号議案 令和 8 年度当初予算（案）について 【報告事項等】 1. 法人指導監査結果について 2. ガリラヤ荘マルチエアコンの更新について 3. 愛隣こども園給与規程の一部改正について 4. 現況報告（本部・こども園・ガリラヤ荘・ガリラヤ久米）

5. 監事監査

令和 7 年 6 月 3 日（火）に、和田政也及び川中国和の両監事により令和 6 年度事業報告及び当該年度に係る計算書類関係に基づき業務及び財務の状況について監査が実施された。

6. 本部事務局体制

局長、次長、総務企画係長 1 名、事務職員 2 名の計 5 名体制で、法人運営のほか財務会計、人事労務、企画等の事務を処理。そのほか、久米の事務職員 2 名を本部事務局兼務とし、会計及び人事労務を担当。

- ・法人運営：理事会、評議員会の運営等
- ・財務会計：決算、予算管理、財産管理、経理等
- ・人事労務：新卒採用、人事管理、労務諸規程の制定・変更等、研修、勤怠管理、給与支給等
- ・経営企画：法人全体及び各事業所の経営分析、中期経営計画の策定、その他各種企画立案

7. 会議等の開催

(1) 幹部会（理事長、事務局長、園長、施設長、地域共生センター長、事務局次長）

開催日	議 事 内 容
第1回 5月8日（火）	1. 5月及び6月の行事予定について 2. 令和6年度決算見込について 3. 7年度の会議等開催の予定について （監事監査、理事会、選任委員会、評議員会、互助会、衛生委員会、法人研修等） 4. 給与体系見直しの進め方について 5. 令和7年度デジタル化等について 6. 手持ち資金の積み立てについて 7. 安否確認システムの運用について
第2回 6月9日（月）	1. 6月及び7月の行事予定について 2. 令和6年度決算状況について 3. 留学生奨学金制度について 4. 今後の資金運用について 5. 令和7年度デジタル化に向けた取り組みについて 6. 評議員・役員等の改選について 7. 安否確認システムの運用について
第3回 7月8日（火）	1. 7月及び8月の行事予定について 2. ガリラヤ荘からの提案について 3. デジタル化について 4. 各種会議の日程調整について
第4回 8月8日（金）	1. 8月及び9月の行事予定について 2. 4月～6月の収支状況及び今後の見込について 3. 最低賃金のアップについて 4. 電気料金削減について 5. 各種会議の日程調整
第5回 9月5日（金）	1. 9月及び10月の行事予定について 2. 4月～7月分の収支状況及び今後の見込について 3. 補正予算について 4. 最低賃金のアップについて 5. 留学生奨学金制度について 6. ワイズマンのリース契約期間終了に伴う代理店変更について
第6回 10月6日（金）	1. 10月及び11月の行事予定について 2. 4月～8月の収支状況及び今後の見込について 3. 組織の見直しについて 4. ワイズマンのリース契約期間終了に伴う代理店の変更について 5. 最低賃金上昇への対応について

第 7 回 11 月 5 日（水）	1. 11 月及び 12 月の行事予定について 2. 4 月～9 月の上半期の収支状況及び補正予算について 3. 退職代行について 4. 諸規程の改正 5. 一般職員研修について
第 8 回 12 月 9 日（水）	1. 12 月及び 8 年 1 月の行事予定について 2. 4 月～11 月の収支状況及び補正予算について 3. 令和 8 年度当初予算について 4. 生活相談員の手当について 5. 非常通報装置・火災通報装置について
第 9 回 令和 8 年 1 月 6 日（水）	1. 1 月及び 2 月の行事予定について 2. 4 月～11 月の収支状況について 3. オンライン研修について 4. 令和 8 年度に向けた取り組みについて 5. その他 ・元河野小児科医院跡の利用法について
第 10 回 令和 8 年 2 月 3 日（水）	1. 2 月及び 3 月の行事予定について 2. ジョブメドレー・オンライン研修について 3. 電気料金について 4. ガリラヤ荘エアコンの更新について 5. 令和 7 年度介護分野の職員の賃上げ・職場環境改善支援事業について
第 11 回 令和 8 年 3 月 3 日（火）	1. 3 月及び 4 月の行事予定について 2. 令和 7 年度第二次補正予算について 3. 令和 8 年度事業計画及び当初予算について 4. 電気需給契約について 5. 火災保険の更新について

（2）経営会議（理事長、事務局長、園長、施設長、副施設長、事務局次長、課長）

開催日	議 事 内 容
第 1 回 7 月 8 日（火）	1. 中期経営計画及び令和 6 年度決算状況について 2. 旧河野小児科医院の活用について 3. 給与体系の見直しについて 4. プロジェクトチームの活動について 5. BCP 訓練について
第 2 回 1 月 26 日（月）	1. 令和 7 年度決算見込み及び令和 8 年度事業計画・当初予算について 2. 第二期中期経営計画の策定について 3. 令和 7 年度介護分野の職員の賃上げ・職場環境改善支援事業の概要について 4. 組織改正について

(3) 危機管理委員会

メンバー：理事長、本部事務局長、次長、各事業所施設長、部長、課長、防火管理者等

開催日	議 事 内 容
9月29日(月)	南海トラフ地震を想定したBCP訓練 訓練概要 ・訓練想定：明け方4時に震度7クラスの地震が発生 ・実施内容：安否確認システムによる情報のやり取り、災害対策本部の設置、備蓄品の確認等

(4) ガリラヤ荘・ガリラヤ久米安全衛生委員会合同会議（安全衛生委員会メンバー）

開催日	議 事 内 容
9月3日(水)	1. 令和6年度健康診断及びストレスチェックの状況について 2. 労災及び休暇等の状況について 3. 令和7年度の取組方針について 4. 松山労働基準監督署の安全パトロール実施状況について

8. 事業収支及び資産の状況

【資金収支計算書】

(単位：千円)

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 事業活動収入	1,143,935	1,192,252	1,275,848	1,291,367
② 人件費	827,234	835,305	852,231	867,121
③ 人件費率	72.3%	70.1%	66.8%	67.1%
④ 事業費等	302,222	307,388	325,845	318,604
⑤ 経費率	26.4%	25.7%	25.5%	24.7%
⑥ 事業活動支出	1,129,457	1,142,693	1,178,076	1,185,725
⑦ 事業活動資金収支差額(①-⑥)	14,478	49,559	97,772	105,641
⑧ 収支差額率(⑦/①)	1.3%	4.2%	7.7%	8.2%
⑨ 施設整備等資金収支差額	▲83,529	▲83,106	▲66,712	▲78,469
⑩ その他の活動資金収支差額	14,946	46,219	▲5,987	2,463
⑪ 当期資金収支差額	▲54,105	12,672	25,073	29,635
⑫ 前期末支払資金残高	660,978	606,873	619,545	644,619
⑬ 当期末支払資金残高	606,873	619,545	644,618	674,254

【事業活動計算書】

(単位：千円)

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 介護保険事業収益	1,008,564	1,047,293	1,102,302	1,111,702
② 保育事業収益	131,414	139,300	167,610	174,020
③ その他	542	1,801	969	108
④ サービス活動収益計	1,140,520	1,188,394	1,270,881	1,285,830
⑤ 人件費	808,310	826,260	856,258	874,848

⑥	事業費	177,806	176,664	180,198	179,622
⑦	事務費	111,432	117,618	132,895	126,674
⑧	利用者負担軽減額		267	42	0
⑨	減価償却費	105,944	93,515	83,869	82,049
⑩	国庫補助金等積立金取崩額	▲27,788	▲25,179	▲25,206	▲24,506
⑪	サービス活動費用計	1,175,704	1,189,145	1,228,056	1,238,687
⑫	サービス活動増減差額	▲35,184	▲751	42,825	47,143
⑬	サービス活動増減差額率 (⑫/④)	▲3.0%	▲0.06%	3.3%	3.7%
⑭	サービス活動外収益計	5,103	5,783	8,493	7,294
⑮	サービス活動外費用計	12,983	12,840	12,710	12,308
⑯	サービス活動外増減額	▲7,880	▲7,057	▲4,216	▲5,014
⑰	経常増減差額 (⑫+⑯)	▲43,064	▲7,808	38,608	42,129
⑱	経常増減差額率 (⑰/④)	3.8%	▲0.7%	3.0%	3.3%

【資産・負債の状況】

(単位：千円)

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
① 流動資産	667,976	695,803	721,575	732,835
② 固定資産	1,976,825	1,882,732	1,816,186	1,745,635
③ 資産合計	2,644,801	2,578,535	2,537,761	2,478,470
④ 流動負債	185,794	186,507	186,001	170,146
⑤ 固定負債	1,540,337	1,463,295	1,386,422	1,310,362
⑥ 負債合計	1,726,131	1,649,803	1,572,423	1,480,508
⑦ 純資産	918,670	928,732	965,338	997,961
⑧ 流動比率 (①/④)	359.5%	373.0%	387.9%	430.7%
⑨ 純資産比率 (⑦/③)	34.7%	36.0%	38.0%	40.3%

9. 法人借入金状況

(単位：千円)

事業所	借入先	利率	期首残高	当期借入額	当期償還額	期末残高
愛隣こども園	福祉医療機構	0.75%	85,808	0	4,152	81,656
	福祉医療機構	0.05%	20,832	0	1,008	19,824
	伊予銀行	0.65%	24,070	0	1,140	22,930
	小 計		130,710	0	6,300	124,410
ガリラヤ荘	福祉医療機構	1.80%	21,040	0	5,260	15,780
	伊予銀行	0.40%	340,616	0	24,768	315,848
	愛媛銀行	0.40%	48,890	0	3,540	45,350
	小 計		410,546	0	33,568	376,978
ガリラヤ久米 (有料含む)	福祉医療機構	0.95%	378,312	0	17,196	361,116
	愛媛銀行	0.45%	496,400	0	22,200	474,200
	小 計		874,712	0	39,396	835,316
合 計			1,415,968	0	79,264	1,336,704

10. 主な固定資産取得及び備品等の購入、修繕費の状況

(単位：円)

区 分	内 容	金 額
愛隣こども園	軽自動車（トヨタピクシスバン） 1,500,000 円 ノートパソコン（3台） 597,300 円 おさんぽ車 158,950 円 空気清浄機 162,800 円 ロレットカート（2段5個） 511,940 円 JUKI ミシン 117,700 円 絨毯 242,000 円 保育マット 237,600 円	3,528,290 円
ガリラヤ荘	冷凍庫（1台）、冷蔵庫（2台） 1,023,000 円 ミーティング録音機器 163,350 円 電解水素水整水器 352,000 円 ルーター等設置費用 776,600 円 LAN 配線等費用 561,000 円 レッドコード設置費用 1,839,640 円 コグニバイク設置費用 1,104,180 円 天井走行型リフト設置費用 850,740 円 介護用ベット購入費用 239,600 円 ケアシェルパ（10台）設置費用 2,321,000 円 浴槽用塩素滅菌ポンプ更新費 352,352 円 中古ノートパソコン（10台）購入費 411,940 円 自動水栓電気温水器交換費用 141,240 円 水栓器交換費用（2個） 196,482 円 電気温水器減圧弁修理費（10台） 213,807 円 浴槽用循環ポンプ修理費 292,600 円 居室トイレ交換費用 169,400 円 玄関自動ドア修理費 418,000 円 エレベーター修理費 154,000 円	11,580,931 円
ガリラヤ久米 （有料含む）	ミーティング録音機器 163,350 円 居室エアコン取替 164,890 円 コグニバイク設置費用 1,104,180 円 ドラム式洗濯機 140,899 円 コールマット・コードレスアイホン 173,755 円 特浴用担架 134,640 円 浄化槽原水ポンプ 132,000 円 特浴リモコン交換修理 121,550 円 リビングエアコン修理 161,370 円 フロアー修繕費 163,350 円	2,459,984 円
合 計		17,569,205 円

11. 職員の状況（令和7年3月31日現在）

（1）職員配置

（単位：人）

区 分	本 部			愛隣こども園			ガリラヤ荘			ガリラヤ久米			合 計		
	期首	期末	増減	期首	期末	増減	期首	期末	増減	期首	期末	増減	期首	期末	増減
正規職員	3	3	±0	17	16	-1	68	71	+3	56	56	±0	144	146	+2
準職員	3	3	±0				47	48	+1	24	22	-2	74	73	-1
非常勤/パート				13	15	+2							13	15	+2
合 計	6	6	±0	30	31	+1	115	119	+4	80	78	-2	231	234	+3

※ガリラヤ久米の留学生アルバイトは含まず。

（2）職員構成（職種、事業所別）

（単位：人）

区 分		本 部	こども園	ガリラヤ荘	ガリラヤ久米	計
施設長・局長・ 園長等	正規職員		1	1	1	3
	準職員/パート	1				1
統括部長・ 次長	正規職員			1	1	2
	準職員/パート	1				1
事務職員	正規職員	3		3	2	8
	準職員/パート		1			1
保育教諭	正規職員		13			13
	準職員/パート		12			12
生活相談員	正規職員			3(2)	4(1/副施設長業務)	7(3)
	準職員/パート	1				
計画作成担当者	正規職員				(1)	(1)
介護職員	正規職員			54	40	94
	準職員/パート			28	14	45
看護職員	正規職員			4	4	8
	準職員/パート			9	4	13
主任介護支 援専門員	正規職員			1(1/副施設長業務)	2	2(1)
	準職員/パート					
介護支援専 門員	正規職員			2(4)	1	5(4)
	準職員/パート			2		2
機能訓練指 導員	正規職員			1(1)	(1)	1(2)
	準職員/パート			(4)	(1)	(5)
管理栄養士	正規職員			1	1	2
栄養士	正規職員					
	準職員/パート					
調理員	正規職員		2			2
	準職員/パート		2			2
用務員等	準職員/パート			9	4	13

合 計	正規職員	3	16	71	56	146
	準職員/パート	3	15	48	22	88
	派遣				2	2
	嘱託		3	3(4)	1(4)	11※兼務4名

注) 兼務職員については、主たる職務へカウント

(3) 離 職 率 (1年間の退職者数を年度当初の在籍者数で割ったもの)

区 分	当 初	退職者数	7年度離職率	6年度離職率	5年度離職率
愛隣こども園	30	1	3.3%	10.0%	11.1%
ガリラヤ荘	115	8	7.0%	9.5%	5.2%
ガリラヤ久米	80	8	10.0%	14.8%	11.8%
本 部	6	0	0.0%	0.0%	60.0%
法人合計	231	17	7.4%	11.3%	9.0%

※派遣・嘱託職員は除く

(4) 年齢構成・男女の比率

区 分		～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70 歳～	合 計
男 性		0	6	3	16	10	7	5	47
女 性		0	22	30	53	41	28	13	187
合 計		0	28	33	69	51	35	18	234
割 合		0.0%	11.9%	14.1%	29.4%	21.8%	15.0%	7.8%	100%
男女比	男	0.0%	21.4%	9.1%	23.2%	19.6%	20.0%	27.8%	19.8%
	女	0.0%	78.6%	90.9%	76.8%	80.4%	80.0%	72.2%	80.2%

※最高齢：78歳(2名) ※嘱託職員は除く

(5) 職員平均年齢、平均勤続年数(派遣・嘱託職員は除く)

・高齢部門 職員平均年齢

区 分	正職員		準職員		全 体	
	人 数	平均年齢	人 数	平均年齢	人 数	平均年齢
介護職	97	42.5	39	53.3	136	47.9
看護職	8	54.2	13	60.8	21	57.5
介護支援専門員	7	54.0	2	55.4	9	54.7
相談員	8	45.6	1	78.0	9	61.8
その他	13	52.1	15	67.1	28	59.6
計	133	49.7	70	62.9	203	56.3

※相談員・介護支援専門員については、兼務職員もカウント

・子育て部門（愛隣こども園）職員平均年齢

区 分	正職員		臨時・パート職員		全 体	
	人 数	平均年齢	人 数	平均年齢	人 数	平均年齢
保育教諭	13	35.0	12	43.9	25	39.5
看護師						
調理員	2	46.1	2	51.7	4	48.9
その他	1	61.1	1	40.1	2	50.6
計	16	35.6	15	33.9	31	34.7

・平均勤続年数

高齢部門 : 8年7カ月

子育て部門（愛隣こども園）: 11年6カ月

全体 : 10年0カ月

12. 外国籍職員の現況

- ・ベトナム国籍 1名（ガリラヤ久米グループホーム勤務 副主任）
- ・フィリピン国籍 8名（特定2名、技能実習生6名）
- ・中国籍 1名（留学生：河原医療福祉専門学校2年生、来春入職予定）
- ・ネパール籍 2名（留学生：河原医療福祉専門学校2年生、来春入職予定）

13. 職員研修

各事業所では、職員の保育や介護技術のスキルアップを目指して外部研修に積極的に参加するほか内部での専門研修をきめ細かく実施しているほか、福祉を取り巻く厳しい環境の変化に対応していくためには、これらの専門研修に加えて、以下のとおり組織運営のマネジメントスキル向上を目指した階層別研修などにも取り組んでいる。

○管理職研修

日時 : 令和7年9月25日（水） 13時30分～15時40分

参加者 : 理事長、園長、施設長、地域共生センター長、部長、課長、主幹保育教諭、係長等25名

講師 : 石崎隆志氏（株式会社メディカグループ代表取締役）

テーマ : 「県内の介護事情から見える今後の社会福祉法人の在り方」

○ネクストリーダー研修

日時 : 令和7年10月28日（火）13時30分～16時30分

参加者 : 中堅職員 12名

講師 : 天野淑子氏（一般社団法人スキルドエヒメ代表理事・ジョブカフェ愛媛 専任講師）

テーマ : リーダーのコミュニケーション

～前向きに主体的に仕事に取り組む～

○一般職員研修

日時 : 令和7年11月17日（月）13時30分～16時30分

参加者 : 一般職員 11名

講師 : 天野淑子氏（一般社団法人スキルドエヒメ代表理事・ジョブカフェ愛媛 専任講師）

テーマ : 上司・部下に信頼されるコミュニケーション

○BCP 研修（訓練）

日時：令和7年9月29日（月）13時30分～15時00分

参加者：法人本部（6名）、愛隣こども園（園長他全職員）、ガリラヤ荘（施設長他15名）、ガリラヤ久米（施設長他16名）

目的：南海トラフ地震を想定した安否確認システム訓練の実施と評価

1.4. 本部事務局の状況

- ▶主な取組みとしては、経営会議や幹部会の開催により、法人運営の円滑化を図るとともに、人事労務に係る業務については、新たな勤怠管理システムと給与ソフト（給与明細の電子化等）を導入し、ペーパーレス化を推進する一方、会計事務については、経営方針を定める際の重要な指針となる会計データを迅速に整理し、各種会議等へのタイムリーな提供を心掛けた。
- ▶また、本部事務局の本来業務は企画管理業務にあることを常に意識し、今後は、人事労務・会計等の的確な事務処理はもとより、特に、法人全体を俯瞰した企画管理業務の処理能力を高めるため、事務局職員個々のスキル・専門性の向上を図っていきたいと考えている。また、令和8年度は、施設の窓口である事務職員については、外部講師を招き接遇を中心に研修を行う予定。

▶事務局会議（事務局長、次長、事務職員）

開催日	議 事 内 容
第1回 7月14日（月）	1. 令和7年度の主な取り組みについて ・ 令和6年度決算状況 ・ デジタル化の推進 ・ 外国人雇用 ・ プロジェクトチームの活動 2. 中期経営計画の目標 3. 今後の課題について ・ 本部事務局の機能強化 ・ 会計の一元化 ・ 電子帳簿保存法 4. ガリラヤ久米経費見直しについて ・ おしぼりタオル、公用車のガソリン代（給油所の変更）

Ⅰ. ガリラヤ荘の取り組みについて

ほっこり喫茶の内訳			在宅介護支援センター	地域諸集会の参加
年 月	デイサービス利用者	地域住民および面家族		
R7 4月	ほっこり喫茶(6回) (76人)	家族 (5人) 地域住民 (4人)	・機関紙「おげんきですか」第13号発行(4月) 新年度 高齢期の暮らしどうなる ・えがお食堂（新緑の美しい景色を堪能して、郷土文化に関わる歴史を学びましょう！） 5月23日（金）9:30～13:30 利用者3名、スタッフ7名 ガリラヤ荘⇒農林水産研究所農業研究部花き研究指導室⇒東温市立歴史民俗資料館⇒ガリラヤ荘会議室にて昼食	・5月24日（土）にじいろの会参加 ・7月12日（土）にじいろの会参加 道後友輪荘 ・7月14日（月）認知症の人と家族の会の「つどい」に参加:愛媛県在宅介護研修センター ・8月11日（月）にじいろの会参加 総合福祉会館 ・8月18日（月）認知症の人と家族の会の「つどい」に参加:愛媛県在宅介護研修センター ・9月20日（土）にじいろの会参加 認知症月間（大街道にて街頭活動） ・10月～12月は欠席 （業務繁忙のため） ・12月8日（月）認知症の人と家族の会の「つどい」に参加:愛媛県在宅介護研修センター ・1月11日（日）虹色の会に参加 いよてつ高島屋7階
R7 5月	ほっこり喫茶(6回) (81人)	家族 (4人) 地域住民 (3人)		
R7 6月	ほっこり喫茶(6回) (82人)	家族 (2人) 地域住民 (3人)	・機関紙「おげんきですか」第14号発行(7月) 日本では2人に1人ががんに罹患する？	
R7 7月	ほっこり喫茶(6回) (89人)	地域住民 (4人)		
R7 8月	ほっこり喫茶(6回) (93人)	家族 (3人) 地域住民 (6人)		
R7 9月	ほっこり喫茶(6回) (99人)	地域住民 (4人)	・機関紙「おげんきですか」第15号発行(10月) 防災について考えてみませんか	
R7 10月	ほっこり喫茶(6回) (106人)	地域住民 (5人)		
R7 11月	ほっこり喫茶 (6回) (104人)	地域住民 (2人)		
R7 12月	ほっこり喫茶(6回) (99人)	地域住民 (3人)		

R8	1月	ほっこり喫茶(6回) (100人)	地域住民 (2人)	・機関紙「おげんきですか」第16号発行(1月) 2026年 (令和8年) 午年特集 午年生まれの年男・年女全員集合!!
R8	2月	ほっこり喫茶(6回) (109人)	地域住民 (2人)	おとこ塾とえがお食堂の共同イベント (2月15日 (日)) テーマに沿って話し合い
R8	3月	ほっこり喫茶(6回) (105人)	特養入居者 (1人) 地域住民 (6人)	

具体的取組について説明

①えがお食堂は、年度内に2回実施している。1回目は令和7年5月23日実施（詳細は上記の表を参照）

2回目の実施は令和8年2月15日（日）11：00～13：00 ガリラヤ莊デザイナーズにて「おとこ塾とえがお食堂の共同イベント」として行った。地域住民5名とスタッフ14名で3つのグループに分かれてグループワークに挑戦。「価値観の類似性と多様性」というテーマで個人の意見・考え方を尊重しつつグループ全体の考えをまとめて発表。他のグループの違いも理解していく。また、クイズにも挑戦するなどグループワークを1時間ほどしてから食事時間。

食事は昭和の時代にタイムスリップして鍋3種類の屋台、餃子と飲茶の屋台、カラオケ歌い放題のスナック、射的のコーナーもあり、大変盛り上がった。（おげんきですか17号を参照）

食事は元気の源となるので、参加者が楽しく食事ができるように工夫を凝らしていく。『一人ではないよ。楽しい明るい地域だから安心して今の生活を続けていきましよう!!』と応援していきたい。

②「ほっこり喫茶」は、年間の利用者数は昨年に比べると1割ぐらい減ってきている。地域住民の利用者はだいたい3人～4人だが、そのうちの2名がデザイナーズの利用につながった。

経営的には赤字にならないよう工夫し、薄利多売で一人100円で続けていきたい。

③地域の諸集会について

にじいろの会は若年性認知症の方と家族を対象にした集まり

虹色の会は若年氏認知症に特化せず、高齢期の認知症の方と家族を対象にした集まり

II. ガリラヤ米の取組について

年 月	日 (曜日)	タイトル	参加者	スタッフ	内 容
R7	4月 17 (木)	ミニふらりカフェ	4人	1人	口腔体操とがんの体験談を語る
R7	5月 15 (木)	ミニふらりカフェ	1人	2人	今西さんの健康談義
R7	6月 8 (日)	第9回ふらりカフェ	13人	7人	暑い夏を乗り切る準備をしましょう！
R7	7月 17 (木)	ミニふらりカフェ	2人	3人	
R7	8月 14 (木)	ミニふらりカフェ	4人	3人	
R7	9月 7 (日)	第10回ふらりカフェ	6人	7人	猛暑でヘトヘトになっていませんか？ 身体をリフレッシュするためにも身体を休める技術を習得しませんか。
R7	10月 16 (木)	ミニふらりカフェ	1人	2人	宇宙の話（人がたくさんいたらいいたいことも言えないので少ないほうが楽しい）
R7	11月 20 (木)	ミニふらりカフェ	0人	—	
R7	12月 7 (日)	第11回ふらりカフェ	8人	8人	寒さを乗り切るために元気な体づくりをしませんか？
R8	1月 15 (木)	ミニふらりカフェ	3人	3人	愛媛新聞の【四季録】の執筆担当を長いことやられた方が初めて参加、その方の話題で盛り上がる
R8	2月 12 (木)	ミニふらりカフェ	3人	2人	戸嶋さんと今西さんが10年ぶりぐらい会い、なつかしさとうれしさで次回も会う約束をする。
R8	3月 8 (日)	第12回ふらりカフェ	14人	7人	あたたかい春です自律神経を整えて楽しい春を迎えましょう。 初めての参加者が3人

祖母と一緒に8歳の女の子が参加

一緒に体操をしたり、アンケート配付の手伝いを率先してやってくれた

取り組みについての補足説明

ミニふらりカフェとは、ふらりカフェがない月に予約なしで参加でき午後3時から5時まで開催している。

以前はテーマを決めて（オーラルフレイルとは、コグニサイズとは……）、コーヒーを飲みながら一緒に運動等をしていた。今は、そういう堅苦しいことより、ワイワイにぎやかに楽しくお話しをする時間になっている。一人暮らしの方もおられ、普段はテレビに向かってしゃべっているとのこと。ここにきてみんなどと一緒にお話しすることに意義があり、参加者が0人や1人でも続けていきたい。

ふらりカフェは、施設周辺の地域にポスティングして、参加希望者は申し込み込みが必要になる。上記の表からは暑い時期（9月）と寒い時期（12月）は参加者が少ないのが読み取れる。今後、送迎を希望する人に対応することも必要になってくるのではと考えられる。

2025年度(令和7年度)事業報告

愛隣こども園

1. 保育・教育の目的

キリスト教主義の保育・教育理念、方針、目標に基づき、松山市より委託された乳幼児を下記の法において保育・教育をおこなった。

記：児童福祉法第39条を目的とし、児童福祉施設最低基準
第5章第32条より第36条を遵守した。

理念 多くの賜物を与えられて誕生した子どもたちを、ひとりひとり大切にみつめつつ保育及び教育
することで他者と共に生きることのできる子どもに育てる。
「自分を愛するように あなたの隣人を愛しなさい」(聖書のことばから)

方針 1「地域の人々と共に」 過疎化が進み高齢者が多くなりました。地域の人々と共に交流し、
保護者の家庭を含めて共生する使命があります。
2「基本的習慣を身につけ養う」 他者と心をつなぐ道です。それは他者の人格を尊び、
人権を大切にすることを育てることであります。

目標 1. 基本的生活習慣を身につけよう。
2. 他の子どもとともに生きる子どもになろう。
3. 自分を豊かに表現できる子どもになろう。
4. 主体的に活動できる子どもになろう。

2. 児童数

2025年度は、定員66名に対して80名でスタートする。しかし2025年度より定員超過(定員の120%)
の期間が5年より2年になったことで当園も定員超過減算の対象となった。減算の解除は定員の見直し
しか方法がないので、2025年8月から保育園枠の定員を60名から70名に変更し、幼稚園枠と合わ
せて76名とした。そのことにより、0歳児を中心に未満児を途中入園という形で受け入れることができ
最終園児数が86名となる。

2026年3月31日現在

月	0歳児 3号	1歳児 3号	2歳児 3・2号	3歳児 2号 1号	4歳児 2号 1号	5歳児 2号 1号	合計 3・2号 1号	総合計	備 考
4月 5月	4	12	15	15 3	13 3	15 0	74 6	80	内、新入園児11名
6月 8月	5	12	15	15 3	13 3	15 0	75 6	81	0歳児1名 入園
9月 10月	6	12	14	15 3	13 3	15 0	75 6	81	0歳児1名 入園 2歳児1名 転園
11月	7	13	14	15 3	13 3	15 0	77 6	83	0歳児1名 入園 1歳児1名 入園
12月	8	13	14	15 3	13 3	15 0	78 6	84	0歳児1名 入園
1月 2月	9	13	14	15 3	13 3	15 0	79 6	85	0歳児1名 入園
3月	10	13	14	15 3	13 3	15 0	80 6	86	0歳児1名 入園

3. 職員数

産休からの育休取得者が前半に3名、1月に1名と計4名が取得する。その中、保育関係は3名採用することができたので職員を配置することができた。看護師が急遽12月末で退職となったが、大きな影響もなく職員たちで補い合うことができた。なかなか計画的に採用することができないのが現状である。

月	園長	保育教諭			看護師	保育補助			調理員			事務員	合計			備 考
	正規	正規	臨時	パート	正規	臨時	パート	正規	臨時	パート	臨時	正規	臨時	パート		
4月 5月 6月	1	22			1	1		4			1	30			保育教諭の内、正規1名採用 保育教諭正規1名産休(4月12日～) 保育教諭臨時1名産休(6月21日～) 保育教諭正規1名産休(7月13日～)	
		13	5	4	1		1	2	1	1	1	17	7	6		
7月	1	22			1	1		4			1	30			保育補助パート1名、7月より臨時へ変更	
		13	5	4	1	1		2	1	1	1	17	8	5		
8月 9月 11月	1	22			1	2		4			1	31			保育補助臨時1名、8月1日採用	
		13	5	4	1	2		2	1	1	1	17	9	5		
12月	1	23			1	2		4			1	32			保育教諭臨時1名、12月1日採用	
		13	6	4	1	2		2	1	1	1	17	10	5		
1月 2月 3月	1	23			0	2		4			1	31			看護師正規1名、12月31日退職 保育教諭正規1名、1月6日より産休	
		13	6	4	0	2		2	1	1	1	16	10	5		

4. 保育・教育内容について

- ・ 0歳児は、4月に4名でスタートし在園児の弟、妹が途中入園ができるよう計画的に取り組んだ。子どもたちが慣れたころに新しい子が入園してくるという感じだったので新入園児にじっくり関わることができ、ゆったりと過ごすことができたと感じている。個々への愛着関係もしっかり築くことができた。12月末で看護師が退職したため、職員配置にゆとりがなかったが、様々な職員が気にかけて、クラスに入ったりすることで子どもたちや保護者を不安にさせたりすることなく過ごすことができた。0歳児といっても、月齢に差があったり、発達も個々に違うのでそれぞれに合わせた働きかけを大切にし保護者と成長を共有しながら保育を進めることができた。
- ・ 1歳児は、活発な男の子が多く、思うようにならなかったら手がでたり、大きな声で泣いて訴えたりすることがよく見受けられた。どのようにクラスを運営したら良いか悩みながら進めた一年であった。保育士間の連携も前半はお互いが遠慮し合ったり、思いを共有することが充分でできずにいたので主幹保育教諭が入って改善を試みた。思うほどの成果はでなかったができるだけ話し合いをし、日々の保育の進め方や子どもひとり一人への接し方など共有するようにした。後半、いやいや期が見られる子もいたが、保育士同士声をかけ合いリーダー、補助、環境設定を担当するなどその時々で声をかけることにより子どもたちも活動への流れがわかりやすくなったようだ。言葉がまだ充分でない分、手がでたり、泣いて訴えたりすることが多く見られる。その都度どうすることが望ましいか働きかけを丁寧にするのを心がけた。
- ・ 2歳児は、1歳児の時はあまり見られなかった自我が芽生えてきて自分の思いを表現する子が増え、活発なクラスになってきたのを感じる。控え目だった子も友だちの真似をして自分から色々表現する姿も見られた。職員配置は15名に3人の常勤をつけたことによりゆとりはあったものの、3名とも家庭との両立であったので、時間内に仕事が進むよう相談しながら効率を考えて取り組んだ。後半は、年少にあがることも考慮して2名の担任で保育ができるように少しづつ、活動内容や働きかけを考えて取り組む。また、発達的に療育を利用したほうが良いと思われた保護者への働きかけを丁寧に行

い利用へと繋げることができ、少しずつ効果も見られた。

- ・ 3歳児はベテランと持ち上がりの若手、障害児担当の3名を配置した。障害児との生活も3年を超え保護者も含めクラスの中にいるのが当たり前になっていることを嬉しく思う。クラスの雰囲気は自分の思いや考えをしっかりと主張する子が多く、ひとり一人の思いを聞くことに時間が取られ、クラスの活動が十分にできなかつたり、待たされたりすることがあったことを反省する。個別対応を丁寧にする事の大切さとクラスの活動を進めていく難しさを感じることも多かった。若い職員が3年間持ち上がったが、保護者の思いと園長の思いがずれていたことを反省する。2026年度はそのことも踏まえ職員の配置をした。
- ・ 4歳児は、療育を受けている子が4人ということで、2人の職員を配置した。2人担任ということで、ひとり一人に丁寧に関わることができた。担任のそれぞれの視点から子どもの姿を捉えることができ多面的に理解を深めることができた。気づきにくい子どもの成長や変化、思いに対して互いに意見を出し合うことで新しい気づきにもつながった。一方で保育者同士のやり取りの中で、伝えた内容や意図の受け取り方に認識の違いが生じる時があった。改めてそれぞれの考えを確認することの大切さを感じた。担任の2人が得意分野と不得意分野が似ており、補い合うことが、難しいと感じる活動もあった。行事等年長児と一緒にする中、年長児の担任に早めに声をかけてもらったり、不得意な分野は補ってもらったりと助けられることもありながら取り組んだ。
- ・ 5歳児も配慮を必要とする子が4人ということで2人担任の形をとる。教育相談、療育との連携を園長が主になって保護者に説明し、子どもにとっての就学へのアドバイスを丁寧に行うことができた。担任それぞれ、考え方や子どもたちに対する働きかけ方、接し方の違いがあったが、その都度お互いに話をしながら日々の保育、教育を行うことができた。行事に関しては子どもたちも様々なことを経験し、成長を感じることもできた。早めにとりかかることはできたが、日々の積み重ねやもう少し計画的に進められたこともあったと反省する。大人の目が行き過ぎ子どもたちの中で解決できることも保育者に頼り過ぎる場面があったり、また、反対に日頃の様子から汲み取ることができなかつた。子どもたちの困りごとなど保護者から伝えられてわかることもあり、気づきの難しさも感じた。後半はひとり一人のやりたい思いや、友だちと一緒に取り組む姿勢など個々の育ちを保護者と共有することができた。

5. 保護者との連携

2025年度も見学時から当園の理念や方針を伝え、理解して入園をしてもらっていることで、保護者連携や共通理解は得られていると感じる。特に2025年度積極的に取り組まなければならなかったことは保護者支援である。行政の援助を受けられるよう窓口になったり、愛媛県福祉総合支援センター、松山市子ども家庭センター子ども相談課等と連携をとったり、NPO法人イクソスからひとり親世帯の支援を受けられるよう連携する。子どもの育ちを保障するには、家庭、保護者が安定することが大事であることを改めて実感した。ひと昔まえからすると、こども園の役割がいかに多くなり深くなったと感じている。デリケートな事例が若い職員のスキルでは対応しきれないケースも増えている。基本管理職が主になって対応し、情報の共有をして園全体で取り組むようにしている。

連絡ノートや送迎時のお迎えの時等その都度丁寧に保護者の思いを聞き、話をするようにしている。気になる点等は、日々のミーティングを通して全職員で共有できるように心がける。また、送迎時の対応をする職員もできるだけ同じ職員にならないよう正規職員で順番等決めて対応することにより保護者も色々な職員と関わることができ良かった。

2025年度も保護者会の会長、副会長、会計の三役を年長児クラスで担ってくださる。保護者会の役員会等で保護者間の様子や何か園に伝えた方が良くないかなど確認する中、役員さんたちとは様々な話をすることができたが、役員に集中することもあり、2026年度は初めての試みとして役員を選出しないで年長児の保護者に一人一役という形で運営していくようにした。うまく機能すれば常態化していきたい。

地域子育て支援センターの利用者の相談も積極的に受けたり、電話での問い合わせのときも寄り添って話を聞くように心がけた。園の保護者ではないがしっかり話を聞く中でNPO法人イクソスのフリースクールにつながったり、子ども食堂の利用につながるケースも少数だがある。園だけのことで終わらず地域でのこども園の役割を少しでも果たすことができるようにと思う。

6. 設備等について

- ・保育所施設設備整備等積立金へ5,000,000円積み立てる
- ・一般の修繕・工事、固定資産等
 - ノートパソコン3台(597,300円)
 - 出入口門扉修繕(115,500円)
- ・施設機能強化推進費を活用
 - 避難車(158,950円)
- ・延長保育事業補助金を活用
 - 移動式収納棚2個(208,340円)
 - 絨毯3枚(145,200円)、子ども用椅子6個(99,000円) 等
- ・地域子育て支援拠点事業補助金を活用
 - 軽自動車1台(1,500,000円)
 - パイプ椅子25個(518,100円)、移動式収納棚3個(303,600円)
 - 保育マット4個(237,600円)、空気清浄機(162,800円)、ミシン(117,700円)
 - 屋外用ままごと流し台、ガスレンジ(155,980円)

行事的保育・教育活動

月 日	曜日	行 事 的 保 育 ・ 教 育 活 動 他
4月5日	土	入園式 ホールでの全園児と保護者による式は三津教会 森分望 牧師の祈りにより始まり、理事長、園長、挨拶各組担任による園児の紹介、歓迎の歌、職員の人形劇を行う。各クラスの集まり、記念写真を撮影する。保護者会の役員選出は年長児のクラスで行い、三役を決める。 参加者：園児79名 保護者100名
4月25日	金	サカナスター展 年中・年長児 アイテムえひめ
5月9日	金	歯科検診 医師 道田 里美氏 10:00～12:00
5月10日	土	歓迎遠足 伊予市 しおさい公園 参加者:209名
5月12日 }	月	東雲短期大学教育実習 2年生 1名来園
5月23日	金	
5月19日 }	月	河原医療福祉専門学校保育実習 2年生 2名来園
5月31日	土	
5月28日	水	芋苗付け ひよこ保育園 年中児と一緒にを行う。
6月5日	木	内科検診 医師 井上 哲志氏 15:00～16:30
6月11日	水	花の日 三津教会で森分牧師、教会員の方々と一緒に礼拝を守る。 保護者会、園で用意したお花をクラスに分かれてご近所や、公共施設に届ける。
6月24日 }	火	高浜中学校職場体験2年生 3名来園
6月27日	金	
6月 }	月	保育参観 9:30～13:00頃まで体験型の参観をする。
8月	金	
7月2日	水	三津浜幼稚園との交流会 (年長児が三津浜幼稚園を訪問し年長児と交流)
7月23日 }	水	派遣研修 横浜よりゆめ和ほいくえん 園長、保育士1名 来園
7月25日	金	
7月25日	金	大洗高校マーチング (年長、年中児参加)
7月26日	土	年長児モンチッチ海岸海水浴 (くま組15名内1名欠席 引率者:職員…10名)
8月12日	火	松山市指導監査 13:30～
8月21日	木	三津浜児童クラブと交流 10:15～11:15

月 日	曜日	行 事 的 保 育 ・ 教 育 活 動 他
8月27日 }	水	日本キリスト教保育所同盟 夏季保育大学 in 愛媛 開催 スタッフとして園より4名参加
8月29日	金	
9月3日	水	三津浜幼稚園との交流会 (三津浜幼稚園年長児が当園を訪問し年長児と交流)
9月9日 }	火	三津浜中学校(2名)・津田中学校(3名) 2年生 職場体験
9月11日	木	
9月13日	土	敬老参観日 祖父母の方はどなたでもという形で行う。参加者:109名 子どもたちの歌やハンドベル、職員の劇、合奏等の催し ものを楽しむ。
10月14日 }	火	東雲短期大学教育実習 2年生 1名来園
10月28日	火	
10月21日	火	人間環境大学 地域・在宅看護学実習 (1年生4名)
10月26日	日	運 動 会 25日(土)雨のため、26日(日)に延期。 9:00~12:15 参加者:約300人 (音の広場) 大可賀公園で保護者はもちろん、地域の方どなたでもという形で行う。 親子ゲームをはじめ小学生、祖父母、未就園児のゲーム等も用意する。
10月28日	火	防災紙芝居
10月29日	水	アンパンマントロッコ列車遠足 (年長児)
10月29日 }	水	人間環境大学小児看護学実習 3年生 4名来園
10月30日	木	
11月6日	木	芋ほり遠足 (1歳児から年長児は祓川の芋畑、0歳児一時預かりは園で行う。)
11月6日	木	内科検診 医師 井上 哲志氏 15:00~16:30
11月12日	水	収穫感謝祭 三津教会で森分牧師、教会員の方々と一緒に礼拝を守る。 家から持ち寄った果物・野菜をクラスに分かれてご近所や、 公共施設に届ける。
11月14日	金	歯科検診 医師 道田 里美氏 10:00~12:00
11月17日	月	三津浜幼稚園との交流会 (三津浜幼稚園年長児が当園を訪問し年長児と交流)
11月22日	土	愛隣バザー(三津教会、NPO法人イクソスと合同) 保護者会と一緒に計画し、三津教会からも出店する。地域の方々 にも案内する。田村裕子氏による砂絵アートをみんなで見たり、 親子で製作のコーナーや玩具で遊ぶコーナーを設ける。 (4・5歳児の手作りクッキー、職員の焼きたこ焼き、ポップコーン、わたがし、 ピザ、給食室のカレーライスの販売⇒収益は保護者会・三津教会へ)
11月25日	火	おもちゃランド (三津浜小学校1、2年生と交流)

月 日	曜日	行 事 的 保 育 ・ 教 育 活 動 他
12月20日	土	クリスマス祝会 10:00～11:30 全園児で降誕劇を行いその後礼拝をする。(三津教会森分牧師) 保護者等参加者:141名
12月24日 }	水	人間環境大学小児看護学実習 3年生 4名来園
12月25日	木	
1月24日	土	人形劇やおたこ組を観劇 (未就園児の家庭や地域の方にも声かけする)
1月・2月		各火曜日 … 体操教室参観日 (2歳児・年少児・年中児・年長児) 各木曜日 … 英語教室参観日 (年中児・年長児)
2月2日 }	月	河原医療福祉専門学校 1年生 1名 保育実習
2月16日	月	
3月14日	土	遊戯会 9:15～12:00 子どもたちによる歌・劇・合奏を行う。保護者等参加者:157名
3月18日	水	ガリラヤ荘訪問 (年長児)
3月28日	土	卒園式 10:00～11:00 卒園児家族参加者:62名

※ 誕生会 … 毎月1回 全クラスで合同でお祝いをする。

※ お弁当給食 … 毎月1回 (家庭で用意していただいた弁当箱に給食を詰めて園内、園外で食べる)

※ 避難訓練 … 毎月1回(総合訓練年2回) ※ 身体測定 … 毎月1回

▶各行事はコロナ禍前に戻り、全クラスで行うことができた。どの行事も保護者が積極的に参加されていて嬉しいことである。保育参観、体操・英語教室の参観等も日頃の様子を知ってもらえる良い機会となっているのを実感する。2024年度初めて三津教会と合同でバザーを行う。地域の方はもちろん卒園児や教会関係の方も参加してくださり、良い交わりの時となった。教会のほうからも2025年度も合同で行いたいという意向があり、11月に行う予定である。

▶養成校の実習や中学校の職場体験は受け入れを積極的に行った。学びの場を提供することの大切さを感じているが、その後の人材確保につながっていないのが残念である。

7. 特別保育事業

- ①一時預かり事業 … 家庭で保育を受けることが困難となった乳児または幼児について、主に
昼間、保育所や幼稚園等で一時的に子どもを保育する事業をいう。

一時預かり保育延人数(基本は月～金 8:30～17:00 土曜保育、延長保育は要相談)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
実人数	15	21	23	23	23	25	28	28	29	33	37	37	322
延人数	138	133	178	203	140	200	214	163	180	208	197	207	2,161

参考:2024年度実人数合計:323人 延人数合計2,332人

※前年度と比較すると実人数はほぼ同じ、延人数が下回っている。実人数(登録者)は、年度当初の4月、5月は入園が決定して保育園や幼稚園に通い始めた子どももいるため実人数も延人数も少なかった。また、一時預かり担当が、7月に1名、1月に1名産休・育休に入ったこともあり見学者(保育園選びの保護者)や知り合い等に声かけをし途中8月、12月に職員を採用し補充できたことは良かった。

週に1回程度のリフレッシュでの利用もあるが、仕事はしているが入園が決まらず、やむを得ず一時預かりを利用している家庭も多い。そのため、延長保育や土曜保育を利用する家庭が増え一時担当外の職員が対応するので負担も考えたり、連携等もしっかり行う。

昨年度に引き続きサービスに格差(延長保育の利用、土曜保育の利用、アレルギー対応等)がないよう一時預かりを利用していただく家庭にもできるだけ丁寧に寄り添うように努めていることで、利用者からは良い評価を受ける。

- ②延長保育事業 … 延長保育とは保育園等が提供している従来の預かり時間の範囲を延長して行う保育サービスのこと。

延長保育事業延人数(基本は月～金 18:00～19:00 の利用者)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
未満児	30	35	31	29	11	30	43	36	26	35	35	62	403
3歳児	20	19	20	23	15	17	22	17	13	20	17	22	225
4歳児以上	54	52	50	39	28	51	53	37	32	40	35	41	512
合計	104	106	101	91	54	98	118	90	71	95	87	125	1,140

参考:2024年度延人数合計1,364人(未満児:472人 3歳児:308人 4歳児以上:584人)

※2024年度と比較すると延人数が200人以上減っている。保護者の職場の働き方改革、時短勤務等が要因と思う。利用児はほぼ特定の園児である。クラス担任からの引継ぎを丁寧に言い、体調面等に配慮しながら担当は丁寧に保育に当たっている。

- ③地域子育て支援拠点事業 … 地域の子育て中の親子の交流促進や育児相談等を実施し、子育ての孤立感、負担感の解消を図り、全ての子育て家庭を地域で支える取組である。

▶地域交流室(センタールーム)、園庭開放 : 月曜日～金曜日 10:00～15:00

様々な玩具や絵本をそろえて親子でゆったりと自由に遊べるよう開放している。

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
利用者	参加組	47	30	43	84	43	37	59	31	23	38	26	29	490
	子ども	58	32	53	44	59	40	67	33	24	42	27	35	514
	保護者	47	30	45	36	45	38	62	31	24	38	26	31	453

▶育児講座 : 月1回程度、製作等を中心に育児や生活が楽しくなるような内容や保護者の関心のある活動を取り入れ、園内外で実施する。

月	活動内容	利用者			月	活動内容	利用者		
		参加組	子ども	保護者			参加組	子ども	保護者
4	園庭遊び	5	6	6	10	運動会(大可賀公園)	18	20	25
5	公園遊び	0	0	0	11	読み聞かせ・音楽会	1	1	1
6	絵合わせカード作り	4	4	4	12	オーナメント作り	0	0	0
7	水遊び	3	5	4	1	親子人形劇鑑賞会	11	14	11
8	英語	9	15	9	2	運動遊び	4	4	4
9	ベビーマッサージ	8	8	8	3	牛乳パック積木作り	4	6	4
10	運動会ごっこ	3	3	3	合 計		70	86	79
					参考:2024年度 合 計		84	63	86

【 あかちゃん広場 】

(三津浜、高浜公民館にて0歳児対象で活動の場を提供)

月	三津浜公民館			高浜公民館		
	参加組	子ども	保護者	参加組	子ども	保護者
4	1	1	1	0	0	0
5	2	2	2	0	0	0
6	1	1	1	1	1	1
7	2	2	2	1	1	1
8	2	2	2	2	2	2
9	4	4	4	3	3	3
10	5	5	5	5	6	5
11	4	4	4	5	5	5
12	5	5	5	4	4	4
1	5	5	5	4	4	4
2	5	5	5	5	5	5
3	2	2	2	5	5	5
合計	38	38	38	35	36	35

【 親子ふれあい広場 】

(三津浜、高浜公民館にて1～3歳児対象で活動の場を提供)

月	三津浜公民館			高浜公民館		
	参加組	子ども	保護者	参加組	子ども	保護者
4	2	2	2	3	4	3
5	3	3	3	0	0	0
6	4	4	4	4	6	4
7	6	7	6	2	3	2
8	5	6	5	3	5	3
9	6	7	6	3	3	3
10	4	5	4	1	2	1
11	4	5	4	3	4	3
12	3	3	3	4	5	4
1	4	4	4	2	2	2
2	3	3	3	4	4	4
3	6	7	6	3	3	3
合計	50	56	50	32	41	32

【三津浜幼稚園親子ふれあい広場】

- ・5月(参加組 9組、子ども 9人、保護者 9人)
- ・6月(参加組 9組、子ども 9人、保護者 9人)
- ・7月(参加組 8組、子ども 11人、保護者 8人)
- ・9月(参加組 5組、子ども 6人、保護者 5人)
- ・10月(参加組 7組、子ども 8人、保護者 7人)
- ・11月(参加組 1組、子ども 1人、保護者 1人)
- ・12月(参加組 4組、子ども 5人、保護者 4人)
- ・1月(参加組 3組、子ども 3人、保護者 3人)
- ・2月(参加組 2組、子ども 2人、保護者 2人)

【 相談件数及び内容 】

▷情報提供 …2件 ・近隣の園の紹介 ・入園申し込みの仕方 等

※2025年度は、卒園児の保護者の方(ネイティブ)に英語に触れる機会をお願いしたり、人形劇鑑賞会を親子で楽しんだり、新しい活動を取り入れた。また、2024年度中止になった、ベビーマッサージも開催することができた。どの活動も好評で、たくさんの人が参加して下さった。また、キャラクター物の玩具作りも人気で予約がすぐ埋まり、保護者の方は熱心に作られていた。それとは反対に、参加者なしや集まりが悪い活動内容も目立ち、人気のある内容とそうでない内容とがはっきりと分かれる結果となった。それを考慮し、2026年度の内容を考え、購入したミシンを活用し新たな活動を計画している。試食会に関しては、入園する前に未就園児も保護者も給食を食べてみるということは安心にも繋がり、とても好評である。給食室と連携して離乳食、アレルギー食、幼児食でもきざみの必要な子には対応し、在園児と同様細やかに配慮することを意識している。リピーターもいるが、予約の偏りがでないよう意識した。職員配置が担当が家庭を持っているということで学校行事や子どもの体調不良等様々な事由で職員のお休みが重なる時が他のクラスより多く見られる。フリーの職員等が代わりに入り、センターは休まないよう努めている。

④障害児保育事業 … 障害児の保育を推進し障害児に対する適切な処遇の確保をする。

対象児:5歳児 2名(児童発達支援放課後等デイサービスちゅーりっぷ利用)

1名(伊予病院でことばのリハビリ月3、4回利用)

1名(口唇口蓋裂のため発音不明瞭で耳鼻咽喉科でのリハビリ)

・ちゅーりっぷ利用児…生活の基盤は園におき、ちゅーりっぷを利用、年長児ということで午後に利用し、小学校に上がる準備をする。

4歳児 1名(児童発達支援放課後等デイサービスちゅーりっぷを利用)

1名(難聴児で鷹ノ子病院の耳鼻科で治療や訓練をしている)

1名(あゆみ学園の外来を利用)

1名(市民病院の神経発達支援リハビリを利用)

3歳児 1名(ウエスト症候群という難病で、県立中央病院・療育センターで

診察やリハビリを受けている。多機能型事業所コーラルを週2回利用)

2歳児 1名(児童発達支援放課後等デイサービスちゅーりっぷ利用)

8. 小学校との連携

【 卒園児15名 】

三津浜小学校 … 3名 宮前小学校 … 5名 高浜小学校 … 2名

生石小学校 … 1名 みどり小学校 … 1名 潮見小学校 … 1名

垣生小学校 … 1名 麻生小学校 … 1名

※三津浜幼稚園の年長児と交流を持つ。年に4回予定していたが最後の1回は連絡がないまま年度末を迎える。幼稚園ということで長期の休みや行事等もあり日程調整の難しさを感じた。

昨年度は参加できなかったおもちゃランドに行くことができ、子どもたちは小学生や他園の友だちとの交流ができ良い機会となった。三津浜児童クラブの夏のお楽しみ会にも招待してもらい小学生や小富士保育園の年長児と一緒に手品を見て楽しむことができた。引き継ぎでは、支援級の教員を含め対面で個々の様子を丁寧に聞きとりして下さる。合わせて幼保連携型認定こども園園児指導要録を各小学校に提出する。

9. 苦情及び苦情解決の状況について

※2025年度は外部に向けて報告する苦情はなかった。(ホームページ等)

※保護者から相談等はあるが苦情につながるものはなかった。

10. 職員の資質向上・育成 (参考資料:別記1)

※各職員にできるだけ今の保育情勢の研修、専門分野の研修、実技研修等に参加できるようにした。また、キリスト教保育所同盟夏季保育大学が2025年度愛媛で行われ、その事務局となって研修内容やフィールドワーク、情報交換会等を企画することで、様々な角度から学ぶことができた。また、全国のキリスト教保育所同盟に加盟している方々と情報交換することにより視野も広がり良い機会を与えられたと感謝である。

※横浜のゆめ和ほいくえんとの交流も深まり、2025年度は当園からは予算の都合上訪問することができなかったが、ゆめ和の職員が来園し、保育を見学、参加してもらい職員たちと意見交換をすることで良い刺激となっている。

※職員の育成はなかなかすぐに目に見えて現れるという事は少ないが、経験年数を重ねる事で自分ができることを自信を持って取り組む様子が見られた。全体的に日々の仕事で精一杯というところがあり、働き方改革でゆとりができて自己研鑽等自分で学んだり、新たなことに取り組んだりという姿勢はみられない。園から提供する研修やキャリアアップ研修には誠実に学んでいるので、それぞれにあった学びの機会を提供したい。

2025年度は例年と比較すると職員の退職や対応に悩まされることが殆どなかった。家庭と両立しながら仕事をするのが当たり前の時代になった現在、職員みんながそのことを理解し、今できることを一杯発揮できる職場となるよう、今後も職員の意識も高めていきたい。

11. 食育活動、アレルギー対応について

※食育の取り組み

年齢別に年間食育計画を立て、園児の健やかな食習慣を培うようにした。

苗植えから収穫までの体験を通してお芋の成長に関心を示すことができた。また夏野菜を各クラスでプランターで育てたが、最初ははりきって観察したり水やりすることができたが、継続が難しく後半は十分に管理ができなかった点は反省である。年度末になってクッキングを取り入れる。2026年度は年間を通して行いたい。食事に関しては、基本的なマナーがおそろになっているのでその点クラスで働きかけたい。以上児はバイキング形式を積極的に取り入れていたが、量的に不十分だったりするので2026年度は規定量をおそろにしないよう提供の仕方を考える。

月	活 動 内 容
4月・5月	いちごの収穫 畑の玉ネギを収穫 お弁当給食(月1回) 各クラスで野菜の苗を購入、苗植え 5/1 うさぎ組(3歳児)・・・きゅうり 4/30 ひよこ組(0,1歳児)・・・ミニトマト・トマト 4/30 りす組(2歳児)・・・トマト、ピーマン くま組(5歳児)・・・トマト 4/28 きりん組(4歳児)・・・きゅうり 菰川の畑(職員がマルチング) 芋苗を購入 芋苗つけ(保育教諭、くま組) (草引き、芋の根が付くまでは、こまめに水やりをし根付いてからは、土の乾きや苗の様子を見ながら水やりをした)
6・7・8月	6・7・8月の月・水・金で参観日を実施(給食の試食あり) かき氷 すいか割りごっこ 海水浴 野菜の収穫 とうもろこしの皮むき 猛暑のため定期的に水やりを行う
9月	9/29 大災害を想定しての食事 給食・・・やわらかご飯(さつま芋入り)、鯛めし、野菜ジュース おやつ・・・米粉クッキー、備蓄水
11月	11/6 全園児芋掘り遠足(お弁当給食) 菰川の畑、園庭 7日・・・味噌汁 11日・・・大学芋に使用 11/21 年中、年長児がクッキーの型抜き(ミニバザー用) 11/22 愛隣ミニバザー(カレーライス・たこ焼き・クッキー) わたあめ・ピザ・ポップコーン(三津教会)
12月	12/25 クリスマス立食パーティー(バイキング) (カレーピラフ、鶏肉の竜田揚げ2種、ハンバーグ、リヨネーズポテト、フレンチサラダ、フルーツ盛り合わせ、お菓子)
3月	3月は卒園児のリクエストメニュー 3/19 お誕生日会(五目ちらし寿司、鶏肉のマーマレード煮、マカロニサラダ、いちご) 3/4たこ焼き大会 クッキング・・・カレーライス(3月23日) ホットケーキ(3月24日)

※アレルギー児への対応は入園前の面接で保護者と話をし、個々の状況を把握する。
アレルギー対応が必要な園児は、かかりつけ担当医のアレルギー除去食に関する連絡票を提出してもらいその指示に従って給食を提供する。2025年度は10名に対応した。誤食はなかったが、触りそうになることがあり、配膳の仕方の見直しをする。除去食の連絡票の見直しが期間が過ぎてもそのままだになっている例が多く見られたので保護者に声掛けをして、かかりつけ医と相談して再提出してもらう。

	年齢・性別	アレルギー	除去の状況
1	0歳女児	乳	完全除去
2	0歳女児	卵	完全除去
3	0歳女児	卵	完全除去
4	1歳男児	卵	完全除去
5	1歳男児	乳糖不耐症	牛乳そのものは除去
6	1歳男児	乳	完全除去 令和7年6月解除
7	3歳男児	バナナ	完全除去
7	4歳女児	卵	そのものは除去(プリン・ケーキ系・アイス・マヨネーズ× 令和7年7月解除
		乳	牛乳・ヨーグルト 100gOK 令和7年6月解除
		小麦	うどん100g、カステラ切れ、パン類OK 令和7年6月解除
		キウイ	完全除去
8	4歳男児	卵	マヨネーズ10gOK
9	4歳女児	卵	そのものは除去(プリン・アイス×) マヨネーズ10gOK 令和7年4月解除
10	5歳男児	小麦	完全除去 (醤油、味噌のみOK) 令和8年3月解除
		その他	完全除去 (軟体甲殻類、ごま、ピーナッツ、アーモンド、パイン)

(別記1) 研修参加状況について

2025年度 施設外研修

No.	実施月	研修会名	参加職種	研 修 内 容	場 所
1	2025.4.11	日本キリスト教保育所同盟 2025年度四国地区理事長・園長会	園長 主幹保育教諭 事務	総会 第1部本部活動報告、会員各園の状況報告 第2部 協議事項 (1)2024年度四国地区活動報告と決算報告に関する件 (2) 2025年度 四国地区諸計画案と予算案に関する件 (3)2025年度四国地区活動に 関する件 (4)2025年度 第64回夏季保育大学開催に関する件	松山市
2	2025.5.1	令和7年度 発達支援実践研修(第1回)	園長	講演「発達の相談はどこにすればいい～松山市の相談先について～」	松山市
3	2025.5.10 ～ 2025.5.11	第31回 日本保育保健学会inえひめ	園長・主幹 保育教諭 看護師	地域で子どもを育み、家庭を支える ～保育・教育/保健・福祉/医療の連携～	松山市
4	2025.5.9	令和7年度第1回松山市地域子育て 支援拠点事業研修会	保育教諭	地域子育て相談機関について ・ 施設自己紹介 ・ 情報交換	松山市
5	2025.6.21	令和7年度 第1回松山市新任保育士研修会	保育教諭	講演 ①保育士としての心構え②不安や悩みの解消方法 ③保育所等の安全管理等について	松山市
6	2025.6.27	令和7年度 保育従事者のための救命講習会	保育教諭	救命講習	松山市
7	2025.6.27	令和7年度 愛媛県教育・保育施設 初級職員研修会	保育教諭	I 実技「めざせ運動能力UP!出張教室」 II 講義「自分と周りを 幸せにする!～新任職員の心構えとコミュニケーション～」 III 講義「乳幼児の遊びと主体性を育てる保育士の関わり」	松山市
8	2025.5.16	令和7年度 発達支援実践研修(第2回)	保育教諭	講演「教育相談、育学校・雙学校について～就学先を知らう～」	松山市
9	2025.6.4	令和7年度 発達支援実践研修(第3回)	保育教諭	講演「保護者支援～園全体での取り組みを考える～」	松山市
10	2025.6.11	主任保育士・主幹保育教諭研修会	保育教諭	講義「ハラスメントで大切な仲間・仕事を失う前に」	松山市
11	2025.7.1 ～ 2025.11.25	令和7年度 愛媛県保育士等キャリアアップ 研修 専門分野別研修	保育教諭	① 乳児保育 ② 幼児教育 ③ 障害児保育 ⑤ 保健衛生・安全対策	オンライン
12	2025.6.27	令和7年度 発達支援実践研修(第4回)	主幹保育教諭	講演「地域における児童発達支援センターの中核的役割 ～気になる子どもの居場所を考える～」	松山市
13	2025.7.2	令和7年度 発達支援実践研修(第5回)	保育教諭	講演「多様な特性のある子どもの理解と対応」	松山市
14	2025.7.9	令和7年度 第2回松山市地域子育て 支援拠点事業研修会	保育教諭	講演「ちいちゃんのリミックス」	松山市
15	2025.8.27 ～ 2025.8.29	日本キリスト教保育所同盟 「第64回 夏季保育大学」	園長 主幹保育教諭 事務員	主題講演「こどもの今」 情報交換会 フィールドワーク 特別講演『保育における「研究・臨床・教育」をどう考えるか』	松山市
16	2025.7.12	2025年度 第1回松山市子ども・子育て 連絡協議会研修会	保育教諭	講演「子どもと盛り上がるのまちがいなし!～おすすめ手あそび・ 歌あそびを楽しもう～」	松山市
17	2025.11.15	松山市保育会体育実技研修会	保育教諭	体育実技	松山市
18	2025.10.15	令和7年度 第3回松山市地域子育て 支援拠点事業研修会	保育教諭	講演「未就園児親子に絵本の楽しさを届けよう!! ～知っておきたい絵本の力～」	松山市
19	2025.11.8	令和7年度 第2回松山市新任保育士研修会	保育教諭	講演 ①保育士としての心構え ②不安や悩みの解消方法 ③保育所保育指針・乳児保育について	松山市
20	2025.10.30	中堅保育士・保育教諭研修会	保育教諭	講義「みんなが片付けたい整理収納術」	松山市
21	2025.10.28	ネクストリーダー研修	保育教諭	講義 リーダーのコミュニケーション～前向きに主体的に仕事に取り組む～	松山市
22	2025.11.17	一般職員研修	保育教諭 子育て支援員	講演「上司・部下に信頼されるコミュニケーション」	松山市
23	2025.11.14	令和7年度 第4回松山市地域子育て 支援拠点事業研修会	保育教諭	講演「ぜひ知っておきたい小児科知識 ～公共の場での対応・ケアについて」	松山市
24	2025.12.12	保育所等給食・食育担当者研修会	調理員	講話「乳幼児期の口腔機能の発達について」 事務連絡	松山市
25	2025.11.29	2025年度 第2回松山市子ども・子育て 連絡協議会研修会	調理員	講演「食べるの大好き」 1.食べ物とからだ 2.乳幼児の食事 3.災害時の対応	松山市
26	2025.12.12	令和7年度 第5回松山市地域子育て 支援拠点事業研修会	保育教諭	講演「こどもの発達に応じた主体性の形成について」	松山市
27	2026.1.17	令和7年度 第3回松山市新任保育士研修会	保育教諭	講演 ①保育士としての心構え ②不安や悩みの解消方法 ③こども家庭庁について他	松山市
28	2026.1.21	給食担当者研修会	保育教諭	講演・実習「簡単!おいしい!おやつ作り」	松山市
29	2026.1.28	令和7年度 中堅保育士研修会	保育教諭	講義・体験「子どもたちも先生も守る勉強会～災害の加害者にならない ために愛媛の保育者がいま知るべきこと～」	松山市
30	2026.2.21	令和7年度 愛媛県医師会学校医会・園医会総会	保育教諭	講演「現在の学校保健に係る諸課題～現場の先生方のご質問に答えて～」	オンライン
31	2026.2.19	保育士・保育教諭実技研修会	主幹保育教諭	講義「音が動く・心が育つ～ワクワク体感リミックス～」	松山市
32	2026.2.28	2025年度 第3回松山市子ども・子育て 連絡協議会研修会	主幹保育教諭	講話 ～災害に備える～ ・災害リスクの確認 ・日頃からできる備え ・災害発生時の行動を考える	松山市
33	2026.3.23	松山市保育会代議委員会	主幹保育教諭	令和7年度 1.事業報告(案) 会計報告(案) 2.令和8年度事業報告(案) 会計報告(案)	松山市

(別記2) ケガ・感染症について

こども園で手当てをし、保護者に報告したもの(ヒヤリハット報告書)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	参考2024年度
唇(舌)のケガ	2 1歳児1名 4歳児1名	2 1歳児1名 3歳児1名	1 1歳児1名	1 3歳児1名	1 3歳児1名	3 0歳児1名 1歳児1名 3歳児1名		1 0歳児1名	1 3歳児1名	2 1歳児2名	1 0歳児1名		15	16
打ち身等	10 0歳児1名 1歳児7名 3歳児1名 5歳児1名	10 1歳児4名 2歳児2名 3歳児3名 5歳児1名	8 0歳児2名 1歳児2名 2歳児1名 3歳児1名 4歳児2名	5 0歳児1名 2歳児2名 3歳児1名 5歳児1名	6 0歳児1名 1歳児5名	3 0歳児1名 1歳児1名 5歳児1名	1 1歳児1名	2 0歳児1名 4歳児1名		2 1歳児1名 3歳児1名	1 1歳児1名	2 1歳児1名 3歳児1名	50	44
ひっかき傷	1 3歳児1名	1 2歳児1名	2 1歳児1名 3歳児1名			2 1歳児1名 3歳児1名	1 4歳児1名	1 3歳児1名			3 0歳児1名 2歳児1名 5歳児1名		11	19
噛み付き		2 1歳児2名	3 1歳児3名		1 1歳児1名			2 1歳児1名 3歳児1名		1 1歳児1名	1 1歳児1名	1 0歳児1名	11	23
すり傷		1 4歳児1名	2 4歳児2名		1 3歳児1名	2 4歳児2名	1 4歳児1名	1 4歳児1名	1 4歳児1名			2 0歳児1名 1歳児1名	11	8
虫刺され													0	3
つねった傷													0	1
指(身)をつめる		1 1歳児1名			1 3歳児1名								2	4
誤食													0	2
爪のケガ													0	1
誤薬													0	1
切り傷	1 5歳児1名	3 5歳児3名	1 5歳児1名										5	1
かぶれ													0	1
刺し傷(木片)	1 4歳児1名	1 3歳児1名											2	4
鼻血		2 2歳児2名								1 2歳児1名			3	0
眼球の出血					1 3歳児1名								1	0
合計	15	23	17	6	11	10	3	7	2	6	6	5	111	128

内病院を受診したもの5件(参考2024年度10件)

病院受診のケガ

- ▷木片が刺さる…4歳児 広場で遊んでいた際、右手の手の平に木片が刺さる。竹宮皮膚科を受診し、木片を取ってもらう。
- ▷木片が刺さる…3歳児 広場で遊んでいる際、手の平に木片が刺さる。竹宮皮膚科を受診し、木片を取ってもらう。
- ▷目の上を打つ…4歳児 椅子を片付けている時に椅子につまずいて転び、机の角で目の上を打ち青じになる。目の中が心配であったため、別所眼科を受診する。目の中は、異常がなかった。
- ▷目が充血する…3歳児 プールの中で友だちの足が本児の右目に当たり、充血と目の中に出血が見られる。別所眼科を受診し、目に外傷はなく1週間程でひくとのことで目薬を処方され様子を見る。
- ▷下唇を切る…3歳児 食後に食器を片付けている時に転倒し、下唇を切る。わたなべ皮膚科形成外科を受診する。下唇を3針縫う。2回再診してから抜糸をする。

曜日別のケガの件数

	月	火	水	木	金	土	合計
午前	18	16	15	15	16	1	81
午後	2	7	11	6	4	0	30
合計	20	23	26	21	20	1	111

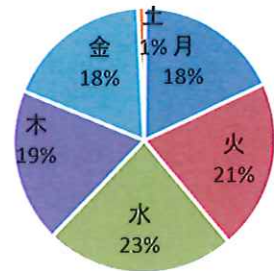
曜日別 病院を受診したもの

	月	火	水	木	金	土	合計
午前	2	0	2	1	0	0	5
午後	0	0	0	0	0	0	0
合計	2	0	2	1	0	0	5

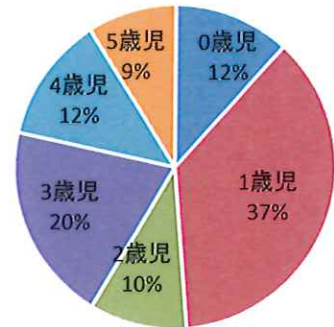
年齢別のケガ

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
13	41	11	22	14	10	111

曜日別発生状況



年齢別ケガの状況



【考察】

大事に至る怪我はなかった。

病院受診は5件で昨年度と比較すると半分であった。昨年同様、棘が刺さり受診した2件と目の怪我が2件、そして唇と合計3件は顔回まわりであった。病院受診は3,4歳児に集中した。受診までは至らない怪我は1歳児の怪我が全体の3割をしめている。これは、歩き始めたりまだ歩行が安定していなかったり、行動範囲が広がったことや、体幹がまだしっかりしていないこと、ことばが未発達なため噛みつきが多いのが要因と考える。

感染症	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	参考 2024年度
インフルエンザA型			1				8	20 (職員2)	8 (職員1)	2			39 (職員3)	12 (職員3)
インフルエンザB型	1										16 (職員1)	9 (職員1)	26 (職員2)	0
コロナウイルス感染症					2	4							6	8 (職員4)
感染性胃腸炎 (ノロウイルス、ウイルス性胃腸炎、 急性胃腸炎、胃腸炎を含む)	7	1	3	1	1	1						1	15	27
嘔吐下痢													0	0
気管支炎			1										1	12
肺炎													0	1
ヘルパンギーナ		1				4							5	7
溶連菌	1		1			2			1				5	14
手足口病													0	45
RSウイルス									7				7	9
アデノウイルス		1	3	1	1							1	7	2
扁桃腺炎		1			1	1	1						4	1
ヒトメタニューモウイルス	1												1	19
突発性発疹					2	1					1	1	5	2
結膜炎													0	1
クループ													0	2
マイコプラズマ肺炎				1		1	2	1	2				7	5
リンパ節炎													0	1
咽頭炎													0	4
ライノウイルス					1								1	0
エンテロウイルス					1								1	0
パラインフルエンザ4型					1								1	0
りんご病		3	1			1							5	0
合計	10	7	10	3	10	15	11	21	18	2	17	12	136	172

〈感染症〉 2024年度より継続し、2025年度も消毒や清掃を徹底して行い必要なときはマスクをして生活したことにより、胃腸炎の大流行がなかったことは良かった。しかし、インフルエンザの感染は職員も含め広がる。クラス別保育を徹底したり、5日間休むことや解熱後2日経過すること等、徹底して働きかける。小学生がいる兄弟姉妹からの感染で広がる傾向があるため家族間の感染状況等、教えてもらい早めに対策ができるように心がける。

2025 年度(令和 7 年度)
ガリヤ荘 事業報告

〔事業の種類〕

I. 特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設入所者生活介護)	定員 80 名
II. ショートステイ(〔介護予防〕短期入所生活介護)	定員 20 名
III. デイサービス(〔介護予防〕通所介護)	定員 35 名
IV. ホームヘルプサービス(〔介護予防〕訪問介護)	
V. 居宅介護支援事業所(居宅介護支援)	
VI. 在宅介護支援センター(委託事業)	

1. ガリヤ荘(全体)

取組事項	取組内容
認知症ケアの充実: 利用者の命と尊厳を 守りながら、安心して 暮らせる環境を提供 する	① 穏やかな生活を提供できるために、基礎介護力を高め、トータルケア(総合的視点による認知症ケア)の知識・技術を実践する。(目標:外部研修〔WEB 含む〕参加、フィードバックのための内部研修〔WEB・書面含む〕開催) ■ 外部研修参加 (集合研修及び WEB 研修へ参加、10.施設外研修の状況参照) ■ 内部研修開催 (各感染症対策として、書面開催または小規模開催、9.施設内研修状況参照) 健康管理、服薬管理を徹底し、医療との連携を強化し、疾病の重症化予防、再発防止に努める。 (目標:記録管理のもと、専門職によるダブルチェック〔毎週〕を開催。長期入院の減少、利用減少予防を目指す) ■ 利用者・入所者の状態をダブルチェックする検討会(※隔週目安。)開催 令和 8 年 1 月より、介護記録ソフトを活用した健康チェック開始。 ■ ミールラウンドによる摂食嚥下機能検討/評価の開催〔月 1 回〕 ■ 衛生管理委員会(1 回/月)開催(各感染症対策会義を含む) ■ 内部研修開催〔4 回〕(うち 2 回感染対策訓練) ■ 施設内感染症発生時、拡大防止対策の実施 ② 人権尊重、プライバシー保護を徹底するとともに身体拘束廃止、虐待防止、事故防止に努める。(目標:委員会活動〔毎月〕による検討・分析・評価のもと、生産性向上委員会〔毎月〕を開催。その他各種会議と連動し、情報共有、ケア方法の見直しを実践する) ■ 生産性向上委員会 〔年間 12 回〕※毎月開催 各種委員会活動 〔年間 12 回〕※毎月開催 ■ 内部研修開催 1)ケア向上(排泄ラウンド)〔4 回〕 ※特光洋排泄アドバイザー派遣 2)看取りケア〔2 回〕 3)介護事故防止(リスクマネジメント)〔2 回〕 4)身体拘束等虐待防止〔2 回〕 5)衛生管理(感染症対策)〔総合訓練 2 回、勉強会 2 回(食中毒/感染症全般)〕 6)権利擁護・法令遵守〔1 回〕 7)その他(接遇・ハラスメント・メンタルヘルス等)〔各 1 回〕 ■ 朝礼(全体/各部署)の開催〔月～土〕

	③ アクティビティ(イベント・レクリエーション活動など)を充実させ、スタッフと共に楽しみながら、暮らしが豊かになる環境を創る。(目標:年間計画に基づき、計画的に実践する。基本的感染対策の継続のもと、イベント活動の臨機応変な調整と実施に努める) ※)9.行事参照 ■ 全体行事について、各感染対策及び入居者の重度化に伴い中止(運動会/感謝祭) ■ 通所及び特養短期ユニットについて、毎月小規模による行事開催 ■ 家族面会について、居室面会対応。(時間・人数制限なし)(令和5年5月から～継続中)
在宅介護と地域交流の中心地:利用者と地域社会をつなぐ拠点づくりを実践する	① 在宅サービスをトータル的にサポートし、個別のニーズに応じたサービスを適切に提供できるよう支援する。(目標:在宅委員会による困難ケースの共有、地域関係期間との連携) ■ 地域包括支援センターとの連携(各種会議・研修参加) ■ 関係機関との連携(東温市生活支援協議体、介護ネット東温、東温市健康相談) ■ 在宅委員会開催(12回) ② 地域における公益的な取組を推進・継続する。(目標:おとこ塾(男性介護者の会)定期開催・地域サロンへの出前講座、法人地域共生センターとの連携による活動、基本的感染対策を継続のもと、活動の臨機応変な調整と実施に努める) ■ 地域サロンへの出前講座 [0回] ※依頼なし ■ おとこ塾(男性介護者支援の会) [3回] 内1回えがお食堂合同開催 ■ 東温市介護相談員訪問 [12回] ■ 地域共生「えがお食堂」 [2回] ③ 地域交流の機会を積極的に実践する。(目標:地域の幼稚園・保育園・小学校・中学校・高等学校との交流会、各種ボランティアの受入など、基本的感染対策を継続のもと、活動の臨機応変な調整と実施に努める) ■ 各交流会開催(愛隣こども園/松山しのめ認定こども園(花の日訪問/収穫感謝訪問)ほか) ■ 各ボランティア受入 (各種レク、園芸、清掃 等) ■ 東温市ハッピーサポート活動事業 : (毎月)サポーター受入数 年間延 245 名 ■ 東温市婦人会歳末訪問(車椅子清掃) 令和7年12月15日 ■ 地域自主防災組織連携(防災合同訓練) 令和7年6月8日
スタッフの基礎力と実践力向上:デジタル化と最新技術で未来を創る	① 所属する全スタッフ(専門職)を対象とした研修を継続実施し、最新の知識・技術と合わせ、専門性と実践力の向上につながる機会を積極的に設ける。(目標:基礎介護テキストの活用、外部研修のフィードバック、法定研修の実施など。※外部研修派遣、内部研修・資料回覧のほか、WEB研修開始) ■ 職員会議(内部研修会)開催 [隔月:年6回] (オンライン参加併用) ■ その他の研修 ※)9.施設内研修 参照 ■ 外部研修復命書、専門書籍、介護関係最新情報等の職員回覧実施 [不定期:年76回] ② 排泄ケア・入浴ケア・ノーリフティングケアの実践を定着させ、ケアスタッフの介護技術向上に努める。(目標:ラウンドチェックのもと技術の定期確認と福祉用具・備品の適切運用管理)※)ケア向上委員会の継続 ■ 排泄ケア 現場ラウンドチェック実施 ※)業務課長、ユニットリーダー、(株)光洋アドバイザー ■ 入浴ケア 現場ラウンドチェック実施 ※)業務課長、ユニットリーダー ■ ノーリフティングケア 現場ラウンドチェック実施 ※)業務課長、機能訓練指導員 ■ 多職種共同による認知症困難ケースの検討と実践 ③ 新任・中途採用者教育を継続実施し、エルダーによる助言指導、定期面談を計画的に実施する。(目標:研修体制・テキストの更新及び研修開催)

	■ 新人研修テキスト更新実施 ■ 入職時新人研修及び、フォローアップ研修開催 ■ エルダーによる個別面談開催
働きやすく魅力的な職場環境:スタッフのやりがいと定着率向上を目指す	① リフレッシュ休暇推進もとによる有給休暇(長期連休または分割取得)の計画的付与を行う。※別途取得要綱(内規)に基づき各事業所・部署・職種、及び個人の取得希望により可能な範囲で調整を変更する。 ■ リフレッシュ休暇取得推進(計画取得済) ※介護職員(3交代勤務者)最大9連休取得 ② 委託機関と連携し、メンタルヘルス対策、ストレスマネジメントを積極的に取り組む。(目標:定期的な情報発信、ストレスチェック、メンタルヘルス研修実施) ■ ストレスチェック実施(NPO 法人こころ塾との従業員支援事業委託) ■ メンタルヘルスに関する最新情報提供実施 ■ メンタルヘルスフォローアップ研修、個別面談(新人ほか)開催 [各1回] ③ スタッフの成長とチームワーク向上、スキルアップの活性化を目的とし、継続的に業務改善に対する検討を図る。(目標:業務マニュアルの見直し、定期的な法人内人事異動及び施設内人事異動の実施) ■ 各種業務マニュアルの見直し確認継続実施 ■ 特養短期介護職員ユニット移動実施[令和7年4月1日]
既存事業の強化と業務の可視化「介護ロボット、ICT などテクノロジーの導入を積極的に検討し社会情勢の変化に対応する	① 目的と効果を明確にした介護ロボット・ICT等の導入のもと、評価・見直しを継続する。(目標:中長期計画との連動【介護記録ソフト、見守りセンサーの運用開始、オンライン研修導入等】※)ICT 推進委員会継続 ■ 各種導入機器等の運用に関する協議(生産性向上委員会)開催 [年12回] ■ 各種通信設備・デジタル機器等の活用 [Wi-Fi、PC・タブレット] ・介護記録ソフト(絆core-内田洋行) 運用継続(特養/短期) ・見守りセンサー(眠りSCAN-パラマウントベット) 運用継続(特養/短期 54床設置済) ・見守りセンサー(ケアシエルパーテルウェル西日本) 運用開始(特養 10床設置済) ② 在宅サービス利用者数の増加及び入所稼働率向上に向けた魅力ある事業所づくりを進める。(短期・通所・訪問の市場拡大の検討、特養待機者の確保、各種加算の取得)※事業所説明会(相談会の開催) ■ 運営会議/在宅委員会開催[毎月]し協議検討実施。[年12回] ■ 部課長会議開催[不定期/随時]し課題整理実施。[年4回] ■ 各事業所・部署会議開催[毎月]し情報共有。[年12回] ※ 事業所説明会について未実施 ③ ホームページ・ブログを活用し、情報更新を積極的に行う。(目標:ホームページを中心として情報発信をする。ブログを全事業所毎月更新する)※チラシ/パンフレットを定期的に製作し各事業所の営業活動を実践する。 ■ ブログ配信[定期更新中](https://www.ailinen.jp/) ■ 広報誌[法人広報誌年3回発行] ■ 営業用チラシ[通所年4回 製作] ■ 施設玄関受付デジタル掲示運用継続 ■ 各機関デジタルサイネージ協賛(愛媛大学医学部付属病院、東温市市役所) ■ 各種賛助(地域回覧版/地域交通安全看板/小学校交通安全カレンダーほか)

	④ 物価高騰対策とした、事業所毎の適正な予算編成と管理を行い、ムリ・ムラ・ムダのない運営を実践する。(目標:5S 推進、取引商品の積極的見直し、消耗物品在庫管理の徹底、予算管理の情報共有)※各種使用量の分析を行いながら積極的な経費節約・削減を実践する。 ※)運営改善委員会継続 ■ 運営会議開催(運営改善委員会を含む)し各事業所毎月の稼働実績を正確に把握。 ■ 各種消耗品等の在庫整理の見直し実施(運営会議での共有実施) ■ 節電・節水に関する職員周知の徹底と実績状況の評価分析 ■ 各種修繕に係る状況整理及び物損・紛失防止に関する職員周知の徹底
住環境の快適さと安全性を確保:感染症対策と防災防犯対策の向上	① 移転後 16 年経過による、各種設備・備品等の経年劣化に対する修繕計画を作成し、計画的に実行する。(目標:中長期計画との連動【給排水設備(ボイラー等)、空調設備(エアコン)、通信設備(電話・ナースコール)、福祉機器等]) ■ 各種洗面温水機器、居室エアコン不具合による修繕実施 ※館内空調設備の全取替は保留 ■ 通信設備(外線・内線・ナースコール機器)不具合による修繕実施 ※令和 8 年度取替を検討 ■ 各事業所設置 PC の一部取替実施(Windows11 への更新に伴う) ■ 給排水設備不具合における修繕実施 ■ 特養短期ベッド(30 台)キャスター劣化による修繕実施 ■ デイサービス(レッドコード)設置に伴う工事実施 ■ 館内ワックスがけ、窓ガラス網戸清掃実施 ② 各種感染症予防対策を継続する。必要物品管理、基本的感染対策の徹底を行う。特に新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ、ノロウイルス対策について徹底し、大規模クラスター発生防止に努める。(目標:施設内感染発生「0」を目指しながら、クラスター発生時にも対応できる状況を保つ) ■ 各種感染症対策会議へ変更し定例開催のもと周知徹底事項について全職員への情報発信を継続実施。※)衛生管理委員会内 ■ 感染対策時の必要物品管理の継続。 ■ 入居者(任意)新型コロナウイルスワクチン接種の実施。 新型コロナウイルス感染症発生状況 : クラスター発生 0 件 ■ 入居者/職員インフルエンザワクチン接種の実施。 インフルエンザ感染症発生状況 : クラスター発生 0 件 ③ BCPに基づき、大規模災害/感染症発生に対する対策に努める。また地域(行政・地域住民(自主防災)との連携に努める。(目標:定期防災訓練・防犯訓練の実施、福祉避難所訓練の実施、地域防災活動との連携) ■ BCP(事業継続計画書)の見直しにかかる検討会議開催。 ■ 各種訓練の開催

2. I.特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設入所者生活介護)

2-1 入所者の状況(令和 8 年 3 月 31 日現在)

【入所・退所状況】

待機者数(令和 8 年 3 月末現在 45 名)

入 所			退 所		
男	女	計	男	女	計
6	14	20	8	13	21

【年齢構成】

	男	女	全体
入所者数	17	62	79
平均年齢	87.0	90.8	90.0
最高齢	101	102	－
最年少	67	71	－

【要介護度別人数】

要介護度	男	女	計
1	0	0	0
2	0	1	1
3	1	5	6
4	6	32	38
5	10	24	34
計	17	62	79
平均	4.5	4.2	4.3

2-2 医療の状況

【入院状況】

月	実人数	延日数
4月	8	95
5月	5	95
6月	8	135
7月	4	61
8月	2	10
9月	2	19
10月	4	47

月	実人数	延日数
11月	10	150
12月	8	120
1月	8	150
2月	6	83
3月	7	71
合計	72	1036
月平均	6.0	86.3

【入院疾患別人数(延人数)】 ※緊急搬送回数 1 件 (前年度 2 件)

疾患名	今年度	前年度
肺炎	9	19
尿路感染	3	1
胆・膵・肝機能系	4	3
腸閉塞・腸炎	2	1
心疾患	3	8
脳梗塞	2	1
骨折	3	2
その他(感染症含)	22	25
計	48	60

【医療管理状況】

医療行為	今年度	前年度
胃ろう	5	5
在宅酸素療法	3	2
人工肛門	0	0
尿道留置カテーテル	2	2
インシュリン注射	0	0
痰の吸引(常時)	6	6
合計	16	15

《総評:健康管理係長》

入居者の平均年齢は 90.5 歳、要介護度は 4.3 と超高齢・重度化が進んでおり、多様な疾患による入院者が増加している。年間で 30 日を超える長期入院者は 12 名、そのうち 7 名が年度内に逝去された。主治医の治療方針や家族の意向も踏まえつつ、長期入院時にどこまで治療を継続するかの判断は難しく、今後も協力医療機関と情報共有を密にし、退院判断や看取りへの移行について適切に協議していく必要がある。今年度下半期からは介護記録ソフトの注意アラートを活用し、毎週多職種で健康チェックを行い、状態悪化前のケア見直しに取り組んだ。また、口腔ケアや体位ドレナージを強化したことで、肺炎による入院者は減少傾向。今後も予防可能な入院を抑えるため、多職種でケアの質向上に努め、アラートや小さな変化を見落とさない健康チェックを継続していく。

2.-3 機能訓練の状況

【週間スケジュール】

担当	月	火	水	木	金	土
ユニット職員	生活リハビリ					
機能訓練指導員	午前	個別機能訓練(南2)	個別機能訓練(中1) 健康チェック	歯科衛生士 口腔ケア(月2回)	個別機能訓練(中2)	個別機能訓練(南1)
		お口の体操(各ユニットにて)				
	午後	レクリエーション:各ユニット月2回程度 クラブ活動:習字クラブ(月1回1ユニットずつ実施) 縫布クラブ(第4金曜)				
理学療法士(非常勤)		個別機能訓練 宮岡PT			個別機能訓練 宮岡PT	

【機能訓練内容】

職種	内容	
ユニット職員	生活リハビリ	離床、体位交換・圧抜き、ポジショニング・シーティング、口腔ケア・リハ、座位・立位訓練、食事・整容・排泄・入浴時の ADL 訓練、手作業・代替行動の提供など
	集団体操	お口の体操
機能訓練指導員	個別機能訓練	関節可動域訓練、ポジショニング・シーティング、口腔リハ、座位・立位訓練 ADL 訓練など

	集団活動	集団体操(お口の体操) 集団レクリエーション(音楽クラブ、風船バレーなど)
理学療法士(非常勤)	個別機能訓練	関節可動域訓練、筋力増強訓練、ポジショニング・シーティング、立位、歩行訓練、生活リハビリの指導など

【外部専門家によるスーパーバイズ】

	内容
河野歯科医師	・個別の歯科治療(随時) ・「基本サービスとしての口腔衛生の管理体制」のための技術的助言・指導(年2回) ・「口腔衛生管理加算」のための口腔内チェック(月1回)
阿部歯科衛生士	・「口腔衛生管理加算」のための口腔ケア(月2回) ・「経口移行」「経口維持」のためのミールラウンド(月1回)

機能訓練実施延べ人数

機能訓練内容	今年度	前年度
①身体運動機能(うち嘱託 PT)	813(746)人	781(709)人
②摂食嚥下機能	66 人	140 人(評価含)
③認知言語機能	11 人	4 人
④集団活動	1,405 人	1,276 人

※)介護職員による生活リハビリを除く

《総評:機能訓練指導員》

口腔ケアでは、口腔内残渣や舌苔、上顎の痂皮に関する指摘が増えた時期があり、ユニット会議で基本の確認を行ったものの、職員間で意識の差がみられるため、改めてユニット単位での講習を実施する予定である。食事ケアについても、個別対応はその都度行っているが、検討頻度が高くなっており、基本ケアの再確認が必要と感じている。口腔ケアと同様に、ユニット単位での講習を検討している。移乗やポジショニングは、新入所・退院時や状態変化時に多職種で検討し、ポジショニングカードを活用してケアの統一を図った。排泄面では、多職種でトイレ・ポータブルトイレの使用可能性や姿勢の確認を行い、スタンディングマシンの活用者は4名となり、昨年より2名増加した。職員からスタンディングリフト使用の提案もあり、適応者への理解が進んでいる。集団体操は、「朝の体操」を昼食前の「お口の体操」として実施することで参加者が増え、効果的であった。今後も継続するとともに、ユニット職員による実施も促していく。

2.-4 ケアの状況《重点目標》

取組事項	取組内容
トータルケアの実践 多職種協働システム	《全部門》 ■ 総合記録シートを活用したケア向上の継続実施〔記録システムの継続〕 ■ オペレーションシート(シフトマニュアル)を活用した統一したケアの実施〔業務マニュアルの継続〕 ■ 多職種連携室を情報共有拠点とした会議、ミーティングの実践〔多職種共同による情報共有〕 《認知症ケア》

	1.内部研修会の開催 2.困難ケースカンファレンスの開催 《食事・排泄ケア》 1.多職種によるラウンドチェックの実施 《ノーリフティングケア》「目的」:入所者の拘縮予防及び職員の腰痛予防のため。 1. スカイリフト研修を新人研修内で実施。 2.介護職員に対する移乗技術のラウンドチェック実施 3. 新規使用者への導入時に随時研修実施し、使用状況チェック実施。 【福祉機器の使用状況※年度末適応者数】 ● 移乗時:床走行式リフト(33 人)/フレックスボード(0 人)/スライディングボード(7 人) ● トイレ・入浴時:スタンディングマシン(4 人)
--	---

2-5 ユニットの取り組み

特別養護老人ホーム/短期入所

重点ケア 食事・排泄	(食事ケア)重度の利用者が多い中で、咀嚼・嚥下状態を観察しながらスタッフ間で相談し、食事形態や姿勢の見直しを行うなど、個別に応じた対応ができていた。一方で、食事介助の統一が不十分な場面もあり、基本ケアの再確認が必要と感じられた。また、タブレットへの摂取量の記録漏れが継続しており、声掛けや記録徹底が課題となった。看取り期や摂取量にむらのある利用者にも状態に合わせた対応はできていたが、食事姿勢の確認が不十分な場面もあり、基礎の振り返りが必要である。水分摂取量の記録不足により最低量を下回るケースもあり、次年度の改善点となった。 (排泄ケア)陰部洗浄を行っていても便の拭き残しがみられるなど、観察不足や技術の未熟さが課題として挙げた。利用者ごとに異なるパッドの当て方や排泄介助のポイントが統一されず、個人のやり方に偏る場面もあり、基本技術の再確認が必要であると感じられた。一方で、排泄時間や使用アイテムについてはスタッフから意見を出し合い、状態に合わせて見直し・変更するなど、多職種連携での取り組みが進んだ。スタンディングマシンの活用者も増え、職員からの提案もみられるなど、適応者への理解が深まっている。同性介助や羞恥心への配慮も連携して実施できていた。
重点ケア 認知症	利用者は概ね穏やかに過ごせていたが、興奮や不穏が強い場面では職員によって対応や言葉遣いに差がみられ、認知症ケアの知識を実践に十分活かしきれていない点が課題となった。一方で、入浴拒否へのアプローチ改善など、個別性に応じた工夫が成果につながったケースもあった。また、敬称の使用や傾聴姿勢が不十分な場面があり、接遇面の統一も必要である。歩行不安定な方への見守りが遅れ転倒につながったケースもあり、危険予測と観察力の強化が求められる。次年度は、認知症の理解を深め、声掛け・対応方法・接遇の統一を図り、利用者へ寄り添ったケアをチーム全体で実践していくことが重要となる。
イベント企画 及びアクティビティ	多忙な中でも月 1 回のイベントは計画通り実施でき、夏祭り・クリスマス会・書き初めなど、食事系以外の行事も取り入れ、経管栄養の利用者も含め多くの方が参加できた。イベント当日は職員全体で動き方を工夫し、短時間でも全員が離床して参加できるよう段取りを整えることができた。一方で、日々の暮らしの中で楽しめる余暇活動は十分に行えなかった。季節の飾りつけや、リビングでの手作業など個別対応はできたが、通年でのレクリエーション実施には至らなかった。今後は、職員だけでなく利用者の声も取り入れ、利用者自身が企画に参画できるイベン

	トづくりを進めるとともに、午後の人員が確保できる時間帯を活用し、年間を通して余暇活動を継続できる体制づくりを目指したい。
ユニット環境 及び衛生管理対策	月2回の掃除が実施できない時期があり、車椅子・ベッド・床の汚れや、ロング利用者の居室清掃の不十分さが課題としてみられた。居室から少しずつ環境整備を進めているものの、全体としてはユニット環境をより整えていく必要がある。季節の飾りつけやレイアウト調整など、利用者が過ごしやすい空間づくりには一定の取り組みがみられた。 感染対策では、大きな新型コロナウイルスやインフルエンザによる感染症拡大なく過ごせたが、年度末には消毒不足やフェイスシールド未着用、換気の不徹底など基本的な対策が緩み、感染症(RS ウイルス)を広げてしまったことが反省点となった。手洗いは実施できているが、1 ケアごとの手指消毒や石鹸・アルコールの補充管理が後手に回る場面もあった。今後は、午前・午後のアルコール消毒を継続しつつ、職員同士で声を掛け合い、清掃・換気・消毒など基本動作の徹底を図ることで、感染症ゼロを目指して取り組んでいく必要がある。
スタッフの連携 ・情報共有	利用者の情報共有は概ねできていたものの、スタッフ間の声掛けや連携にはばらつきがあり、落ち着いた時間帯には声の掛け合いが減る傾向がみられた。忙しさを理由に指導や確認が滞る場面もあり、「分かっているだろう」「してくれるだろう」という思い込みが情報共有不足の一因となっていた。引継ぎでは、メモがそのまま残りの勤務者に伝わっていないケースや、ケア変更の申し送りが十分に把握されていない場面があった。連絡ノートや日誌、LINE など複数のツールを活用して周知は行えていたが、内容理解の確認が不十分で、情報の受け取りに差が生じていた。一方で、日々の業務の中でスタッフから提案や意見が多く出され、意見交換が活発に行われていた点は良い傾向である。今後は、連絡手段を整理しつつ、口頭での補足説明や理解確認を徹底し、声掛けを習慣化することで、情報共有の質を高めていく必要がある。

2.-6 年間のユニットイベント(実績)

【中1丁目】

4月	花壇づくり	10月	栗より美味しい?! さつまいもパーティー。
5月	新茶の季節がやってきた! お茶会を楽しもう	11月	お好み焼き
6月	七夕飾り	12月	クリスマス会
7月	あんみつ作り	1月	新年会
8月	夏祭り	2月	花壇作り
9月	お月見団子作り	3月	ティーパーティー

【南1丁目】

4月	散歩	10月	ハロウィンパーティー
5月	買い物ドライブ ポエム	11月	いもたき
6月	アジサイ鑑賞	12月	ゆず湯、クリスマス
7月	たらいそうめん	1月	書初め
8月	すいかわり	2月	節分
9月	お月見おやつ	3月	手作りおやつ

【中2丁目】

4月	いちご狩り	10月	手作り（お月見団子）
5月	お茶会（手作りおやつ）どら焼き	11月	手作りおやつ作り
6月	七夕飾り付け	12月	（スイートポテト）
7月	あんみつ作り	1月	クリスマスツリー飾り&写真撮影会クリスマス会
8月	夏祭り	2月	新春書初め+福笑い
9月	運動会	3月	豆まき

【南2丁目】

4月	お花見おやつ	10月	ハロウィンパーティー
5月	手作りおやつ	11月	いもたき
6月	あじさい鑑賞	12月	クリスマス会・忘年会
7月	たらいそうめん	1月	新年会
8月	スイカを頂こう	2月	チョコレートフォンデュ
9月	外出	3月	ひなまつり

《総評:特養係長/生活相談員主任・副主任》

目標稼働率 96.6%に対し 96.2% 総延べ入院(外泊)日数 1,036 日

今年度も排泄ケア・食事ケア・口腔ケアを中心に基礎介護力の維持・向上に取り組み、継続的な実践ができた。痰が多い利用者への体位ドレナージの実施により、肺炎による入院は減少した。一方で、自力で動かれる方の転倒骨折や、RS 感染症、嚥下低下による誤嚥など、予防可能であったケースもあり、長期入院の要因となった。入所者の平均要介護度は年度末で 4.3 となり、身体・精神面ともに重度化が進む中でも、感染症状況に応じて工夫しながら年間イベントを実施することができた。今後の重度化対応としては、介護記録ソフトの注意アラート機能を活用した健康チェックを継続し、ケアの基本を丁寧に行う体制を強化していく必要がある。

また、内部研修については参加するスタッフが固定化しつつあるため、オンライン研修を併用し、より多くの職員が学びに参加できる環境づくりを進めていきたい。

3. II. ショートステイ（〔介護予防〕短期入所生活介護）

3-1 利用状況(令和8年3月31日現在)

【利用状況】

延べ人数	男	女	計
予防短期入所	0	157	157
短期入所	1653	4527	6180
合計	1653	4684	6337
平均利用者数	4.5	12.8	17.4

実人数	男	女	計
東温市	17	39	56

松山市	0	5	5
砥部町	0	1	1
西予市	0	1	1
八幡浜市	0	1	1
合計	17	47	64

【要介護度別延べ人数】

要介護度	男	女	計
要支援 1	0	3	3
要支援 2	0	154	154
要介護 1	62	50	112
2	266	861	1127
3	800	2140	2940
4	338	539	877
5	187	937	1124
計	1653	4684	6337
平均要介護度	3.2	3.2	3.2

【北 2 丁目】

4 月	たけのこご飯づくり	10 月	ミニ運動会
5 月	菖蒲湯週間・お茶会	11 月	芋炊き
6 月	あじさい散歩	12 月	ゆず湯・クリスマス会
7 月	たらいそうめん	1 月	新年会
8 月	スイカ割り	2 月	節分豆まき
9 月	お月見団子づくり	3 月	ちらし寿司づくり

《総評:特養係長/生活相談員主任・副主任》

目標稼働率 82.5%に対し 86.7% 一日の平均利用者 17.4 名

目標稼働率を上回り、5 月～1 月は 85～93%を維持することができた。利用者の体調が比較的安定しており、急な入院やキャンセルが少なかったことに加え、定期・不定期利用者の利用日数増加、ロングショート空き発生時にケアマネジャーへ積極的に発信したことが新規利用につながり、稼働維持に寄与した。一方で、2 月・3 月にはロングショート利用者が RS ウイルス感染や心不全などで約 5 名入院し、稼働率が 75%まで低下した。週半ばの平日に空きが出やすい傾向は続いているが、空いている日程でも利用したいという利用者が増えてきている点は前向きな変化である。今後も利用者の動向に注意しつつ、空き状況をケアマネジャーや地域医療連携室へ積極的に発信し、情報共有を密にしながら稼働率向上に努めていきたい。

4. Ⅲ. デイサービス(〔介護予防〕通所介護)

4-1 利用者の状況(令和 8 年 3 月 31 日現在)

【利用状況】稼働日数 26 日

延べ人数	男	女	計
通所介護	165	388	553

総合事業(独自)	31	90	121
総合事業(A型)	0	0	0
合計	196	478	674

登録者人数	男	女	計
東温市	21	53	74
松山市	1	1	2
西予市	0	1	1
合計	22	55	77

【要介護度別延べ人数】

要介護度	男	女	計
事業対象	0	0	0
要支援 1	4	0	4
要支援 2	27	90	117
要介護 1	8	114	122
2	56	152	208
3	84	67	151
4	17	28	45
5	0	27	27
計	196	478	674
平均要介護度	2.3	1.9	2.0

4.-2 ケアの状況《重点目標》

取組事項	取組内容
個性性を把握し、それぞれに合った個別対応を实践	① 認知症困難ケースに対し、多職種協働によるカンファレンスを行い、スタッフへフィードバックすることで、異常の早期発見や体調悪化を未然に防ぐ。 ■ ミーティングの強化(朝礼・終礼)による情報共有の実施 ■ デイ会で認知症加算対象者の事例検討、不定期でトータルケア勉強会(認知症困難事例検討会)に参加し、事例を検討。 ② 認知症の方が役割を持ち、在宅で穏やかに生活できるように家族や関係事業所との連携を図りながら、寄り添った支援をする。 ■ 奉仕活動(洗濯物干し、洗濯たたみ、中庭や廊下掃除、シール貼りなど)の実践 ■ 脳トレプリントの工夫(その人に合った内容)による意欲向上 ③ HOL(Happiness of life)の提供を目指して、アクティビティの充実を図り、利用者の笑顔を増やす取り組みをする。(毎日のイベント計画と実践) ■ 紙芝居劇場やスタッフの趣味特技(ギター・篠笛・ピアノ・三味線など)を活かしたアクティビティの実践 ■ 東温市社協のボランティアセンターに依頼して、地域で活動しているボランティアグループに来ていただいた。(オカリナ演奏、大正琴演奏、マジックなど)

	■ 手芸や習字、絵手紙などお手伝いが必要な行事にハピサボの依頼をしてご協力いただいたことにより、目が行き届き、作品作り等スムーズにできた。 ④ マシントレーニングや個別機能訓練を実施し、利用者の在宅生活継続と身体機能の分析評価を行い、機能維持・向上を目指す。 ■ マシントレーニングの実施(1日平均10～11名実施)。体力測定(利用者約7～8割実施) ■ 小集団体操(5名以下)の内容強化。ゲーム的な要素も取り入れて新しい取り組みをし、スタッフ間で共有して実施している。 ■ R8.3月上旬より、レッドコードを開始。1日平均12名位実施でき、利用者からも「これはいい」「肩の筋肉がついた気がする」など声が聞かれている。
地域との交流を増やし、連携を深める	① 公益的な地域活動(おとこ塾(男性介護者の会)・地域サロン出前講座、法人地域共生センターとの連携による活動)へ積極的に参加し、利用者家族や地域住民との関係を深める。 ■ おとこ塾やえがお食堂は1名ずつ参加。 ② 突合等、関係会議へ積極的に参加し、近隣の他事業所との連携を図り、情報交換をする。 ■ 突合廃止に伴い、何かあればケアマネやヘルパーなどに直接連絡し、情報共有に努めた。東温市の集団指導等に参加し、グループワークで情報交換ができた。 ③ ボランティアの受け入れや地域(保育園・学校等)、家族(家族会等)との交流の充実を図る。 ■ 東温市社協のボランティアセンターに依頼してオカリナやコーラスなどのボランティア受け入れた。 ■ スタッフの友人知人を介して、朗読やバイオリン演奏など新たなボランティアの受け入れもできた。 ■ 近隣の小中学校、幼稚園、しののめ認定こども園、あいりんこども園にも卒業・卒園メッセージを届けた。 ■ 川内中学校や重信中学校の職場体験学習の受け入れをした。
働きやすい職場作りの実践。基礎介護力を高め、質の高いケアを提供	① 業務内容の見直し(記録のデジタル化と省力化、希望休が取得できる体制作り等) ■ インカムを活用して情報伝達ができた。 ■ リフレッシュ休暇や希望休など希望確認をして、希望の日に休めるよう調整できた。 ② 施設内・外研修への参加をし、基礎介護力とサービスの質の向上を目指す。 ■ 内部研修は概ね文書回覧。毎月デイでの勉強会を実施。 ■ 外部研修(高齢者虐待防止研修会、デイサービスセンター職員研修会)に参加した。 ③ ノーリフティングケアの環境整備や勉強会を実施し、利用者や職員の身体的負担軽減を図る ■ 立位が難しい方の移乗や移動にスカイリフトを安全に使用できるようにするため、業務課長や特養機能訓練指導員と連携し、安全に使用できるようになった。
安定した運営のため、広報活動を増やし、新規利用者の獲得を目指す	① 行事予定表とブログの充実を図り、広報・営業活動を通じて新規利用者の獲得を行う。 ■ 行事予定表は毎月20日頃発行、ブログは11月下旬より毎日投稿して取り組み発信中 ■ 居宅介護支援事業所訪問でのPR活動(体験利用者31名、新規利用者28名) ② 年6回ちらしを作成し、近隣の居宅や利用者、地域住民に配布することで、デイサービスの取り組みを広める。 ■ ちらしを作成し、関係事業所や近隣事業所へ配布した。
業務の効率化と適正利益の確保に努め、安定した運営を	① 毎月の収支に関心を持ち、車輛管理、備品管理、水道光熱費等のコスト意識を高める。デイの稼働実績を定期的に確認する。 ■ 毎月デイ会議内で利用者の動向を共有して、コスト意識に関する周知。

目指す	■ 朝礼や終礼時、節電や節水、安全運転など声かけ。 ② 安定した運営のために加算を取得し、サービス提供内容の充実を目指す。介護報酬改定に合わせた各種利用料・取組みについて、利用者や家族、各居宅介護支援事業所へ丁寧に説明する。 ■ 今年度算定している加算やデイの料金について、デイ会でスタッフに周知。 ③ デイルームの環境改善を計画的に実施する。(レイアウト・設備・備品の工夫など) ■ リニューアルに向け、デイルーム内のレイアウト変更について話し合い、案を作成。4/11 営業後に移動する。
感染症対策、防災 防犯対策を強化 し、快適な居住環 境を整備する	① サービス提供による感染発生「0」を目指し、平常時から感染予防に努める。感染症対策の研修に参加し、感染症の予防と利用者・職員へ周知して感染予防を徹底する。 ■ 感染症やガウンテクニックの勉強会を実施した。感染症に罹患するスタッフはいたが、デイで感染が拡大することはなかった。 ② 防災・防犯対策訓練に参加し、安心して利用できる環境を作る。 ■ 防災や防犯訓練に参加した。消火訓練は利用者も一緒に参加や見学した。 ③ 利用者へ向けて、感染症対策や防災・防犯対策のお話をする機会を作る。 ■ 利用者へ向けて、レクリエーションや朝の会の時間に感染症対策や防災・防犯対策のお話をする機会を作った。

4-3 年間のイベント(実績)※)月1回開催のメイン

4月	春まつり	10月	デイ運動会
5月	かしわ餅づくり	11月	秋まつり/紅葉ドライブ
6月	紫陽花ドライブ	12月	クリスマス会/忘年会
7月	七夕飾り	1月	初詣/新年会
8月	夏まつり	2月	鬼食い作り/節分会/冬まつり
9月	デイ敬老会	3月	ひな祭り会/桜餅作り/お花見ドライブ

4-4 その他の状況

内容	件数	備考
苦情解決件数	0	
事故報告件数	19	内、受診を伴う市への事故報告1件
ヒヤリハット件数	33	

《総評:通所係長》

目標稼働率 80.0%に対し 76.7% 一日の平均利用者 26.6名 年度末登録者数 77名

前年度より稼働率が下がり、特に4月に大きく低下した後、なかなか回復が進まなかった。8月～11月には一時的に稼働率が上昇したものの、その後は維持できず再び低下する状況が続いた。要因としては、入院・入所・当日キャンセルが多かったことに加え、昨年度からの課題である営業活動が十分に行えず、居宅からの紹介が減少したことが挙げられる。一方で、ブログ活動は副主任を中心に11月下旬から毎日投稿が継続されており、家族やケアマネジャーから「見えています」「様子が分かって嬉しい」などの反響があり、情報発信として良い効果が出ている。次年度に向けては、計画的に進めているリニューアルを軸に、新たなサービスの提案や積極的な営業活動を強化し、稼働率の安定に向けてスタッフと協力しながら取り組んでいきたい。

5. IV.ホームヘルプサービス(訪問介護)

5-1 利用者の状況(令和7年3月31日現在)

【利用状況】

延べ件数	男	女	計
身体介護	10	586	596
身体生活	80	296	376
生活援助	766	1110	1876
訪問型独自	17	1236	1253
計	873	3228	4101

【要介護度別延べ利用回数】

要介護度	男	女	計
要支援1	2	394	396
要支援2	15	842	857
要介護1	221	943	1164
2	371	405	776
3	364	189	553
4	0	39	39
5	0	416	416
計	973	3228	4201

【要介護度別延べ人数】

要介護度	男	女	計
事業対象	0	0	0
要支援1	2	52	54
要支援2	2	123	125
要介護1	25	71	96
2	45	40	85
3	12	24	36
4	11	0	11
5	0	105	105
計	97	415	512
平均要介護度	2.1	1.6	

5-2 ケアの状況《重点目標》

取組事項	取組内容
在宅生活の維持	① ケアマネジャーやサービス事業者と情報共有を密にしながら利用者の体調管理に努める ② サービス担当者会議へ参加し関係機関との情報交換を図る ③ 利用者だけでなく、家族との交流も深め、問題の把握に努める。

	④ サービス提供責任者からの文書等による指示、及び訪問介護員からのサービス提供後の報告により、利用者の状態をいち早く把握する。
職員研修	① 施設内外の研修への参加を通し、全体の資質の向上を図る。訪問介護員ごとに研修計画を作成し、年間を通して実施する。 ② ホームヘルパー会(毎月)を開催しヘルパーの専門性の向上と情報共有を図る。 ③ 介護ネット(東温市)へ参加し意見交換や情報収集を図る。 ④ サービス提供責任者の業務を分担していく。常勤ヘルパーの専門性を高める。
安定運営の確保	① ホームヘルパー会での安全なサービス提供や接遇に関する学習を図る ② 介護支援専門員と連携し、広報活動を積極的に行い、新規利用者の獲得を目指す ③ 東温市のみにこだわらず、通勤範囲内で松山市を含めた訪問先を増やしていく。 ④ 特定事業所加算などの加算を取得することで、より質の高いサービスを提供することを心がける。 ⑤ 限られたヘルパーで可能な範囲の訪問の依頼にこたえる。

5-3 その他の状況

内容		備考
苦情解決件数	0	
事故報告件数	0	

《総評:サービス提供責任者》

目標稼働率 65.0 %に対し 56.5 % 一日の平均利用者 12 名 年度末登録者数 62 名

令和7年度は常勤・パートとも退職者はおらず、体調不良で入院した1名も復帰し、安定した人員体制で運営することができた。登録ヘルパー6名は全員60代以上で、身体介護には得意・不得意があり、通院介助など体力を要する業務は体力のあるヘルパーが担当するなど、役割分担を工夫して対応している。訪問内容は生活援助が中心で、身体介護では服薬介助や見守りが多い。利用者への接遇は概ね良好である。事業所加算の取得により、利用者の状態を毎日把握できるようになり、異変に気付いた際には速やかに関係機関へつなぐことが可能となった点は大きな成果である。一方で、常勤ヘルパーの訪問時間が週20時間ほどあり、事務作業を教える時間が十分に確保できなかったことが課題として残った。今後は、サービス提供責任者として担当利用者を増やし、新規依頼受付から加算取得に必要な業務まで、一連の流れを計画的に指導し、事務作業を含めた業務全体のスキル向上を図っていきたい。

6. V. 居宅介護支援事業所(居宅介護支援)

6-1 利用者の状況(令和8年3月31日現在)

【利用状況】 居宅サービス担当 月間人数 予防 33 件 介護 105 件 暫定利用 0 件

利用者	予防		介護	
	男	女	男	女
東温市	6	27	31	72
松山市	0	0	0	0
西予市	0	0	2	0
計	6	27	33	72
	337		105	

【要介護度別利用人数】

要介護度	男	女	計
要支援 1	2	7	9
要支援 2	4	20	24
要介護 1	10	20	30
2	10	31	41
3	5	11	16
4	6	4	10
5	2	6	8
計	47	97	144

6.-2 ケアの状況《重点目標》

取組事項	取組内容
在宅生活の維持	① 意思決定支援・生活機能向上を予防的ケアを意識して提供することで重度化の予防を図る。 ② ビジネスケアラー等の家族全体を包括的に支援するマネジメントの実施。 ③ 適切なケアマネジメント手法の習得によるプランニング技術の向上。
資質向上	① 専門課程の外部研修を受講し、最新の個別援助技術を身につける。 ② ICT の活用による生産性の向上とケアマネジメントの質の向上。 ③ 地域包括支援センターと協働し、地域全体の課題の表出や問題の提起。
地域活動への参加	① 東温市地域包括支援センターや主任ケアマネの会と協働して災害時に備えたマネジメントを行い、勉強会やシミュレーションを通じて防災への意識を高める。 ② 地域支援活動の推進において情報を発信し、介護予防、地域を支える互助の大切さを伝える。 ③ 男性介護者の会を継続実施し、家族同士のつながりを深める。

6.-3 その他の状況

内容	件数	備考
苦情解決件数	0	
事故報告件数	0	

《総評:居宅管理者》

新規相談は年間 50 件と平年並みであったが、利用者の重度化に伴い施設入所へ移行するケースが多く、特に要介護 2～3 での移行が増え、他法人へ対応を依頼する場面も多かった。今年度は新人職員が 2 名加入し、相談対応件数の増加が期待できるものの、未経験者であるため制度理解や業務習得には時間を要している。成長の速度は緩やかだが、離職を防ぐためにも働きやすい職場づくりを継続していく方針である。また、事業所全体として高度な専門知識の習得を進めるため、トータルケアに関する学習機会を設け、職員の資質向上と信頼される事業所づくりを目指していく。災害や感染症対策については、事業継続計画 (BCP) の周知と対策の検討を継続し、防災体制の強化が必要である。さらに、ICT の活用による業務効率化と負担軽減を進め、職員が働きやすい環境整備を図ることで、安定したサービス提供につなげていきたい。

7. VI.在宅介護支援センター(委託事業)

7-1 活動実績報告

業 務 内 容	実 績
東温市地域包括支援センターのブランチの設置運営及び地域包括支援センター業務への協力	
パンフレット 作成部数(部)	222
民生児童委員協議会 出席回数(回)	10
市・包括・在支 調整会 出席回数(回)	12
第2層協議体 出席回数(回)	9
実態把握	
個別連絡・訪問等による実態把握(独居高齢者等) 実人数(人)	9
配食事業、緊急通報装置等の利用に係る調査 実人数(人)	4
総合相談支援	
相談支援 延べ人数(人)	308
高齢者虐待に関する相談・支援 延べ人数(人)	0

7-2 ふれあい・いきいきサロン参加事業

今年度実績なし。

その他

日 時	サロン等	場 所	人数	内 容
11月18日	天神サロン	天神集会所	6名	健康推進課サポート
1月20日	天神サロン	天神集会所	2名	健康推進課サポート
合 計			8 名	

7-3 地域関連事業

	事 業 名	内 容	主 催 者
地 域 関 連 事 業	介護ネット東温	搜索訓練 メールでの連絡訓練	介護ネット東温
	健康状態不明者の状態把握	実態把握 R5年度 R6年度において健診受診なし かつレセプト履歴なしかつ介護認定なし の後期高齢者への安否確認、情報収集	東温市健康推進課
	生活支援体制整備事業	第1層・第2層協議体 「助け合い・支えあいどうおん」 地域課題の表出 月1回実施 避難所開設の学びと特殊詐欺について	生活支援コーディネーター

《総評:在支担当》

地域支援活動では、実態把握や民生児童委員協議会での意見交換を通じて、地域の状況を把握することができた。サロン活動は各地区でお世話人の工夫により継続され、サロン単位での外出も行われるなど、地域住民主体の取り組みが活発であった。

配食サービスについては、助成を受けていた2社のうち1社が年度末で事業終了となり、対象者は減少傾向にある。また、自費利用

では配達人員不足により、夕食が朝 9 時に届くなどの課題も生じている。通所・訪問サービス利用日の配食利用が難しいことも、利用者減少の一因となっている。相談支援では、介護保険以外の相談についてノウハウが不足しているため、内容に応じて関係機関と連携し対応した。引き続き、地域の実態把握や関係機関の会議への参加を継続し、地域との関係構築に努めていく必要がある。

また、来年度からは個人情報保護の観点から在宅支援の契約形態が変更され、業務内容も見直されているため、新たな体制に沿った運営が求められる。

8. 各部門報告(委員会活動を含む)

8-1 防災・防犯活動

訓練項目	開催日時	参加者	内容
避難訓練 (ガリヤ荘)	6月8日(日) 14:00-15:30	利用者 100 名 職員 30 名	地域の自主防災組織、消防署員監修の上通報訓練及び全体での避難訓練実施。避難誘導、消火器を使用した消火訓練の実施。
愛媛県伊方原発防災訓練(ガリヤ荘)	11月29日(土) 8:30-13:30	職員 6 名	県防災訓練の一部として参加。つわぶき荘避難受け入れ想定訓練。ヘリ搬送からの避難受入実施
夜間想定通報訓練 (ガリヤ荘)	12月12日(金) 18:45~20:00	職員 50 名	夜間緊急時連絡表での非常招集訓練。通報訓練。
シェイクアウトえひめ (ガリヤ荘)	12月12日(金) 11:00-11:15	利用者 110 名 職員 30 名	愛媛県全体での地震を想定した安全行動をとる訓練を実施。模擬消火訓練実施。

8-2 感染症対策

① 衛生管理委員会の開催

季節を問わず感染症が流行する状況の中、毎月の委員会や運営委員会を通じて、平常時からの感染予防対策を継続的に周知し、意識づけを図った。感染症が疑われる段階から速やかに居室隔離を実施し、施設全体で情報共有と連携を行うことで、感染拡大防止に努めることができた。

② RS ウイルス感染報告

【1 例目】 R8 年 3/2 ロングショート利用者 1 名が RS ウイルス陽性となり肺炎で入院、同日ロングショート利用者 1 名が肺炎で入院(検査未)、同日さらにショート利用者が発熱し退所(検査未)、3/4 ロングショート利用者 1 名陽性となり肺炎像ないため居室隔離で利用継続、3/7 ロングショート利用者 1 名陽性となり右肺炎で入院、以降陽性者の発生なく 3/14 に解除とした。

【2 例目】 R8 年 3/23 特養中 1 丁目 2 番地入居者 2 名発熱と風邪症状あり、うち 1 名受診し RS ウイルス陽性となり肺炎像ないため居室隔離で施設対応、もう 1 名も疑いで施設対応とした。3/27 同番地入居者 1 名発熱と風邪症状あり、疑いにて施設対応した。上記 3 名中 2 名が低酸素となり、1 週間ほど在宅酸素使用した。4/2 に同番地 1 名発熱と低酸素状態で受診、肺炎像はないが陽性診断あり入院。以降陽性者の発生なかった。

	特養	短期	通所	その他	計
利用者	2(疑い 2)	3(疑い 2)	0	0	5
職員	0	0	0	0	0

③ エンテロウイルス感染症報告

R8 年 3/30 に特養中 2 丁目 2 番地入居者 1 名が発熱と風邪症状あり受診、エンテロウイルス陽性診断あり、肺炎像はない

が低酸素状態のため入院となった。4/1 同ユニット 1 番地入居者 1 名が高熱のため受診、肺炎像はないが意識レベル低下のため入院した。以降陽性者の発生はなかった。

	特養	短期	通所	その他	計
利用者	2	0	0	0	2
職員	0	0	0	0	0

④ インフルエンザ/新型コロナウイルス/ノロウイルス

発生なし

⑤ その他

毎日の朝礼や生産性向上委員会、特養会などを通じて、最新の感染症動向を職員へ継続的に情報提供し、平常時からの感染予防意識の向上に努めた。また、令和 6 年度より愛媛県中予保健所主催の感染対策マネージャー養成研修会へ参加し、県内 ICN から最新の感染対策を学び、職員会内で随時共有することで、施設全体の知識向上につなげている。今後も感染症の動向を注意深く把握し、最新の知見を取り入れながら、施設内での感染対策の周知徹底を継続していく。

8.-3 褥瘡対策

褥瘡対策委員会の開催(毎月) 令和 7 年度 褥瘡発生人数 3 名(うち 2 名死去、1 名治癒)

例年通りきめ細やかな観察・対策を行い、褥瘡予防に取り組んだ。令和 6 年度も皮膚科 Dr を含む栄養士や機能訓練指導員など、多職種で今まで以上に褥瘡予防に取り組んでいく。

8.-4 権利擁護・苦情解決

権利擁護苦情相談委員会の開催(随時) 令和 7 年度苦情件数 0 件

8.-5 身体拘束・高齢者虐待対策

身体拘束廃止・高齢者虐待防止委員会の開催(毎月) 身体拘束件数 0 件 高齢者虐待件数 0 件

施設指針の周知を継続し、毎月の不適切ケア事例検討を通じて、虐待につながらない環境づくりと職員の意識付けを進めることができた。また、生産性向上委員会に参加し、各事業所へ毎月報告を行うことで、組織全体での取り組みの共有にもつながった。年 2 回の内部研修も実施し、知識の定着を図った。各種感染予防に配慮しながら、介護相談員の来荘を受け入れ、各ユニットで利用者の声を聞き取っていただき、その内容を各部署へ共有することで、利用者理解の深化に役立てた。安全面の環境整備や困難事例への対応においては、拘束廃止・虐待防止の視点を常に持ち、利用者一人ひとりを尊重した支援を行うことができた。

8.-6 栄養対策

給食委員会の開催(毎月)

栄養ケアマネジメントを実施。利用者の摂食状況や提供方法、献立等について施設長、各事業所職員、多職種、委託業者と検討。「人として最期まで口から食べる」ことに重きをおき、ソフト食・やわらか食を提供。また、便秘対策のため食物繊維の多い食事の提供を継続実施。一人ひとりの身体状態や嗜好を考慮した個別対応を行い、季節感のある食材や行事食を取り入れ、食事イベントを行い、利用者により一層満足していただける食事提供に努めていきたい。

8-7 事故対策

① 安全事故防止委員会の開催(毎月)

毎月の状況報告及びヒヤリハット報告を確認し再発防止の注意喚起につながるよう各担当係とユニットリーダーが検討し、生産性向上委員会内においても活動を報告することができた。発生数の多い事例について、特に重大アクシデントに発展しないよう日頃より注意喚起できる活動につとめていきたい。

② 事故状況・ヒヤリハット報告

I 月別発生件数(特養/短期入所別)

月	特養	短期	計
	報告件数	報告件数	報告件数
4月	49	9	58
5月	51	6	57
6月	53	20	73
7月	73	2	75
8月	47	8	55
9月	56	11	67
10月	47	11	58
11月	37	17	54
12月	44	10	54
1月	40	9	49
2月	55	18	73
3月	50	5	55
総計	602	126	728

II 内容別発生件数

内容	件数	内容	件数
内出血※3)	270	離設	8
傷※3)	94	異食未遂	7
転倒※1)	69	服薬ミス未遂※4)	3
他※5)	67	盗食	2
転倒未遂	67	誤薬※4)	2
転落※2)	45	設備環境不具合	2
転落未遂	43	在宅酸素ミス	2
服薬ミス落薬※4)	24	服薬ミス未遂落薬※4)	2
服薬ミス※4)	11	誤嚥未遂	1
食事提供ミス	8	誤薬未遂※4)	1
総計			728

※1) 立上りや歩行での転倒

※2) 車椅子、椅子、ベッドなどからのしりもち、座り込みを含む

※3) 軽度の発赤・腫脹、その他傷全般を含む(看護師による処置実施)原因が特定されない軽症や事故危険があったものを含む

※4)服薬ミス(本人の薬)、誤薬(本人の薬ではない)。未遂について事前に発見できたものを含む

※5)その他(ケアの方法等見直しが必要で合った事項)

III 報告レベルの内訳

※ヒヤリハットを含む、すべての状況報告

0	ヒヤリハット報告(未遂含)	574
I	ヒヤリハット報告(未遂以外) または看護師による処置、バイタル異常	146
II	病院受診(異常なし)	2
III	病院受診(怪我ありまたは再受診必要)	4
IV	病院受診(入院加療必要)	2
V	後遺症が残るあるいは死亡	0
他	精神的苦痛・機械・物品破損等	0
総計		728

IV 受診の内訳

事業所	内容	発生状態	発生日	診断
特養	転倒	歩行独歩	5/11	左大腿骨近位端骨折
特養	転倒	ベッド移乗	9/5	肋骨ひび疑い
特養	転倒	車椅子移動	10/24	第二腰椎圧迫骨折
短期	転落	椅子座位	12/3	右前腕表皮剥離
特養	転倒	車椅子立上り	12/23	狭心症/胸骨骨折
特養	転倒	歩行独歩	R8.1/21	左膝ひび疑い

(考察)

事故発生件数については、アクシデントにつながる可能性のあるヒヤリハット及び状況から軽微なものを含め、状況報告として取り扱い、重大事故につながる要因分析を図った。前年と比較し 29 件の報告増、重大アクシデント(レベルⅢ以上)については 1 件減少した。今年度においても、移動移乗動作が見守り軽介助レベルの利用者が居室内等での転倒・転落するケースにより怪我が発生していることから、認知症の方々の見守りの難しさが課題となっている。

9.行事・施設内研修・実習等受入の状況

	全体行事等	施設内研修	実習・見学等受入
4	辞令交付/入職式	新人職員研修	
5	東温市水防工法訓練 地域共生「えがお食堂」 松山しのめ認定こども園花の日訪問 職員会議	職員フォローアップ研修 排泄ケアラウンドチェック※光洋 眠りの環境相談会 法令遵守・守秘義務 感染症対策Ⅰ 総合訓練①	愛媛大学医学部看護科 松山学院高等学校
6	県実地指導(訪問介護:障害) 防災総合訓練(南方東自主防災合同) 地域共生「おとこ塾」	こころ塾相談体験会 トータルケア勉強会【WEB】 BCP 研修(自然災害)	愛媛大学医学部看護科
7	見守り機器(ケアシェルパ)トライアル (特養) 職員会議	排泄ケアラウンドチェック※光洋 リスクマネジメントⅠ 感染症対策Ⅱ(食中毒編)	愛媛大学医学部看護科 東温高等学校
8	松山労働基準監督署(安全衛生パトロール) 入居者レントゲン健診 職員ストレスチェック実施	基礎介護勉強会(認知症ケア) 基礎介護勉強会(介護 50)	愛媛県立医療技術大学看護科 松山学院高等学校 人間環境大学看護科 ウェルケア畑寺(デイ見学受け)
9	【中止】東温市長一日施設長就任・赤 ちゃんこ贈呈式 技能実習生(第一期)終了 消防設備点検 地域共生「おとこ塾」 職員会議	トータルケア勉強会【WEB】 身体拘束虐待防止Ⅰ 看取りⅠ 法人管理者研修会 法人 BCP 訓練	川内中学校(ジョブチャレンジ) 重信中学校(Ⅱ) 河原医医療福祉専門学校 愛媛大学医学部(介護体験)
10	【中止】運動会 地方祭(森地区神輿訪問) 長寿祝い撮影会 東温市人権擁護委員訪問 技能実習評価試験 東温市総合防災訓練	法人ネクストリーダー研修会	
11	【中止】ガリラヤ荘感謝祭 2025 デイサービス改修事前工事 松山しのめ認定こども園収穫感謝訪問 東温消防署防災設備立入検査 職員会議 愛媛県伊方原発防災訓練	職員フォローアップ研修 法人一般職員研修会 基礎介護勉強会(介護 50) 基礎介護勉強会(認知症ケア) 感染症対策Ⅲ(感染症全般) BCP 研修(感染書) メンタルヘルス研修(こころ塾)	川上小学校(まち探検)
12	市実地指導(居宅介護/訪問介護) 防災総合訓練/シェイクアウト訓練 /夜間通報訓練	トータルケア勉強会【WEB】 BCP 訓練(自然災害)	

	清愛園収穫祭外出(特養) 東温市人権養護委員訪問(デイ) 東温市社協共同募金歳末施設訪問 東温市婦人会歳末訪問 東温高等学校歳末訪問 クリスマスツリー・クリスマスイルミネーション		
1	デイサービスレッドコード設置工事 全館ワックスがけ 職員会議	職員フォローアップ研修 基礎介護勉強会(認知症ケア) 基礎介護勉強会(介護 50) リスクマネジメントⅡ 感染症対策Ⅳ総合訓練② BCP 訓練(感染症)	
2	見守り機器(ケアシェルパ)設置工事 (特養) 地域共生「おとこ塾&えがお食堂」 全館窓ガラス網戸清掃	感染症対策Ⅲ(感染症全般) 感染症対策Ⅳ(総合訓練②)	
3	消防設備点検 愛隣こども園訪問 東谷小学校花の寄贈訪問(通所) 職員会議	こころ塾相談体験会 トータルケア勉強会【WEB】 排泄ラウンドチェック※光洋 基礎介護勉強会(認知症ケア) レッドコード導入研修会 身体拘束虐待防止Ⅱ 看取りケアⅡ	
他	通年	委員会等活動	
	毎月・誕生昼食献立 毎月・イベント食(企画による) おやつ、お茶の時間(毎日) 各外出(散歩・ショッピング他) 訪問理容(たかの子理容・ヘアデザイン Qoo) 訪問マッサージ 東温市移動図書館「かぼちゃん号」 訪問販売(移動スーパー : とくし丸、おまかせ君) 訪問販売(パン屋、ヤクルト) 嘱託医 4 名(中川 Dr 内科、八木 Dr 皮膚科、吉田 Dr 精神科、河野 Dr 歯科) 体重測定(特養/短期:毎月) 入居者胸部レントゲン(年 1 回) インフルエンザ予防接種 新型コロナウイルス感染症予防接種	運営会議/部長課長会議 ・災害対策推進委員会(BCP) ・感染症対策推進委員会(BCP) ・安全対策推進委員会 ・運営改善委員会(5S 改善・ICT 推進) 生産性向上委員会 ・安全(事故発生防止)委員会 ・衛生管理委員会(感染症対策会議含) ・身体拘束廃止高齢者虐待防止委員会 ・給食委員会 権利擁護・苦情相談委員会 在宅委員会 入所判定委員会 居宅会議(週例会) デイサービス会議/デイサービス向上会 ヘルパー会議(訪問介護) 特養会議(リーダー会)/ユニット会	

クラブ活動	ボランティア等
陶芸(隔週水曜日) 習字(月1回・第2水) 俳句会【未実施】 音楽/風船バレー(各ユニット月1回) 縫布クラブ(第4金曜)R6.10月から再開	奉仕活動(不定期) 縫布ボラ(第4金曜)R6.10月から再開 ほっこり喫茶(デイ・隔週火水木)(法人地域共生) 介護相談員(基本:第1火曜日) オカリナそよ風(季節毎・第3火曜日)[再開] 東温市ハッピーサポート事業(サポータ派遣*随時) ※)その他、デイサービス随時受入

10.施設外研修の状況

【施設外研修】

	全体共通		特養/短期		通所介護		訪問介護		居宅介護		合計	
研修項目 延数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
介護	2	6	10	35	1	1	2	2	0	0	15	44
看護・保健・医療・感染症	4	7	4	5	0	0	0	0	0	0	8	12
防災・防犯	0	0	2	6	0	0	0	0	1	1	3	7
人材育成・マネジメント	2	4	4	15	0	0	0	0	0	0	6	19
専門(スキル向上・資格等)	1	1	7	9	2	2	4	4	4	5	18	21
行政(介護保険・制度他)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
人事・労務管理・会計	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	2	2
他	12	23	2	3	0	0	0	0	0	0	14	26
小計	22	42	30	74	3	3	6	6	5	6	66	131

※)各感染症対策に伴い、オンライン参加及び書面開催を含む

11.職員の状況

部門 等	前年度末	令和7年度当初				令和7年度中の状況				常勤換算
		退職	入職	異動	計	入職	異動	退職	計(年度末)	
特養/短期	87	-1	2	0	88	7	2	-6	91	69.3
(介護職員)	63	-1	1	0	63	5	2	-5	65	49.7
(看護職員)	9	0	0	0	9	0	0	0	9	7.8
(その他)	15	0	1	0	16	2	0	-1	17	11.8
デイサービス	14	0	0	0	14	0	0	0	14	11.9
訪問介護	9	-1	0	0	8	0	0	0	8	3.4
居宅	5	0	0	0	5	2	0	-1	6	4.0
計	115	-2	2	0	115	9	2	-7	119	88.6

※)医師等嘱託契約者の数は上記に含めず【医師4名、歯科衛生士1名、理学療法士1名(特養)、作業療法士2名(デイ)】

※)特養短期介護職員退職者のうち、技能実習生(第一期生)2名の終了を含む

12.サービス別 利用状況一覧

特別養護老人ホーム「介護老人福祉施設」 定員 80 名・8 ユニット(1 ユニット定員 10 名)

項目/月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計又は平均
稼働日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
要介護	1													0
	2	30	31	12	4	31	30	31	30	31	31	28	31	320
	3	224	228	169	200	186	180	186	152	179	188	191	196	2,279
	4	1,124	1,224	1,168	1,186	1,209	1,181	1,169	1,026	1,082	1,134	1,100	1,241	13,844
	5	924	927	914	1,020	1,036	990	1,047	1,030	1,041	960	838	934	11,661
総計	平均介護度	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.4	4.3	4.3	4.3	4.3	4.31
	延べ利用人数	2,302	2,410	2,263	2,410	2,462	2,381	2,433	2,238	2,333	2,313	2,157	2,402	28,104
	平均利用人数/1日	76.7	77.7	75.4	77.7	79.4	79.4	78.5	74.6	75.3	74.6	77.0	77.5	77.0
	稼働率	95.9%	97.2%	94.3%	97.2%	99.3%	99.2%	98.1%	93.3%	94.1%	93.3%	96.3%	96.9%	96.2%

ショートステイ「(介護予防)短期入所生活介護」 定員 20 名・2 ユニット(1 ユニット定員 10 名)

項目/月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計又は平均
稼働日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
要介護	利用実人数	35	33	33	34	31	31	32	30	33	32	32	31	323
	1	5	2	0	0	2	6	14	12	12	23	9	27	112
	2	131	137	117	90	83	84	80	52	106	110	73	64	1,127
	3	164	186	217	279	326	271	286	262	254	259	217	219	2,940
	4	76	89	83	83	55	72	42	90	68	54	67	98	877
	5	83	115	113	113	93	107	133	98	102	86	42	39	1,124
	利用延べ人数計	459	529	530	565	559	540	555	514	542	532	408	447	988
	平均介護度	3.22	3.34	3.36	3.39	3.28	3.35	3.36	3.41	3.26	3.13	3.15	3.13	3.28
	平均利用人数/1日	15.3	17.1	17.7	18.2	18.0	18.0	17.9	17.1	17.5	17.2	14.6	14.4	16.2
要支援	利用実人数	1	1	1	2	3	2	1	2	2	1	1	1	1.50
	1	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3
	2	3	2	1	12	17	21	15	16	22	15	15	15	154
	利用延べ人数	3	2	1	12	20	21	15	16	22	15	15	15	157
	平均利用人数/1日	0.10	0.06	0.03	0.39	0.65	0.70	0.48	0.53	0.71	0.48	0.54	0.48	0.08
総計	延べ利用人数	462	531	531	577	579	561	570	530	564	547	423	462	6,337
	平均利用人数/1日	15.4	17.1	17.7	18.6	18.7	18.7	18.4	17.7	18.2	17.6	15.1	14.9	17.3
	稼働率	77.0%	85.6%	88.5%	93.1%	93.4%	93.5%	91.9%	88.3%	91.0%	88.2%	75.5%	74.5%	86.7%

デイサービス「(介護予防)通所介護」 定員 35 名

項目/月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計又は平均
稼働日数		26	27	25	27	26	26	27	25	26	25	24	26	310
要介護	利用実人数	57	56	56	59	59	58	59	58	60	55	57	55	57.4
	1	147	149	130	152	144	123	125	112	132	122	123	122	1,581
	2	217	234	235	266	257	301	294	288	270	263	236	208	3,069
	3	123	120	128	143	141	140	130	111	124	95	129	151	1,535
	4	38	36	30	35	37	37	37	43	41	43	42	45	464
	5	16	41	34	40	43	54	43	28	28	26	24	27	404
	利用延べ人数計	541	580	557	636	622	655	629	582	595	549	554	553	1,121
	平均介護度	2.18	2.29	2.29	2.28	2.32	2.39	2.33	2.29	2.27	2.25	2.29	2.36	2.24
	平均利用人数/1日	20.8	21.5	22.3	23.6	23.9	25.2	23.3	23.3	22.9	22.0	23.1	21.3	21.1
要支援	利用実人数	13	13	14	14	16	15	16	17	16	15	16	16	150.8
	1	8	8	10	10	4	2	8	7	7	9	8	4	85
	2	85	91	82	85	102	105	110	107	107	97	96	117	1,184
	利用延べ人数	93	99	92	95	106	107	118	114	114	106	104	121	1,269
	平均利用人数/1日	3.58	3.67	3.68	3.52	4.08	4.12	4.37	4.56	4.38	4.24	4.33	4.65	3.62
総計	延べ利用人数	634	679	649	731	728	762	747	696	709	655	658	674	8,322
	平均利用人数/1日	24.4	25.1	26.0	27.1	28.0	29.3	27.7	27.8	27.3	26.2	27.4	25.9	26.8
	稼働率	69.7%	71.9%	74.2%	77.4%	80.0%	83.7%	79.0%	79.5%	77.9%	74.9%	78.3%	74.1%	76.7%

ホームヘルプサービス「(介護予防)訪問介護」

項目/月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計又は平均
要介護	利用実人数	20	20	21	21	19	19	21	21	21	20	20	20	20.1
	1	123	107	113	121	101	94	95	88	79	76	75	92	1,164
	2	36	44	43	48	47	54	72	64	77	62	60	69	676
	3	51	49	45	48	49	45	50	45	50	47	36	38	553
	4	0	4	3	5	3	3	4	3	3	4	3	4	39
	5	34	37	33	37	34	33	38	33	32	35	35	35	416
	利用延べ訪問件数	244	241	237	259	234	229	259	233	241	224	209	238	2,848
	平均介護度	2.1	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.3	2.3	2.3	2.4	2.3	2.2	2.2
総合事業 / 要支援	1	4	4	3	5	5	5	4	3	4	5	6	6	54
	2	11	11	12	11	11	10	10	10	10	9	10	10	125
	利用実人数	15	15	15	16	16	15	14	15	14	14	16	16	15.0
	利用延べ件数	15	14	15	16	16	15	14	13	14	14	16	16	178
障害	実人数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.0
	訪問回数	3	5	3	3	5	3	4	3	3	4	3	3	42
総計	実人数	36	36	37	38	36	35	36	37	36	35	37	37	436
移動支援	実人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	移動支援延べ件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

居宅介護支援

項目/月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計又は平均
介護支援専門員数		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4.0
要介護	1	35	36	33	33	30	28	27	27	28	30	29	30	366
	2	35	34	38	37	36	39	42	40	40	37	40	40	458
	3	25	22	21	23	23	24	23	22	22	19	16	15	255
	4	11	9	7	8	10	10	9	10	9	8	9	10	110
	5	8	8	9	9	10	11	10	10	11	13	11	7	117
	介護 利用人数	114	109	108	110	109	112	111	109	110	107	105	102	108.8
	介護 稼働率	81.4%	77.9%	77.1%	78.6%	77.9%	80.0%	79.3%	77.9%	78.6%	76.4%	75.0%	72.9%	77.7%
要支援	1	8	8	8	11	9	9	8	8	8	8	8	9	102
	2	17	16	17	19	21	23	23	23	22	22	24	24	251
	予防 利用人数	25	24	25	30	30	32	31	31	30	30	32	33	29.4
	予防 稼働率	78.1%	75.0%	78.1%	93.8%	93.8%	100.0%	96.9%	96.9%	93.8%	93.8%	100.0%	103.1%	91.93%
総計	介護+予防 利用人数	139	133	133	140	139	144	142	140	140	137	137	135	138.3
	介護+予防 稼働率	80.8%	77.3%	77.3%	81.4%	80.8%	83.7%	82.6%	81.4%	81.4%	79.7%	79.7%	78.5%	80.38%
新規利用人数		5	3	5	5	3	3	5	0	4	5	4	4	46.0

	特別養護老人ホーム 定員80名 【介護老人福祉施設】	ショートステイ 定員20名 【短期入所生活介護】	デイサービス 定員35名 【通所介護】	ホームヘルプサービス 20名/日(目標) 【訪問介護】
目標稼働率	96.6%	82.5%	80.0%	65.0%
実績稼働率	96.3%	86.7%	77.1%	56.5%
対目標比	-0.3	4.2	-2.9	-8.5
前年稼働率	96.0%	80.4%	77.2%	64.4%
対前年比	0.3	6.3	-0.2%	-7.9%

2025 年度(令和 7 年度)
ガリヤ久米 事業報告

〔事業の種類〕

I. 小規模特別養護老人ホーム(地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護)	定員 29 名
II. ショートステイ(〔介護予防〕短期入所生活介護)	定員 10 名
III. グループホーム(〔介護予防〕認知症対応型共同生活介護)	定員 18 名
IV. 介護付有料老人ホーム(〔介護予防〕特定施設入居者生活介護)	定員 35 名(30 室)
V. デイサービス(地域密着型通所介護)(介護予防通所サービス)	定員 18 名
VII. 居宅介護支援事業所(居宅介護支援)	

1. ガリヤ久米(全体)

取組事項	取 組 内 容
命と尊厳を守り 安心して生活できる ケア構築	① 専門職として基礎介護力を高め、多職種連携による、重度化ケアに対応した生活支援の提供を行う。 ■ ノーリフティングケア推進への取組み ■ 内部研修(新任・現任研修、看取り介護研修 他)開催 ■ 外部研修への積極的参加による知識・技術等の習熟 ■ 運営会議の開催による情報の共有、多職種連携〔毎月開催全 12 回〕 ■ 施設部門会議の開催による、入所部門の情報の共有〔毎月開催全 12 回〕 ■ 朝礼(全体)の開催による日々の情報共有〔毎日 ※月曜日～金曜日〕 ② 利用者の人権、プライバシーの保護と共に、虐待防止・身体拘束廃止を徹底する。 ■ 身体拘束・虐待防止委員会開催〔全 4 回〕 ■ 内部研修(身体拘束虐待防止)開催〔全 2 回〕 ■ 家族との面会機会の確保(居室面会) ③ 多職種協同による、根拠に基づいたケアを実践し、重症化予防に努める。 ■ トータルケア研修会の定期的な開催等による個別ケアに関する知識・技術の向上 ■ 定期的なカンファレンスの実施によるケア検討
やりがいを持ち 働き続けられる 職場づくり	① 組織風土の浸透及び活性化を図り、職員一人一人が生きがいとやりがいをもって働き続けられる職場づくりを行う。 ■ 人事評価制度による適正評価の実施にて働きがい確保 ■ 定期的な職員面談により相談・指導の実施とフォローアップ体制の確保 ■ 職員のメンタルヘルスに関する取組みの実施(ストレスチェック・メンタルヘルス研修など) ■ リフレッシュ休暇取得推進(7 連休取得または分割取得) ② 福祉の専門職として各事業所・部署間のチームワーク体制を維持し、運営に関する課題改善をより効果的に実践できる環境に努める。 ■ 部課長会議による情報共有及び課題整理・対応の実施 ■ 主任・リーダー等の定期的な会議・カンファレンスの開催 ■ 事業所・ユニット間の人事異動等による適切な環境の保持 ③ スタッフが成長できる内部研修の実施、及び外部研修への参加支援を継続する。 ■ 内部研修の開催〔全 18 回 参加者計 276 名〕 ■ 外部研修への参加〔全 59 回 参加者計 91 名〕

	④ 外国人介護従事者の定着・育成のための体制づくりに取り組む。 ■ 定期的な面談の実施により不安や課題解決への積極的なかわり ■ 日本語学習プログラムの活用等による日本語学習支援 ■ 組合担当者との綿密な連携と相談・支援の実施 ■ 生活支援、余暇活動の支援等
地域福祉の確立	① 地域共生センター「あいりん」の活動を中心に、関係機関との連携・地域の福祉ニーズを捉えた取り組みを実施し、地域共生の推進に努める。 ■ 関係機関の活動及び研修会等への積極的に参加 ■ 地域包括支援センターとの連携推進〔包括の委員会活動への職員派遣・各種会議・研修参加〕 ② 「ふらりカフェ」の活動を通じ、地域住民のニーズ把握や各種相談を進める。介護予防・認知症予防の活動等を推進し、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる地域づくりを目指す。 ■ ふらりカフェの定期的な実施により地域住民との関係づくり(ふらりカフェ開催 4 回・ミニふらりカフェ開催 8 回) ■ ふらりカフェでの生活動作・運動機能の維持、改善に向けた取り組みの実施 ③ 地域行事活動、防災・防犯活動の協力等、学校、保育、他関係機関との連携を継続する。 ■ 介護福祉士養成校実習・看護師養成校実習・中学生職場体験実習等の受入 ■ 地域防災総合訓練「シェイクアウトえひめ」参加 ■ 地域行事(地方祭・水路清掃等)への参加 ■ 地区小学生の通学支援・見守り(集団登校集合場所の提供等) ④ 在宅生活をトータル的にサポートするため、地域の実情に合わせた活動の実現に向けた情報収集、広報活動を行う。 ■ 地域包括支援センターの部会参加による関係機関との連携、地域福祉活動への参画。
職場環境改善	① 介護ソフトの各種機能を活用し、介護記録作成業務の効率化、ケアの充実・質の向上を図る。 ■ 記録システムの各種機能を活用しケアの質の向上、業務改善へつなげる取組み ② 眠りセンサーの活用により、入居者の状態把握を行い、個別ケアをより充実させ、入居者一人一人のより良い生活を目指す。また、各種機能を活用し、業務の効率化を図る。 ■ 見守り機器(眠りスキャン)の導入による睡眠状態の可視化・生活の質向上への取組み ③ ノーリフティングケアの推進により、入居者及び介護職員双方の負担軽減を図り、ケアの質の向上を目指し、安心安全なケアを提供する。 ■ 定期的な研修等により職員への取組みの意識向上 ■ 関連備品の整備 ④ 生産性向上の取組みにより、業務の可視化を行い、業務の効率化・環境改善を図る。 ■ 委員会活動を基に生産性向上に向けた課題の抽出・取組み内容の検討
安定運営の確保	① 各事業所において収益向上・収支改善を図り、適正利益を確保して、安定した運営を目指す。 ■ 各種会議による運営状況の共有と課題の確認、取組み内容の検討。(運営会議全 12 回・施設部門会議全 12 回 部課長会議全 12 回) ■ デイサービス運営改善に向けた取組(定期的な資料配布・営業活動) ■ 経費(水道光熱費・備品・衛生用品等)削減に関する取組みの継続 ② 広報活動、各機関との関係構築を進め、施設入居待機者及び在宅サービス利用者の確保に取り組む。 ③ 介護ロボット・ICT 導入を推進し、業務効率化及び生産性向上を図る。

快適な住環境の整備、事業継続体制の確保	① 施設の整備・環境保全に努め、快適な住環境の維持、より良いサービス提供を目指す。 ② 感染症予防対策の徹底に取り組み、大規模クラスター発生防止に努める。 ■ 衛生管理委員会開催〔全12回〕 ■ 内部研修(感染症対策訓練・研修会)開催〔全4回〕 ■ 職員への感染予防啓発の取組み・予防意識の維持 ③ 事業継続計画(BCP)の運用と研修等の取組みにより、大規模災害等の緊急時におけるサービス提供体制を維持構築する。 ■ BCP(事業継続計画書)の内容の見直し ■ 訓練の実施、職員への周知
---------------------	---

2. 小規模特別養護老人ホーム(地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護)

2-1 入所者の状況(令和8年3月31日現在)

【入所・退所状況】

待機者数(令和8年3月末現在29名)

入 所			退 所		
男	女	計	男	女	計
4	9	13	6	7	13

【年齢構成】

	男	女	全体
入所者数	5	24	29
平均年齢	82.0	92.5	90.7
最高齢	94	104	104
最年少	59	75	59

【要介護度別人数】

要介護度	男	女	計
介護1	0	0	0
介護2	0	1	1
介護3	2	3	5
介護4	2	12	14
介護5	1	8	9
平均	3.9	4.1	4.1

2-2 医療の状況

【入院状況】

月	実人数	延日数
4月	1	20
5月	4	44
6月	2	52
7月	1	16

月	実人数	延日数
11月	0	5
12月	2	33
1月	1	18
2月	0	28

8 月	2	30
9 月	2	38
10 月	1	37

3 月	2	29
合計	18	350
月平均	1.5	29

【入院疾患別人数(延人数)】

疾患名	今年度	前年度
肺炎	13	6
心疾患	0	0
脳梗塞	0	1
尿路感染	0	3
腸閉塞	1	0
骨折	0	0
食欲不振	0	0
肝機能低下	0	0
腎機能低下	0	0
その他	4	10
合計	18	20

【医療管理状況】

医療行為	今年度	前年度
胃ろう	2	3
在宅酸素療法	0	1
人工肛門	0	0
尿道留置カテーテル	2	3
インシュリン注射	1	0
痰の吸引(常時)	0	0
合計	5	7

※緊急搬送回数 0 回 (前年度 0 回)

2-3 ケアの状況《重点目標》

取組事項	取 組 内 容
トータルケアの実践 多職種協働システム	《全部門》 ■ 「総合記録シート」「介護日誌」「ユニット会議議題書」を活用したケアの実践。 ■ 多職種協同による「状態確認(ダブルチェック)」と「ケアの方法検討(カンファレンス)」の実践 ■ エビデンスに基づいたケアの実施(BPSD の悪化、誤嚥性肺炎、尿路感染等の予防) ■ ノーリフティングケアの取り組み、実践 ■ ICT を活用した入居者の状態の把握、分析
イベント企画	《全部門》 ■ 感染予防対策を徹底した上でのイベント開催 ■ ブログ、インスタグラム等で施設活動や生活の様子を発信 ■ 感染状況に応じた面会の実施、地域、家族とのつながり
環境整備	《全部門》 ■ 居室担当制・備品整備・環境美化推進 ■ 季節感を感じる飾りつけ等の環境づくり
研修運営	《全部門》 ■ 年間計画に基づく各種研修の開催(感染対策に配慮した研修) ■ 基礎介護勉強会の開催 ■ 感染症・災害に係る業務継続のための研修・訓練

2-4 運営推進会議の状況

開催日等	内 容
第1回 令和7年5月21日 13:30～14:30 令和7年4月～令和6年5月報告 出席者 6名 職員 6名	① 活動状況報告 ② 活動状況に関する評価 ③ 要望、助言等
第2回 令和7年7月24日 13:30～14:30 令和7年6月～令和7年7月報告 出席者 5名 職員 7名	① 活動状況報告 ② 活動状況に関する評価 ③ 要望、助言等
第3回 令和7年9月26日 13:30～14:30 令和7年8月～令和6年9月報告 出席者 4名 職員 7名	① 活動状況報告 ② 活動状況に関する評価 ③ 要望、助言等
第4回 令和7年11月28日 13:30～14:30 令和7年10月～令和7年11月報告 出席者 3名 職員 6名	① 活動状況報告 ② 活動状況に関する評価 ③ 要望、助言等
第5回 令和8年1月26日 13:30～14:30 令和7年12月～令和8年1月報告 出席者 8名 職員 8名	① 活動状況報告 ② 活動状況に関する評価 ③ 要望、助言等
第6回 令和8年3月26日 13:30～14:30 令和8年2月～令和8年3月報告 出席者 7名 職員 6名	④ 活動状況報告 ⑤ 活動状況に関する評価 ⑥ 要望、助言等

《総評》

今年度の運営実績は、目標稼働率 97.2%に対し実績 96.2%であった。

総延べ入院・外泊日数が 350 日に達した要因として、基礎疾患を有する入居者が多く、特定の利用者が長期入院を繰り返す傾向にあったことが挙げられる。今後は ICT をさらに活用し、細やかな観察を通じて状態変化の早期発見・早期対応に努めていきたい。

利用者の状況については、平均年齢が 90.7 歳と上昇傾向にある一方、近年重度化が続いていた平均要介護度は 4.1 と、わずかながら低下が見られた。重度化傾向が一段落し、平均入所期間は 29 か月と、長期にわたり健康を維持されている。

行事・生活面では、制限緩和に伴い、施設内交流や外出活動を計画通り実施することができた。同時に、徹底した感染予防対策の継続により、感染症の拡大を最小限に抑制することができた。また、ICT の活用を単なる効率化に留めず、ケアの質向上を目的とした分析ツールとして運用を行った。今後も生産性の向上と業務改善に取り組み、より良質なケアの実現を目指していきたい。

3. ショートステイ（〔介護予防〕短期入所生活介護）

3-1 利用状況（令和8年3月31日現在）

【利用状況】

延べ人数	男	女	計
予防短期入所	29	9	38
短期入所	1167	2080	3247
合計	1196	2089	3285
平均利用者数	3.3	5.7	9.0

実人数	男	女	計
石井・浮穴・久谷	1	2	3
サブ浮穴・久谷	3	3	6
小野・久米	5	15	20
湯築・桑原・道後	1	2	3
中島	1	0	1
北条	1	0	1
雄郡・新玉	1	0	1
東・拓南	0	2	2
三津浜	0	1	1
東温市	2	1	3
西条市	1	0	1
姫路市	0	1	1
合計	16	27	43

【要介護度別延べ人数】

要介護度	男	女	計
要支援 1	24	0	24
要支援 2	5	9	14
要介護 1	24	429	453
要介護 2	4	477	481
要介護 3	650	625	1275
要介護 4	226	137	363
要介護 5	263	412	675
平均介護度	3.5	2.8	3.1

《総評》

目標稼働率 85.0%に対し実績 90.0%。一日の平均利用者 9 名。

令和 7 年度は感染症の発生を予防することで、予定通りの利用をしていただくことができた。感染症の施設内感染発生は、サービス利用予定の利用者の方々にも大きく影響するため、安心してサービスをご利用いただけるよう、今後も施設内での感染症予防対策に努めていきたい。

利用者の平均要介護度は 3.1。施設入居待機で長期利用をされている方もおられ、軽度利用者が減少傾向にある。

また、長期間定期利用を続けてくださっている利用者の割合も多く、今後も在宅生活を継続していただけるようなサービスを提供できるように、個別支援の充実を図り、家族、地域に安心して利用いただけるよう努めていきたい。

4. グループホーム（〔介護予防〕認知症対応型共同生活介護）

4-1 入居者の状況（令和8年3月31日現在）

【入居・退居状況】

待機者数（令和8年3月末現在11名）

入 所			退 所		
男	女	計	男	女	計
0	2	2	0	4	4

【年齢構成】

	男	女	全体
入居者数	1	17	18
平均年齢	93	91.6	91.7
最高齢	93	98	98
最年少	93	89	89

【要介護度別人数】

要介護度	男	女	計
1	0	2	2
2	0	3	3
3	0	5	5
4	1	7	8
5	0	0	0
平均	4	3	3.0

4-2 医療の状況

【入院状況】

月	実人数	延日数	月	実人数	延日数
4月	0	0	11月	4	39
5月	1	8	12月	2	16
6月	2	30	1月	2	32
7月	2	28	2月	3	25
8月	1	4	3月	4	40
9月	0	0	合計	25	274
10月	2	52	月平均	2.1	22.8

【入院疾患別人数(延人数)】

疾患名	今年度	前年度
肺炎	1	0
心疾患	0	0
脳梗塞	0	0
腎機能低下	1	0
骨折	3	1
その他	9	0
合計	14	1

※緊急搬送回数 1回（前年度 1回）

4-3 ケアの状況《重点目標》

取組事項	取組内容
トータルケアの実践 多職種協働システム	《全部門》 ■ 「総合記録シート」「介護日誌」「ユニット会議議題書」を活用したケアの実践。 ■ シフトマニュアル(オペレーションシート)の作成。平常時の統一した業務内容の明確化を図り、入所者及びユニットの状況変化に応じた体制づくり。 ■ ケアスタッフと看護師との連携による重度化対応。
イベント企画	《全部門》 ■ 感染予防対策を実施した上でのイベント開催 ■ ブログ、ほのぼの通信、インスタグラム等で施設活動や生活の様子を発信 ■ 感染対策に留意した上での面会の実施、地域、家族とのつながり
環境整備	《全部門》 ■ 居室担当制・備品整備・環境美化推進
研修運営	《全部門》 ■ 年間計画に基づく各種研修の開催 ■ 基礎介護勉強会と動画配信を利用し各自業務内での研修の開催 ■ 感染症・災害に係る業務継続のための研修・訓練

4-4 運営推進会議の状況

開催日等	内 容
第1回 令和7年5月21日 13:30～14:30 令和7年4月～令和7年5月報告 出席者 6名 職員 6名	1.活動状況報告 2.活動状況に関する評価 3.要望・助言等
第2回 令和7年7月24日 13:30～14:30 令和7年6月～令和7年7月報告 出席者 5名 職員 7名	1.活動状況報告 2.活動状況に関する評価 3.要望・助言等
第3回 令和7年9月26日 令和7年8月～令和7年9月報告 出席者 4名 職員 7名	1.活動状況報告 2.活動状況に関する評価 3.要望・助言等

第4回 令和7年11月28日 令和7年10月～令和7年11月報告 出席者 3名 職員6名	1.活動状況報告 2.活動状況に関する評価 3.要望・助言等
第5回 令和8年1月26日 令和7年12月～令和8年1月報告 出席者 8名 職員8名	1.活動状況報告 2.活動状況に関する評価 3.要望・助言等
第6回 令和8年3月26日 令和8年2月～令和8年3月報告 出席者 7名 職員6名	1.活動状況報告 2.活動状況に関する評価 3.要望・助言等

《総評》

目標稼働率 98%に対し実績 93.4%。総延べ入院(外泊)日数 274 日で、前年度と比べ入院日数が大幅に増加した。認知症の進行や重度化の中で、利用者の高齢化もあり身体疾患と転倒による骨折が多くなっている。基本的なケアを丁寧に実践することを意識し、効果的な多職種連携のケアを目指していきたい。

入所者の状況については、平均要介護度 3.0 (R8.3.31)と、重度の方も増えてきている。今後も、重度化対応や看取りについて、適切な対応ができるようスタッフの知識・技術の向上に努めていきたい。平均年齢は 91.7 歳と高齢であり、健康管理と丁寧なケアの実践を通して、重度化予防に努めた。

新型コロナウイルス感染症について、平時から感染予防に心がけた結果、感染の発生を防ぐことができた。行事等の余暇活動も、予定通りに実施できた。ドライブ、おやつ作り、近所への散歩、施設内の池の鯉に餌をあげるなど、日々の生活の行動範囲も広げることができた。また、認知症の進行を予防するため、個々の利用者に対して、日々生活の中に楽しみを見つけることができるよう働きかけた。

今後も感染症対策を続けながら、個別支援の充実や、家族の協力も得られる働きかけに工夫し、その人らしい暮らしの提供を目指したい。

5. 介護付有料老人ホーム((介護予防)特定施設入居者生活介護)

5-1 入居者の状況(令和7年3月31日現在)

【入居・退居状況】

待機者数(令和7年3月31日現在 単身23名 夫婦3組 計29名)

出身地 保険者	保険者別入居者数			令和5年度中の移動状況					
				入居			退居		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
松山市	7	27	34	2	6	8	1	7	8
砥部町	1	1	2	0	0	0	0	0	0
四国中央市	0	1	1	0	0	0	0	0	0
宇和島市	0	1	1	0	0	0	0	0	0
久万高原町	0	1	1	0	0	0	0	0	0
滋賀県	1	1	2	0	0	0	0	0	0
合計	9	32	41	2	6	8	1	7	8

【年齢構成】

	男	女	全体
入所者数	8	25	33
平均年齢	91	91	91
最高齢	97	103	103
最年少	81	75	75

【要介護度別人数】

要介護度	男	女	計
自立	0	0	0
要支援 1	1	4	5
要支援 2	2	2	4
要介護 1	0	7	7
2	3	5	8
3	1	4	5
4	1	2	3
5	0	1	1
平均	1.7	1.8	1.8

5.2 医療の状況

【入院状況】

月	実人数	延日数
4 月	3	58
5 月	3	45
6 月	1	30
7 月	2	34
8 月	4	44
9 月	4	74
10 月	3	21

月	実人数	延日数
11 月	1	30
12 月	2	42
1 月	2	15
2 月	2	32
3 月	2	50
合計	29	475
月平均	2.02	39.6

【疾患名】

疾患名	今年度	前年度
肺炎	3	4
心疾患(心不全等)	1	0
尿路感染	1	0
骨折	1	2
貧血(出血)	2	0
脳出血・脳梗塞	2	0
胆管系	2	3
その他(空気嚥下症、 頭部裂傷、人工関節 術後感染、精査など)	4	2
合計	16	11

【医療行為】

医療行為	今年度	前年度
胃ろう	0	0
在宅酸素療法	1	0
人工肛門	0	0
尿道留置カテーテル	0	0
インスリン注射	0	0
痰の吸引(常時)	0	0
尿路ストーマ	1	1
合計	2	1

緊急搬送回数 0 回 (前年度 0 回)

5.-3 ケアの状況《重点目標》

取組事項	取 組 内 容
トータルケアの実践 多職種協働システム	《全部門》 ■ 食事・排泄・口腔のケアに重点をおき、丁寧なケアに努め、誤嚥性肺炎、尿路感染症予防を行った。 ■ BPSD の悪化につながる、身体の問題を見極めながら根拠あるケアを実践した。
イベント企画	《全部門》 ■ イベント開催 4 月(お花見散歩)(お花見弁当) 5 月(母の日お祝い会)(若葉昼食会) 6 月(あじさいトライブ)(父の日お祝い会)(103 歳お祝い会) 7 月(七夕飾り)(そうめん) 8 月(夏祭り) 9 月(敬老会)(101 歳お祝い会) 10 月(運動会)(100 歳お祝い会)11 月(ドライブに行こう)(芋炊き)12 月(忘年会)(クリスマス会)(ゆず湯) 1 月(初詣)(新年会)(書初)2 月(節分)(ハレンタイン) 3 月(ひなまつり) ■ 体操・散歩(毎日)、ピアノ音楽会(毎週)、誕生会・散歩表彰式・カラオケ(毎月)
環境整備	《全部門》 ■ 居室担当制・備品整備 ■ 大掃除(エアコン・窓・換気扇)6・12 月 ■ 各箇所の消毒、換気
研修運営	《全部門》 ■ 年間計画に基づく各種研修の開催(感染対策に配慮し開催) ■ 基礎介護勉強会の開催 ■ 感染症・災害に係る業務継続のための研修・訓練

《総評》

R7 目標稼働率 96.0%に対し実績 93.4% 平均要介護度 1.8(R8.3.31)

入居者の高齢化及び重度化に伴う看取りや重介護への対応、また、軽度の入居者へのアクティビティの充実や精神面のフォローなど、職員は多種多様な技術や知識、観察力、コミュニケーション能力を求められる状況である。今後も健康管理と丁寧なケアを行い、多職種が連携することで、日々の変化を早期に発見し、穏やかに過ごして頂けるように努めていきたい。

生活の中に生きがいや季節を感じていただけるように、行事等を企画し行った。また、施設での生活の様子などを SNS 等で情報を発信することで、ご家族等にも安心していただけるよう取り組んだ。今後も入居者、ご家族に安心して生活いただける生活支援を目指していきたい。

6. デイサービス(地域密着型通所介護)

VI. デイサービス(介護予防通所サービス)

6.-1 利用者の状況(令和 8 年 3 月 31 日現在)

【利用状況】 稼働日数 310 日

延べ人数	男	女	計
地域密着通所	0	3043	3043
介護予防通所	0	1237	1237
合 計	0	4280	4280
1 日の平均利用者数	0	13.8	13.8

登録者人数	男	女	計
石井・久谷	0	4	4
小野・久米	0	36	36
桑原・道後	0	1	1
雄郡	0	0	0
東拓南	0	0	0
合計	0	41	41

※)()…中止者を含む

【要介護度別延べ人数】

要介護度	男	女	計
要支援 1	0	655	655
要支援 2	0	582	582
要介護 1	0	2259	2259
2	0	561	561
3	0	0	0
4	0	223	223
5	0	0	0
平均介護度	0	1.1	1.1

6.-2 ケアの状況《重点目標》

取組事項	取 組 内 容
個別ケアの実施	①人生 100 年時代を人が人らしく自立して生活をしていくために、環境や要因を考察しながら個別ケアの充実を図る。 ■体力測定を実施し測定結果の報告を行った(家族及び担当ケアマネージャー) ■体力測定結果や起居動作の状況に合わせたマシントレーニング内容の見直し ■LIFE の活用 ②HOL (happiness of life) の提供を目指して、レクリエーション等アクティビティの充実を図る。 ■参加型レクリエーション ③個人の状況状態を把握し、在宅生活の継続ができるように、個別ケアを図る。 ■利用者の状態・状況に合わせたマシントレーニング等のメニューの設定 ■トレーニング成果の報告(見える化)による継続の働きかけ
地域との交流	①地域と連携し、地域包括ケアの促進を目指す。 ■地域連絡会への参加 ②感染予防対策を徹底しながら、できる範囲での行事・イベント活動を実施する。また、地域の高齢者向けの情報発信を行う。 ■レクだよりでの情報発信。
職員研修	①デイサービスにおける専門業務(マシン・レッドコード技能、送迎業務など)について継続研修を行う。 ■内部研修・会議において実施 ②施設内・外研修に参加し、基礎介護とサービスの質の向上を目指す。

	■松山市主催の事業者説明会への参加 ■年間計画に基づく各種研修の開催 ③より良いサービス提供を目指し、職員の接遇向上への取り組みを強化する。
安定運営の確保	①長期入院や他サービスとの併用による利用率の状況を把握し、介護支援専門員と連携をとりながら調整を行う。 ②プログラムの見直し等を行うことで利用者の満足度高め、利用者の増加、利用回数の増加に繋げ、運営の安定化を図る。 ③新規登録者の安定獲得を目指すため、定期的に情報を発信するとともに、居宅と密に連絡を取り、営業活動に取り組む。

6-3 運営推進会議の状況

開催日等	内 容
第1回 令和7年9月26日 令和7年4月～令和7年9月報告 参加者 5名 第2回 令和8年3月26日 令和7年10月～令和8年3月報告 参加者 7名	① 活動状況報告 ② 活動状況に関する評価 ③ 要望、助言等

6-4 その他の状況

内 容	件数	備 考
苦情解決件数	0件	
事故報告件数	1件	マシントレーニング内容 1件
ヒヤリハット件数	1件	食事提供ミス未遂 1件

《総評》

稼働目標 82.0%に対し実績 76.7%であった。

取組みとしては、新規利用者獲得、また利用継続のために、レクリエーションやサービス内容のマンネリ化を防ぐように努めた。関係機関への定期的な情報発信、情報共有を積極的に行うことで、体験利用者及び新規利用者の獲得に取り組んだ。また、担当ケアマネージャーや家族等に対して、利用中の状況を定期的に報告することで、信頼関係の構築を図った。しかし、年間を通して入院等によるお休み、施設入所による利用中止等が重なり、目標稼働に届かない結果となった。

今後もより一層、利用者の楽しめるサービス、元気につながるサービスの提供に努め、住み慣れた地域で安心して生活を続けていけるようサービスを充実していきたい。

7. 居宅介護支援事業所(居宅介護支援)

7-1 利用者の状況(令和8年3月31日現在)

【利用状況】 居宅サービス担当月間人数 90件(予防:22件・介護:68件)

利 用 者	予 防		介 護	
	男	女	男	女
小野・久米	5	15	7	28
石井・浮穴・久谷	0	0	4	2
湯築・桑原・道後	0	1	3	4
味酒・清水	0	0	3	2
雄郡・新玉	0	0	2	0
生石・味生	0	0	0	1
余戸・垣生	0	0	0	1
三津浜	0	0	1	1
和氣・堀江	0	0	1	0
潮見・久枝	0	0	0	1
中島	0	0	1	1
北条	0	0	1	0
東温市	0	1	1	3
計	5	17	24	44
	22		68	

【要介護度別利用人数】

要介護度	男	女	計
要支援1	4	11	15
要支援2	1	6	7
要介護1	9	19	28
2	5	7	12
3	6	9	15
4	2	4	6
5	2	5	7
計	29	61	90

7-2 ケアの状況《重点目標》

取組事項	取組内容の振り返り
在宅生活の維持	① アセスメントシートを活用し、自宅で安心して生活できるためのトータルケアを、サービス事業所と協働で行うよう努め、居宅からも連絡し、密に連携がとれる環境を作るよう関わった。 ② 本人だけでなく家族の意見も聞き、より良い支援は何かを探求しながら対応した。また、双方の意見の食い違いや考え方の違いについて円満に解決できるようこころがけた。 ③ 外部研修も進んで取り組むことができた。社会資源調査を行うことでより地域の様子を理解でき、今後の

	マネジメント、地域で暮らすことの意義を考えていきたい。
資質向上	① 事業所内・外の研修に参加し、在宅生活に必要な知識向上を目指すことができた。医療知識の理解や薬の効果・副作用など不十分な点を向上させたい。 ② 個々の状況を鑑み、事例検討会に参加し俯瞰的な視野を持って生活支援に取り組んだ。 ③ トータルケア研修の参加、日頃から職員同士話し合いを持ち、根拠に基づいたケアができるよう取り組んだ。 ④ 電子機器の活用を勧めるよう働きかけた。
地域活動への参加	① 民生委員との交流会に参加し親交を深めた。 ② ふらりカフェのメンバーになり地域の理解や関わりを持つことができた。
安定運営の確保	① 利用者人数確保は及第点であったと思う。1月16日職員体制が3名となりなお一層の職員間の連携を取り業務を遂行する必要がある。 ② 法人全体の状況を理解し、居宅として何ができるか、協働を考えた行動を心がけた。

7-3 その他の状況

内 容	件数	備 考
苦情解決件数	0 件	
事故報告件数	0 件	

《総評》

令和7年4月利用者数75名、多少の増減はあったが、令和7年12月利用者数74名、安定した人数確保ができ目標である月利用者70名以上は達成できた。内外の研修に積極的に参加し、職員同士話し合いをしながらより良いサービスの向上に努めた。

令和8年1月にはケアマネジャーを1名増員した。前職の事業所閉鎖に伴い、利用者19名を当事業所において継続して担当することとなり、事業所の担当利用者数も増加した。

ケアマネジャーの人員が3名となったことで、取得できるようになった加算(特定事業所加算Ⅲ)を申請、令和8年度より加算の取得を開始する。今後は、今まで以上に資質向上に努める必要がある。多角的なものの見方や多職種連携、医療分野の知識を身に付けるなど、より専門的な見地が必要と考える。ケアマネジャー3名ともに一定の経験値を有している。情報共有・意見交換経験等により専門性を高め合い、より良い支援の提供が行えるよう取り組んでいきたい。

8. 各部門報告(委員会活動を含む)

8-1 防災・防犯活動

訓練項目	開催日時	参加者	内 容
消防訓練 (消火・通報・避難)	令和7年9月24日 14:00～15:00	140名	松山市南消防署東部支署職員及び ALSOK 警備員の派遣あり、全員参加にて1Fリネン倉庫より出火(火災)を想定した消火・通報・避難訓練を行った。
地震訓練 (シェイクアウトえひめ)	令和7年12月17日 11:00～11:10	140名	シェイクアウトえひめに参加、在館者が一斉に安全確保行動「まず低く、頭を守り、動かないを1分間」を行った。
水害訓練・消火器訓練	令和7年12月17日 11:10～11:30	職員10名	床上浸水が発生したと想定し訓練を実施。避難誘導と備蓄確認を行った。また、併せて消火器・屋内散水栓の場所・使用方法と避難経路の確認を行った。

夜間火災想定訓練 (通報・非常招集)	令和7年12月17日 19:30～20:00	職員50名	夜間火災想定のお知らせ及び非常招集訓練を行った。
-----------------------	---------------------------	-------	--------------------------

8-2 衛生管理

① 衛生管理委員会の開催(1回/月) ※運営会後

法人合同衛生委員会の開催(令和7年9月)

感染症防止委員会の開催(令和7年6月8月11月2月)

② 職員研修の実施

○感染症について

実施月	内 容	参加者	研修内容	備 考
6月	食中毒勉強会	21名	食中毒の予防について、普段の業務で注意すること	資料全職員配布
6月	感染症対策訓練	21名	防護具着脱訓練	
12月	感染症対策研修	1名	「感染症対策机上訓練」参加※保健所主催	衛生管理者
12月	感染症対策勉強会	15名	感染症の基礎知識	資料全職員配布

○メンタルヘルスについて

実施月	内 容	参加者	内 容	備 考
6月	職員面談	7名	こころ塾専任カウンセラーによる個別面談	
8～9月	ストレスチェック	79名	全職員に対してストレスチェックを実施	
2月	メンタルヘルス研修	16名	「ペーパータワーチャレンジ」チームビルディング	こころ塾講師
3月	相談体験会	7名	こころ塾専任カウンセラーによる個別面談	

③ 感染症報告

	利 用 者					職 員				
	GH	特養	SS	有料	他	GH	特養	SS	有料	他
季節性インフルエンザ	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0
新型コロナウイルス	0	7	0	0	0	1	6	0	2	0
合 計	0	7	0	0	0	3	1	0	2	1

※GH(グループホーム) SS(ショートステイ)

令和7年度は、7月末から8月にかけて、グループホームでバラインフルエンザが流行し、職員3名、利用者5名の集団感染あり。9月には、新型コロナウイルス感染症が流行し、当施設では単発の発症者も含め、職員9名、利用者7名の感染あり。季節性のインフルエンザについては、11/4より、利用者、職員に対するワクチン接種実施。全国的に流行したが、感染者は職員3名のみであった。感染性胃腸炎など、施設内での他の感染症の発症は認めなかった。

<まとめ>

メンタルヘルスについては、6月に外国人実習生4名と中途採用者3名に対する、こころ塾専門員による個別面談を実施。全職員に対するストレスチェックは、例年通り実施。高ストレス者は79名中16名と、全体の20.3%であり、昨年の18.9%をやや上

回った。2 月には、こころ塾主催のメンタルヘルス研修を実施し、介護現場における連携、思いやり、働き易い職場環境作りなどについて考え、学ぶことが出来た。また、令和 6 年度より、リーダー以上を対象とした、こころ塾産業カウンセラーによる相談体験会を実施しており、今年度も実施。実際にカウンセリングを受けることで、職務を遂行する上でのコミュニケーション能力の向上や、自身のスキルアップに繋げる、良い機会となったと思われる。その他、メンタルヘルスについて対応が必要なケースについては、個別に外部委託機関(こころ塾)を活用するよう働きかけを行った。

前年に続き、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザなどの感染症の流行あり。当施設においては、今年度も、国・県内の感染動向を確認しながら、朝礼、運営会議、衛生管理・感染症防止委員会、各事業所のユニット会にて、情報共有・注意喚起を行った。また、日常的に標準予防策を徹底することで、施設内の感染拡大を予防することができた。重症化リスクの高い高齢者が、施設で安心して穏やかに日常生活を続けることができるよう、今後も感染対策研修を実施し、各職員が感染症についての正しい知識と技術を身につけ、継続して感染回避行動や感染予防対策を徹底できるよう努めていきたい。また、職員が日々のストレスと上手向き合い、モチベーションを維持しながら、心身ともに健康に業務に携わることができるよう、職員に対する取り組みについても検討していきたい。

8.-3 褥瘡対策

① 褥瘡対策委員会の開催(毎月) ※褥瘡発生者 1 名

毎月入居者の褥瘡発生予備軍を抽出し対応を検討している。

表皮剥離などステージが軽い時期に早期の対応を行うことで、重症化することなく治癒できている。また、個人の肌質にあった保湿に努めながら、症状改善に至らない場合は皮膚科への相談、受診を行っている。

8.-4 権利擁護・苦情解決

① 権利擁護苦情相談委員会の開催

令和 7 年 9 月 19 日(ガリラヤ荘合同) 出席者:第三者委員 4 名、職員 15 名

令和 6 年度苦情件数 0 件

8.-5 身体拘束・高齢者虐待対策

① 身体拘束廃止・高齢者虐待防止委員会の開催(年 4 回)

身体拘束件数 0 件 高齢者虐待件数 0 件

毎月チェックリストを用いて、日常のケアの中において、不適切ケアや行動を制限する目的で実施された行為がないかを確認した。また、各事業所の会議においても、委員会の開催や年 4 回の研修にて、身体拘束適正化、高齢者虐待防止の意識づけを行った。施設全体での委員会は年 4 回開催し事例検討等行い情報共有を図った。

8.-6 栄養対策

① 給食委員会の開催(書面開催)

残食調査を毎食実施し、残食の多い献立は提供頻度を減らすほか、食べやすいように調理法や味付けに工夫している。また、各事業所からの意見聴取、各要望にも可能な限り対応し、利用者により一層満足していただける食事提供に努めた。

8.-7 事故対策

① 安全委員会の開催(年 4 回)

委員会において、ヒヤリハットおよび事故の事例検討を定期的 to 実施し、情報共有・対応方法の検討を通じてケア方法の見直しおよび環境整備を行った。

また、入所者(入居者)の状態・状況は事業所によって異なることから、事業所別に介護事故を集計・分析・検討した。各事

業所において重点的に注意すべき事故の考察と対策を講じることで、事故発生の予防に努めた。

今後も事故事例の検討・集計・分析を継続し、対策の実施・評価・再検討のサイクル(PDCA サイクル)を回すことで、介護事故および介護過誤の発生予防に取り組んでいく。

② 事故・ヒヤリハット報告

今年度の事故・ヒヤリハットについて、それぞれの集計結果を報告する。なお、事故報告は、ヒヤリハットを除く全ての事故報告を集計している。

I. 月別発生件数(事業所別)

月	グループホーム	小規模特養	短期入所	介護付有料	計
4月	20	13	16	11	60
5月	21	13	7	9	50
6月	28	13	7	17	65
7月	18	16	9	9	52
8月	21	12	12	15	60
9月	8	8	10	5	31
10月	17	20	11	9	57
11月	11	8	9	17	45
12月	7	12	6	22	47
1月	13	12	5	15	45
2月	6	8	6	8	28
3月	5	17	9	6	37
総計	175	107	152	143	577

II. 症状別件数

事故内容	件数
皮下出血	224
異常なし	221
剥離	57
擦過傷	20
切創・裂傷	16
骨折	6
発赤	2
その他	31
総計	577

III. 状況別件数

事故内容	件数
不明 ※1	177
転倒	103
打撲	63
服薬ミス(落薬等)	56
転落	47
掻き壊し	23
服薬ミス(服薬忘れ等) ※2	19
異食	7
誤薬(取り違い)	6
その他	76
総計	577

※1 不明は皮下出血の発生原因が不明等を含む

※2 服薬忘れはその後服薬した場合を含む

IV. ヒヤリハット件数

内 容	件 数
転倒未遂	139
転落未遂	39
服薬ミス未遂 ※	27
設備・環境の不具合	7
異食未遂	4
対人トラブル未遂	3
誤嚥未遂	3
食事提供ミス未遂	1
他	90
総計	313

※服薬ミス未遂は服薬ミスになりかけたが、未然に防いだ場合等

事業所別	転倒 (未遂)	転落 (未遂)	服薬 (未遂)	設備環境 の不具合	異食 (未遂)	対人トラ ブル(未 遂)	誤嚥 (未遂)	食事提供 ミス(未 遂)
小規模特養	5	3	2	2	0	0	0	1
ショートステイ	34	7	2	1	1	0	2	0
グループホーム	31	11	8	2	1	0	0	0
介護付有料	69	18	15	2	2	3	1	0
総計	139	39	27	7	4	3	3	1

事業所別	他	計
小規模特養	18	31
ショートステイ	36	83
グループホーム	6	59
介護付有料	30	140
総計	90	313

V. 受診及び市事故報告提出の内訳

事業所	発生日	内容	受診結果	入院の有 無
グループホーム	4/30	転落	左大腿骨骨折⇒後日骨折なしの診断	なし
小規模特養	5/18	胃ろうチューブ抜去	胃ろうチューブ再挿入	なし
グループホーム	6/9	転倒	右大腿部頸部骨折、間質性肺炎	あり
グループホーム	8/23	転落	右肩脱臼、第11,12肋骨骨折	あり
グループホーム	10/1	転倒未遂	左親指の付け根剥離	なし
介護付有料	10/24	転倒	右大腿骨頸部骨折	あり

介護付有料	11/18	転倒	右肩骨折	なし
介護付有料	12/28	その他	第一腰椎圧迫骨折	なし
グループホーム	3/15	転倒	左大腿骨頭部骨折	あり

(考察)

ヒヤリハット件数は前年度の 391 件から 313 件へと減少した(▲78 件、約 20%減)。内訳では、対人トラブルに関する件数が大幅に減少しており、利用者間の関係改善に向けた取り組みの成果が表れていると考えられる。

事故報告件数は前年度の 636 件から 575 件へと減少した(▲61 件、約 10%減)。内訳は、引き続き、皮下出血(内出血)・剥離・擦過傷等の皮膚トラブルが最多を占めている。要因はは本人の掻き壊しによるもの、原因不明(177 件)のもの、微細な傷についても丁寧な状態観察により報告が徹底されているため、件数が多くなっている。今後は保湿ケアによる皮膚状態の改善およびパームグリップの徹底により、皮膚トラブルの予防に努めたい。

また、事故の状況があったものの異常なしの報告が 221 件あった。事故の状況として最も多いのは転倒・転落であり、介護付有料老人ホーム・グループホーム・ショートステイにおいて、自立度の高い(自ら動かれる)利用者への注意が特に必要である。

服薬ミスも多く報告されており、中でも「落葉の発見」が目立つ。自己管理または自力服薬が可能な利用者による発見が多く、同一利用者で複数回の落葉が確認されるケースも見られる。本人のプライドに十分配慮しながら、服薬の見守り・介助を行う必要がある。また、薬の取り違えも発生していることから、ダブルチェックの形骸化防止および指差し呼称の徹底によりヒューマンエラーの防止に努めたい。

引き続き、事故防止委員会における事例検討会・個別ケース検討・全体的な対応方針の協議を通じて、事故防止の強化に努めたい。

9. 行事・施設内研修・実習等受入の状況

	全体行事等	各事業所行事	実習等受入
4	ミニふらりカフェ 運営推進会議(H5 年度 6 回分)	[特]お花見昼食会/花見散歩 春のお楽しみ会(バレー大会) [GH]フラワーアレンジメント お花見昼食会/お花見散歩 [有]お花見散歩/お花見弁当	
5	町内清掃(久米地区) 運営推進会議 消防設備点検 ミニふらりカフェ	[特]若葉昼食会/母の日お祝い 動物園外出 [GH]ドライブ/おやつ作り [有]母の日お祝い会/若葉昼食会	河原医療大学校(看護学科) 松山学院高等学校(福祉科) 河原医療福祉専門学校見学実習(介護福祉科)
6	職員会 松山学院高校花の日訪問 人事考課(夏期) ふらりカフェ メンタルヘルス面談(こころ塾)	[特]父の日お祝い(手作りおやつ)/ドライブ(道後散策)/104 歳お祝い会 [GH]運動会 [有]父の日お祝い会/103 歳お祝い会	河原医療福祉専門学校見学実習(介護福祉科)
7	運営推進会議 ミニふらりカフェ	[特]七夕飾り作り/そうめん [GH]たらいそうめん/スイカ割り [有]七夕飾り/たらいそうめん	東温高等学校(普通科)
8	ストレスチェック ミニふらりカフェ	[特]すいか割り/夏祭り [GH]夏祭り [有]夏祭り [DS]夏祭り	愛媛県立医療技術大学実習(看護学科) 松山学院高等学校(福祉科) 人間環境大学(看護科)
9	運営推進会議 入居者レントゲン検査 ふらりカフェ 消防訓練(総合)	[特]敬老会/お月見団子作り [GH]敬老会 [有]101 歳お祝い会	久米中学校職場体験
10	地方祭(神輿) ミニふらりカフェ 職員会 眠りの相談会(東洋羽毛)	[特]ミニ運動会/買い物ツアー [GH]フラワーアレンジメント/ドライブ [有]運動会・100 歳お祝い会(砥部町長来所)	松山学院高等学校(福祉科) 聖カタリナ大学(看護学科)
11	運営推進会議 ミニふらりカフェ インフルエンザ予防接種 (入居者・職員) 入居者レントゲン健診 消防設備点検	[特]クリスマス飾りつけ/映画鑑賞/芋炊き [GH]おやつ作り/干し柿作り [有]芋炊き	聖カタリナ大学(看護学科)
12	職員会 人事考課(冬期)	[特]忘年会/クリスマス会 [GH]忘年会/クリスマス会	

	地震訓練(シェイクアウトえひめ) 水害訓練・消火器訓練/夜間想定訓練 大掃除 餅つき ふらりカフェ	[有]忘年会/クリスマス会/ゆず湯には いろいろ(冬至)	
1	運営推進会議 ミニふらりカフェ	[特]初詣に行こう/新年会 [GH]新年会/初詣 [有]初詣/新年会/書初	聖カタリナ大学(看護学科)
2	防犯訓練(松山南警察署) ミニふらりカフェ	[特]豆まき/バレンタイン/101・102歳お 祝い [GH]節分豆まき/バレンタイン [有]節分/バレンタイン	聖カタリナ大学(看護学科)
3	職員会 ふらりカフェ 運営推進会議 相談体験会(こころ塾)	[特]ひなまつり会/ホワイトデー/菜の花 ドライブ [GH]ひなまつり/買い物もの [有]ひなまつり	聖カタリナ大学(看護学科)
他	通年		委員会活動
	各事業所での誕生日会(昼食会) 各事業所でのイベント食(昼食会) おやつ・お茶の時間 レクリエーション(散歩・体操・音楽・風船バレーなど) 訪問理美容(3か所) 訪問マッサージ(随時) 訪問歯科診療(随時) 医師の回診 嘱託医2名 訪問販売(とくし丸、パン)		運営委員会 安全(事故防止)委員会 衛生管理委員会 身体拘束廃止委員会 高齢者虐待防止委員会 給食委員会 権利擁護・苦情相談委員会 入所判定委員会 各事業所スタッフ会議
	ボランティア等		
	[個人:定期]	[団体:定期] 和の歌ひろば おはなしえみさん	[個人:随時] 河原医療福祉専門学校生

10. 施設内、施設外研修の状況

【施設内研修】

月	研 修 名	参加人数	月	研 修 名	参加人数
4	介護システム(絆Core)操作説明会	12 名	10	職員会議	18 名
	新任/現任研修	7 名	11	褥瘡勉強会	32 名
	スカイリフト勉強会	8 名	12	看取り介護研修	15 名
5	第1回身体拘束虐待防止研修	13 名		感染症対策訓練	15 名
6	衛生管理:食中毒	21 名	1	第2回身体拘束虐待防止研修	10 名
	職員会議・法令遵守研修	21 名		労働法規勉強会	10 名
7	第1回リスクマネジメント研修	13 名	2	パーセルインデックス研修	13 名
				第2回リスクマネジメント研修	16 名
				緊急時対応研修	16 名
				メンタルヘルス研修	16 名
			3	職員会議・接遇研修	20 名

【施設外研修】

研修項目	小規模特養/ショートステイ		介護付有料		グループホーム	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数
介護	3	9	2	3	3	3
防災・防犯	1	1	1	1	0	0
人材育成・マネジメント	3	12	3	6	2	4
専門(スキル向上・資格等)	10	12	2	2	0	0
人事・労務管理	1	1	0	0	0	0
その他	11	13	0	0	0	0
小 計	29	48	8	12	5	7

研修項目	デイサービス		居宅介護支援		合 計	
	件数	人数	件数	人数	件数計	人数計
介護	0	0	0	0	8	15
防災・防犯	0	0	1	3	3	5
人材育成・マネジメント	1	1	0	0	9	23
専門(スキル向上・資格等)	2	2	13	18	27	34
人事・労務管理	0	0	0	0	1	1
その他	0	0	0	0	11	13
小 計	3	3	14	21	59	91

11. 職員の状況

部門等	前年度末	令和7年度当初			令和7年度中の状況			令和7年度末	常勤換算
		入職 (4.1付)	異動 (4.1付)	職員計	入職	異動	退職		
特養/短期	36	2	0	38	3	2/-6	3	34	32
(介護職)	22	1	0	23	3	2/-6	2	20	20
(看護職)	4	1	0	5	0	0	1	4	3.5
(その他)	10	0	0	10	0	0	0	10	8.5
介護付有料	20	0	0	20	3	4/-3	3	21	16.2
(介護職)	16	0	0	16	2	4/-3	3	16	12.3
(看護職)	2	0	0	2	0	0	0	2	2
(その他)	2	0	0	2	1	0	0	3	1.9
グループホーム	12	0	0	12	1	2/-1	1	13	12.8
デイサービス	8	0	0	8	0	0	1	7	6.2
居 宅	2	0	0	2	1	0	0	3	3
計	78	2	0	80	8	8/-10	8	78	70.2

医師等嘱託契約者の数は含めず【医師 2 名、歯科衛生士 1 名、作業療法士 2 名(デイ/特養/介護付有料)】

12. サービス別 利用状況一覧

小規模特別養護老人ホーム

定員29名・3ユニット（ユニット定員10名（1ユニットのみ9名））

項目/月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計又は平均
稼働日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
要介護	1	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	0	334
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	31	31	28	31	121
	3	150	173	167	142	124	120	124	120	124	124	112	155	1,635
	4	387	367	342	387	379	375	413	430	434	430	336	406	4,686
	5	280	278	269	319	335	300	289	283	243	262	280	274	3,412
総計	平均介護度	4.0	4.0	4.0	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.0	4.0	4.0	4.1	4.05
	延べ利用人数	847	849	808	879	869	825	857	863	863	878	784	866	10,188
	平均利用人数/1日	28.23	27.39	26.93	28.35	28.03	27.50	27.65	28.77	27.84	28.32	28.00	27.94	27.9
	稼働率	97.4%	94.4%	92.9%	97.8%	96.7%	94.8%	95.3%	99.2%	96.0%	97.7%	96.6%	96.3%	96.2%

ショートステイ

定員10名・1ユニット（ユニット定員10名）

項目/月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計又は平均
稼働日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
要介護	利用実人数	24	19	21	20	20	17	18	17	20	19	18	15	19.0
	1	33	12	22	46	47	40	47	53	39	40	36	38	453
	2	42	77	55	66	54	60	24	15	22	24	19	23	481
	3	55	85	88	111	95	84	131	131	127	107	153	135	1,302
	4	93	71	47	42	35	38	20	0	8	7	6	27	394
	5	28	26	23	25	50	53	54	83	83	77	50	65	617
	利用延べ人数計	251	271	235	290	281	275	276	282	279	255	264	288	3,247
	平均介護度	3.2	3.1	3.0	2.9	3.0	3.0	3.2	3.2	3.3	3.2	3.1	3.2	3.12
	平均利用人数/1日	8.37	8.74	7.83	9.35	9.06	9.17	8.90	9.40	9.00	8.23	9.43	9.29	8.90
要支援	利用実人数	3	1	0	1	1	1	1	0	0	1	0	0	0.75
	1	5	5	0	3	2	5	4	0	0	0	0	0	24
	2	9	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	14
	利用延べ人数	14	5	0	3	2	5	4	0	0	5	0	0	38
	平均介護度	0.4	0.4	0	0.4	0.4	0.4	0.4	0	0	0.4	0	0	0.23
	平均利用人数/1日	0.47	0.16	0.00	0.10	0.06	0.17	0.13	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.09
総計	平均介護度	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	3.0	3.0	3.2	3.3	3.2	3.1	3.2	3.07
	延べ利用人数	265	276	235	293	283	280	280	282	279	260	264	288	3,285
	平均利用人数/1日	8.83	8.90	7.83	9.45	9.13	9.33	9.03	9.40	9.00	8.39	9.43	9.29	9.0
	稼働率	88.3%	89.0%	78.3%	94.5%	91.3%	93.3%	90.3%	94.0%	90.0%	83.9%	94.3%	92.9%	90.0%

グループホーム

定員18名・2ユニット(ユニット定員9名)

項目/月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計又は平均
稼働日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
要介護	1	30	31	38	62	62	60	62	60	62	62	56	62	647
	2	150	150	92	98	124	120	74	88	62	62	59	93	1,172
	3	180	186	180	186	184	180	186	177	172	163	149	130	2,073
	4	180	180	180	186	186	180	186	180	248	241	211	236	2,394
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総計	平均介護度	2.9	2.9	3.0	2.9	2.9	2.9	3.0	2.9	3.1	3.1	3.1	3.0	2.98
	延べ利用人数	540	547	490	532	556	540	508	505	544	528	475	521	6,286
	平均利用人数/1日	18.00	17.65	16.33	17.16	17.94	18.00	16.39	16.83	17.55	17.03	16.96	16.81	17.2
	稼働率	100.0%	98.0%	90.7%	95.3%	99.6%	100.0%	91.0%	93.5%	97.5%	94.6%	94.2%	93.4%	95.7%

介護付有料老人ホーム

定員35名・30室(うち2人部屋5室)

22 未認定

項目/月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計又は平均
稼働日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
要支援	1	60	62	60	107	123	119	124	118	124	122	110	131	1260
	2	119	118	89	31	31	79	93	90	93	93	84	124	1044
要介護	1	240	230	221	263	276	217	242	180	196	217	196	216	2694
	2	249	279	300	279	248	240	261	270	279	302	245	217	3169
	3	229	242	180	186	209	180	186	180	158	168	168	155	2,241
	4	38	42	60	62	64	60	88	80	62	52	51	75	734
	5	0	0	0	61	50	30	31	60	37	31	28	31	359
総計	平均介護度	1.8	1.8	1.8	2.0	2.0	1.8	1.9	2.0	1.8	1.8	1.8	1.8	1.86
	延べ利用人数	935	973	910	989	1001	925	1025	978	949	985	882	949	11501
	平均利用人数/1日	31.17	31.39	30.33	31.90	32.29	30.83	33.06	32.60	30.61	31.77	31.50	30.61	31.51
	稼働率	94.4%	95.1%	91.9%	93.8%	95.0%	90.7%	97.2%	95.9%	90.0%	93.5%	92.6%	90.0%	93.4%

デイサービス

利用定員18名

項目/月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計又は平均
稼働日数		26	27	25	27	26	26	27	25	26	25	24	26	310
要介護	利用実人数	28	25	25	24	23	25	23	24	23	22	21	21	24
	1	201	199	178	212	193	204	185	191	173	180	166	177	2,259
	2	59	48	41	37	31	40	49	49	52	52	51	52	561
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	17	18	18	18	18	20	20	19	19	19	18	19	223
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	利用延べ人数	277	265	237	267	242	264	254	259	244	251	235	248	3,043
	平均介護度	1.4	1.4	1.4	1.3	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.39
	平均利用人数/1日	10.65	9.81	9.48	9.89	9.31	10.15	9.41	10.36	9.38	10.04	9.79	9.54	9.82
要支援	利用実人数	21	21	20	19	22	21	22	19	19	19	19	19	20.1
	1	50	54	53	51	50	57	53	54	64	54	54	61	655
	2	61	65	51	57	62	61	62	34	29	30	35	35	582
	利用延べ人数	111	119	104	108	112	118	115	88	93	84	89	96	1,237
	平均介護度	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.40
	平均利用人数/1日	4.27	4.41	4.16	4.00	4.31	4.54	4.26	3.52	3.58	3.36	3.71	3.69	3.98
総計	平均介護度	1.1	1.1	1.1	1.1	1.0	1.1	1.1	1.1	1.2	1.2	1.2	1.1	1.12
	利用延べ人数	388	384	341	375	354	382	369	347	337	335	324	344	4,280
	平均利用人数/1日	14.92	14.22	13.64	13.89	13.62	14.69	13.67	13.88	12.96	13.40	13.50	13.23	13.80
	稼働率	82.9%	79.0%	75.8%	77.2%	75.6%	81.6%	75.9%	77.1%	72.0%	74.4%	75.0%	73.5%	76.7%

居宅介護支援事業所

項目/月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計又は平均
介護支援専門員数		2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	2.3
要介護	1	24	22	22	22	23	23	22	24	23	26	27	28	286
	2	8	9	7	6	6	7	8	8	8	11	11	12	101
	3	11	10	16	13	14	14	15	13	12	16	15	17	166
	4	6	3	3	6	5	4	2	3	4	6	6	6	54
	5	3	6	5	4	3	3	3	4	4	8	7	7	57
	介護 利用人数	52	50	53	51	51	51	50	52	51	67	66	70	55.3
	介護 稼働率	74.3%	71.4%	75.7%	72.9%	72.9%	72.9%	71.4%	74.3%	72.9%	95.7%	94.3%	100.0%	79.0%
要支援	1	15	15	17	17	16	15	15	15	16	16	16	15	188
	2	7	7	7	7	7	7	8	7	7	7	7	7	85
	予防 利用人数	22	22	24	24	23	22	23	22	23	23	23	22	22.8
	予防 稼働率	137.5%	137.5%	150.0%	150.0%	143.8%	137.5%	143.8%	137.5%	143.8%	143.8%	143.8%	137.5%	142.19%
総計	介護+予防 利用人数	74	72	77	75	74	73	73	74	74	90	89	92	76.8
	介護+予防 稼働率	86.0%	83.7%	89.5%	87.2%	86.0%	84.9%	84.9%	86.0%	86.0%	104.7%	103.5%	107.0%	90.8%